大阪府埋蔵文化財調査報告2005－7

新上小阪遺跡

府営東大阪新上小阪住宅建替（第１期）
地下雨水貯留槽工事に伴う調査

２００６年３月

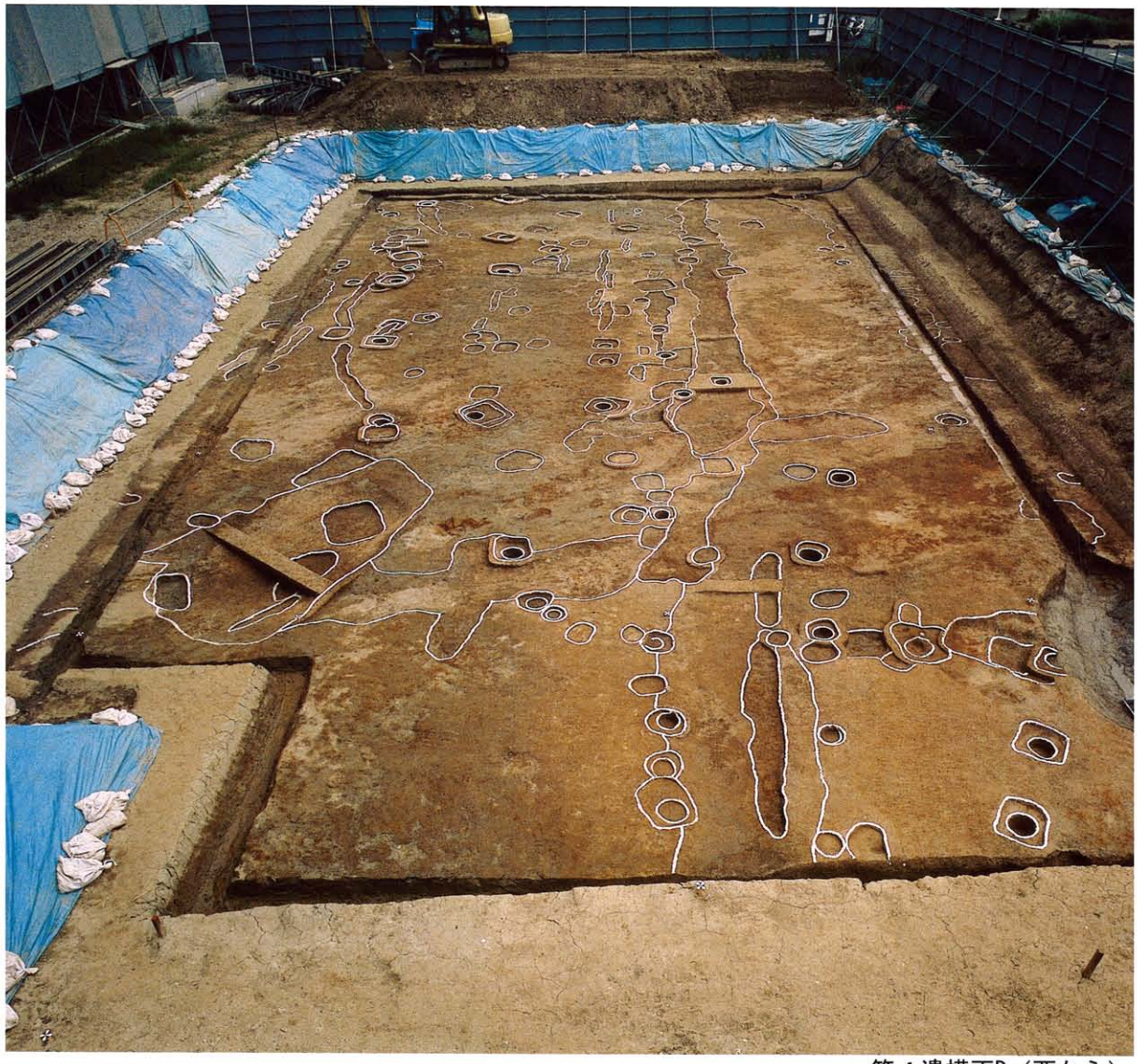
大阪府教育委員会

新上小阪遺跡

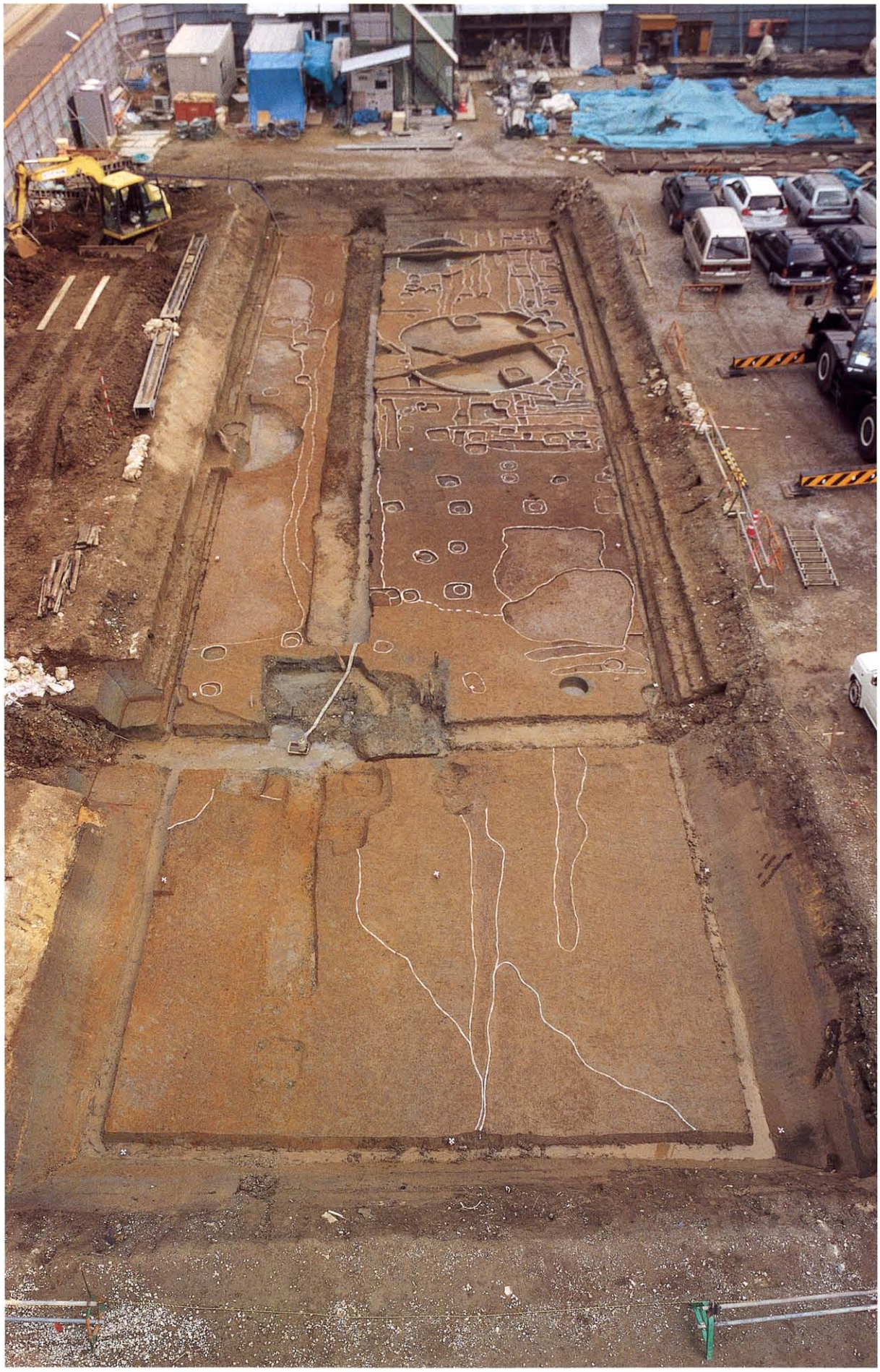
府営東大阪新上小阪住宅建替（第１期）
地下雨水貯留槽工事に伴う調査

２００６年３月

大阪府教育委員会



第４遺構面D（西から）



第４遺構面A（西から）

はじめに

大阪府東大阪市・八尾市を中心とした河内平野南半部には奈良・平安時代の遺跡が点在する。瓜生堂遺跡には建物群、萱振遺跡には建物群や瓦の出土がある。そして、東側を京から南河内へと南北に貫く河内街道と楠根川沿いには若江寺や西郡廃寺、巨摩廃寺といった寺院が並んでいた。

こうした歴史環境の中、平成11年度に東大阪市新上小阪の低湿地においても、古代集落が存在することを確認した。府営住宅の建替え第１期工事に伴った平成13年度の調査ではその奈良・平安時代の屋敷地の具体的な姿がより明らかになった。その後、住宅本体建設に伴った南北の地下雨水貯留槽が設置されることになり、平成15年度に発掘調査したのが本報告分である。

その結果、掘立柱建物群は大きく３期に分けることができることから、屋敷地の変遷が追えるとともに、その周囲の西・南・北に区画があることが判明した。

現在、第２期工事に伴う発掘調査が財団法人　大阪府文化財センターによって実施されており、その東側の様相も明らかになりつつある。低湿地の微高地を中心に居を構え、周囲に耕作地が展開するという構造は、河内平野開発の一端を垣間見る一つのモデルとなるものである。また、この時期に限らず、弥生時代以降の平野灌漑の歴史背景を考える上でも重要な意味をもつ遺跡である。今後、調査が周辺域に広がることでより鮮明な具体像を描くことができるよう期待したい。

調査にあたっては、地元東大阪市教育委員会や財団法人　大阪府文化財センター、大阪府建築都市部、地元自治会各位をはじめとする多くの関係者の方々にご協力いただいた。深く感謝するとともに、今後ともこの遺跡における文化財保護行政にご理解、ご協力と上記のような歴史的環境を地域に生かすことで保護・保全・活用に向かうようお願いする次第である。

平成18年３月

大阪府教育委員会文化財保護課長
丹上　務

例　　言

1．本書は、大阪府教育委員会が、大阪府建築都市部の依頼を受け、府営住宅（建替）建設工事に伴い、平成15年度に実施した東大阪市新上小阪所在の新上小阪遺跡の発掘調査報告書である。調査番号は03022である。

2．調査は、文化財保護課　調査第一グループ　総括主査　岩崎二郎、主査　一瀬和夫が担当した。

3．調査に要した経費は、大阪府建築都市部が負担した。

4．調査の実施にあたっては、東大阪市教育委員会、大阪府建築都市部をはじめとする諸機関、関係諸氏の協力を得た。

5．本書の編集は、一瀬が担当し、執筆は調査担当者の他、参加者が分担した。

6．本書に使用した写真測量については、和歌山航測株式会社に委託した。

7．本報告は、300部を作成し、一部あたりの単価は1,848円である。

目　　次

巻頭カラー図版

はしがき
例言
目次

第１章　調査に至る経過 …… 1

第２章　検出遺構 …… 3
　第１節　基本層序 …… 3
　第２節　遺構面の状況 …… 9

第３章　出土遺物 …… 22
　第１節　１区出土遺物 …… 22
　第２節　２区出土遺物 …… 32

第４章　まとめ …… 46

写真図版

報告書抄録

挿　図　目　次

図１　調査位置 …… 2
図２　１区　南壁東西土層断面 …… 5・6
図３　２区　南壁東西土層断面（東洋） …… 7・8
図４　１区　第３遺構面C・D、第４遺構面A平面 …… 11
図５　１区　第４遺構面B・C・E平面 …… 12
図６　１区　第４遺構面D平面 …… 13・14
図７　１区　第５遺構面B・C・D平面 …… 15

図８　２区　第１遺構面、第２遺構面A、第３遺構面A平面 ……16
図９　２区　第３遺構面B・C・D平面……17
図10　２区　第３遺構面E・F、第４遺構面B平面 ……18
図11　２区　第４遺構面A平面 ……19・20
図12　２区　第４遺構面C、第５遺構面平面 ……21
図13　出土瓦他 ……22
図14　１区　出土須恵器　杯・高杯・平瓶・甕（表１） ……23
図15　１区　出土須恵器　壷（表２） ……25
図16　１区　出土土師器　杯・皿（表３） ……26
図17　１区　出土土師器　甕・鉢（表４） ……28
図18　１区　出土土師器　鍔甕・土釜・杯・黒色土器（表５） ……30
図19　１区　出土土師器　高杯、陶器（表６） ……31
図20　２区　出土須恵器　杯・壷蓋（表７） ……34
図21　２区　出土須恵器　甕・壷（表８） ……36
図22　２区　出土土師器　杯（表９） ……37
図23　２区　出土土師器　杯・杯蓋・皿（表10） ……39
図24　２区　出土土師器　高杯・黒色土器・瓦器・陶磁器（表11） ……41
図25　２区　出土土師器　鍔甕・土釜（表12） ……42
図26　２区　出土土師器　甕（表13） ……43
図27　２区　出土土師器　鉢（表14） ……45
図28　古代屋敷地範囲の変遷 ……47・48

表　目　次

表１　１区　出土須恵器　杯・高杯・平瓶・甕 ……24
表２　１区　出土須恵器　壷 ……25
表３　１区　出土土師器　杯・皿 ……27
表４　１区　出土土師器　甕・鉢 ……29
表５　１区　出土土師器　鍔甕・土釜・杯・黒色土器 ……30
表６　１区　出土土師器　高杯、陶器 ……31
表７　２区　出土須恵器　杯・壷蓋 ……35
表８　２区　出土須恵器　甕・壷 ……36
表９　２区　出土土師器　杯 ……38
表10　２区　出土土師器　杯・杯蓋・皿 ……40

表11　2区　出土土師器　高杯・黒色土器・瓦器・陶磁器……41
表12　2区　出土土師器　鍔甕・土釜……42
表13　2区　出土土師器　甕……44
表14　2区　出土土師器　鉢……45

図　版　目　次

巻頭カラー図版1　1区　第4遺構面D
巻頭カラー図版2　2区　第4遺構面A
図版1　1区　南壁中央　第3遺構面C　第3遺構面D
図版2　1区　第3遺構面D　第4遺構面A　第4遺構面B土坑38
図版3　1区　第4遺構面B掘立柱列　第4遺構面B
図版4　1区　第4遺構面B　第4遺構面D
図版5　1区　第4遺構面D　第4遺構面B　SE22
図版6　1区　第4遺構面D
図版7　1区　第4遺構面C　SD63　第4遺構面F　第5遺構面A
図版8　1区　第5遺構面B足跡　第5遺構面B西半　第5遺構面B東側鋤跡
図版9　1区　第5遺構面C中央　第5遺構面C　第5遺構面D西側
図版10　1・2区　1区第5遺構面D流水層　2区南壁中央　第1遺構面
図版11　2区　第2遺構面A　第3遺構面A　SE120　木樋暗渠
図版12　2区　第3遺構面B　第3遺構面C　第3遺構面C下面
図版13　2区　第3遺構面C下面下層　第3遺構面C下面東側下層　第4遺構面A東半検出状況
図版14　2区　第4遺構面A
図版15　2区　第4遺構面A
図版16　2区　第4遺構面A東側　第4遺構面A中央
図版17　2区　第4遺構面A西側　第4遺構面A
図版18　2区　第4遺構面A　第4遺構面A中央　掘立柱建物上面　掘立柱建物掘下げ
図版19　2区　第4遺構面A東側　東西溝　第4遺構面B東側　掘立柱建物　掘立柱礎板
図版20　2区　第4遺構面B中央　掘立柱内遺物出土状況　第4遺構面A東洋中央　掘立柱断割り状況と第4遺構面B　第4遺構面B
図版21　2区　第4遺構面B　第4遺構面C　第5遺構面

第１章　調査に至る経過

本調査区は東大阪市新上小阪の府営東大阪新上小阪住宅内にあり、建替えに伴って平成11年度に佐久間貴士を担当とし、試掘調査を実施した（調査番号99022）（注１）。

第１期工事用地の東側中央を５×５ｍの調査区を設けて調査を行い、古墳時代から鎌倉時代にかけての瓦器・土師器・黒色土器・須恵器、瓦などが出土した。このことにより、新たな遺跡であることを確認することになった。また、これより下層のT.P.1.90m付近においても、十数片の骨を包含した弥生時代後期相当層も認められた。

この遺跡のある河内平野南半部には古代集落が点在する。その古代には若江郡錦織郷に属したであろうこの周囲の状況を見ると、北々東の瓜生堂遺跡には８世紀の掘立柱建物群。南方の美園遺跡には７世紀代の遺物の出土、南東の萱振遺跡には８世紀の掘立柱建物群の検出や瓦の出土がある。これらの遺跡は、南の小阪合・東郷遺跡から現・楠根川に併行して流れたであろう流路に沿って連なっていたと考えられる。一方、それら楠根川沿いと東側を南北に貫く河内街道とに沿って若江寺や西郡廃寺、巨摩廃寺といった寺院もまた並んでいたことになる。

本調査地点はそうした主幹道がはしる微高地からは西へと下る傾斜面上に立地する。そのため、基本的には粘土堆積が多い地点である。その中にあって、南東から北西に砂層の発達を伴った微高地がわずかに張り出す部分がある。それが、府営東大阪新上小阪住宅敷地の第１期建替工事にあたる北西部分に認められ、これを中心として遺跡が展開することが上記の結果から予期されたのである。

このことから追って、平成13年度に、本府教育委員会は高層住宅本体の基礎掘削部分について、全面発掘調査を実施する必要が生じ、財団法人　大阪府文化財調査研究センターに指示することになった。

その調査の結果、試掘調査で確認した古代の掘立柱建物・溜め井状遺構といった表層部分の遺構面だけでなく、それよりさかのぼる弥生時代中期前半の落込みや祭祀的な土坑・掘立柱建物、古墳時代前期の掘立柱建物などといった遺構の検出もあり、各時代の遺構面が複合する遺跡であることが明らかとなった（注２）。

この調査後、第１期高層住宅部分本体建設中、これに伴った南北それぞれ１つずつ地下雨水貯留槽が設置されることになり、地下遺構を損壊する可能性が生じたため、工事と併行して貯留槽工事の掘削が及ぶ部分までの追加調査を本府教育委員会が行うことになったのが、本報告分の調査である。

調査は、南側貯留槽部分を１区、北側のものを２区として実施した。　（一瀬）

（注１）大阪府教育委員会　2001　『大阪府教育委員会文化財調査事務所年報』４

（注２）財団法人　大阪府文化財センター　2003　『新上小阪遺跡―大阪府営東大阪上小阪（第１期）住宅（建て替え）建設工事に伴う埋蔵文化財発掘調査』財団法人　大阪府文化財センター調査報告書　第94集

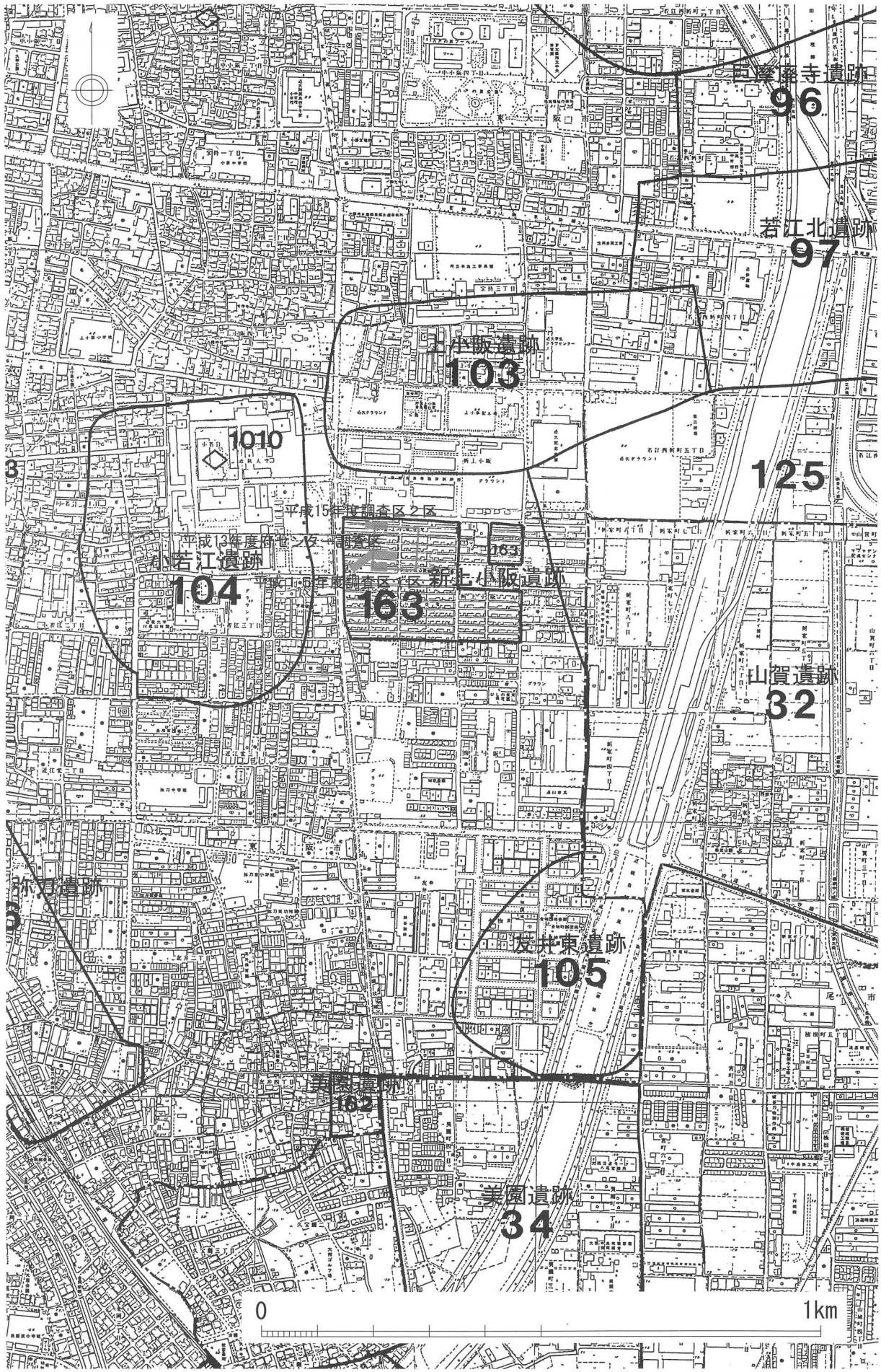

西摩寺遺跡
96
若江北遺跡
97
上小阪遺跡
103
1010
125
平成15年度調査区ク区
平成13年度調査区タ区
163
小若江遺跡
104
平成16年度調査区ケ区
新上小阪遺跡
163
山賀遺跡
32
弥刀遺跡
友井東遺跡
105
美園遺跡
162
美園遺跡
34
0
1km

図１　調査位置

第２章　検出遺構

第１節　基本層序

１.１区

１区の現地表はT.P.4.3mで、地表下0.7mまで盛土、下に旧耕土があり西に下降する（第２遺構面）。その下は調査区南東に島畠の高まりがある。その部分は暗黄灰・褐色の粘質シルト・粗砂を中心とし、基本的には３層からなる盛土が0.5mあり、低いところでは0.1mの厚さとなる（第３遺構面）。その下は灰オリーブ粘・砂質シルトを基本とし、下ほど砂質がかり、主に調査区南側で発達する（第４遺構面Ａ・Ｂ）。黄褐色粘質シルトを基本とし、これも下部に移る程、砂質がかる（第４遺構面Ｃ・Ｄ）。第４層は0.1～0.5mの厚さがあり、相対に南・西側部分が厚くなり、T.P.3.0mを前後する。その下は河川状堆積となり、上部は0.3～0.5mの厚さの灰・灰オリーブ系の色調に粘質シルト～細砂主体の土質となる。下部はオリーブ黒の粘質シルト～微砂が主で、足跡がよく残る（第５遺構面）。これより下は、細砂をはさみ、灰色を基本とした粘質シルトの上部からT.P.2.0m前後に至って粗砂となる。

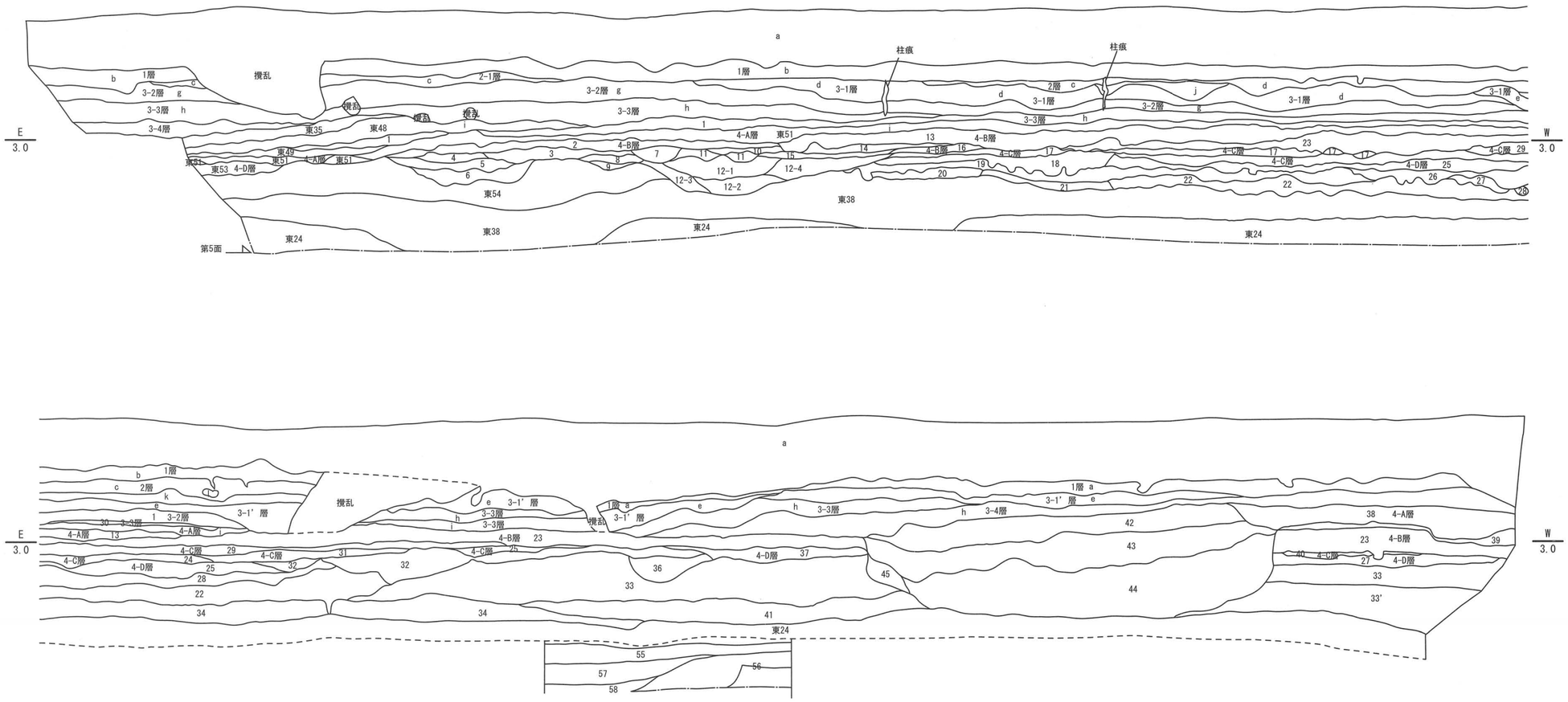
各遺構面はセンター調査分の第１～５面に概ね相当するが、主に東西方向で細分でき、遺構面の数に違いがある。また、これより下は貯水槽の掘削深度がおおむね地表下2.2m、T.P.2.0mをであり、第５遺構面を４細分して調査を終了している。

２.２区

１区は第５層砂が微高地状に北西方向に張り出すのに対して、相対的に北西に向かって低くなっている。これに対して、２区は東側北方向に張り出し、その周囲は粘土が多い。２区の現地表はT.P.3.7mで、地表下0.5m前後が造成盛土である。１区に比べ、既設の建物基礎と水路の攪乱がはなはだしい。主に中央北よりに東西方向、西よりに南北方向の水路を中心として下部は損壊を受ける（第１遺構面）。この東西水路から北側は相対的に低くなっており、この高低差、これはおそらく下部の砂と粘土の構成層に由来するのであろうが、基本的には第４遺構面の区画からもたらされたものと考えられる。そうした盛土下には旧耕土があり、南側の中央から西が高く、周囲に下降し、島畠を形成する（第２遺構面）。この面の下では、灰オリーブ粘土系の旧耕作土面が少なくとも７枚残り、特に、北半では東西方向を主とした畦畔及び、北へ降る段差が残り、１区と様相を異にして水田域が多く占める。島畠状の耕作面を中心として第３遺構面は７面に細分して、調査することになった。

その下は灰オリーブ粘・砂質シルトを基本とし、下ほど砂質がかり、１区と同様、主に調査区南側で発達する（第４遺構面Ａ・Ｂ）。南側中央のＡ下面は、遺物を大量に含んだ暗緑灰色粘土を敷きならして整地しているのが特徴である。その下はにぶい黄褐色微砂・粘質シルトを基本と

し、これも下部に移る程、砂質がかる（第４遺構面Ｃ）。下層はT.P.2.2mを前後するところまで河川状堆積となる（第５遺構面）灰オリーブ系の色調に粘質シルト～細砂主体の土質となり、下ほど褐色がかる。下部はオリーブ黒の粘質シルト～微砂が主である。これより下は、調査掘削は行っていないが、１区と層順的には同様な傾向を示す。（一瀬）

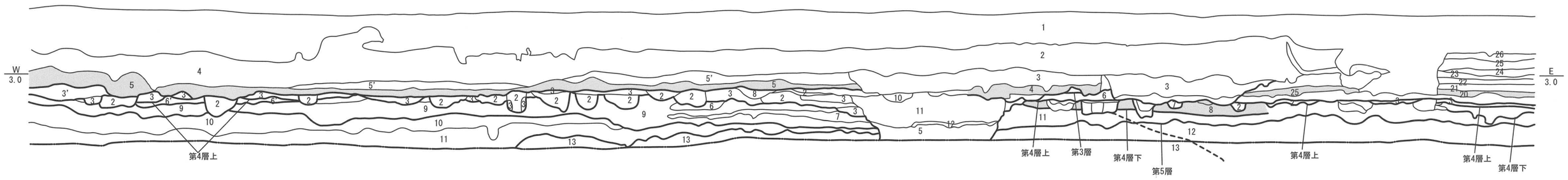


a　にぶい黄褐～灰白色極粗砂～砂質シルト　極粗砂～細礫多く含む　上部はやや灰白色で大粒の砂礫より多く含む
b　にぶい黄～黄灰色砂質シルト　粗砂～砂礫含む
c　オリーブ黄～オリーブ灰色砂質シルト～極粗砂　極粗砂～細礫を僅かに含む
d　灰黄色粘質シルト～極細砂　粗砂～極粗砂含む
e　灰黄～暗灰黄色粘質シルト～極細砂　hより暗灰黄色粘質シルト多く含む
f　eよりも粘性弱い
g　暗黄灰～黄褐色粘質シルト～極粗砂　粗砂～極粗砂含む
h　暗灰黄色シルト～極細砂　極細砂～粗砂含む
i　灰オリーブ色シルト　粗砂～極粗砂含む
j　黄褐色粘質シルト　Fe粒状に沈着
k　にぶい黄色粘質シルト　細砂若干含む
l　灰白色細砂～粘質シルト　細礫含む

1　灰オリーブ色粘質シルト　鉄分斑状に沈着、細砂含む
2　灰オリーブ色粘質シルト～細砂　粗砂含む、鉄分沈着
3　灰オリーブ色粘質シルト～細砂　粗砂多く含む、鉄分沈着
4　暗オリーブ色粘質シルト～シルト　鉄分沈着が5より少
5　にぶい黄褐色粘質シルト～シルト　鉄分斑状に沈着（6より少ない）
6　暗オリーブ色粘質シルト～シルト　鉄分多く沈着、中央部に粗砂多く含む
7　オリーブ褐色粘質シルト～細砂
8　にぶい黄褐色粘質シルト～細砂　若干粗砂含む
9　赤褐色粘質シルト～細砂　Fe沈着
10　暗灰黄色粘質シルト～粗・細砂
11　暗灰黄色粘質シルト～粗細砂多く含む、Fe20%沈着
12-1　灰黄色粗～細砂　Fe沈着
12-2　黄褐色粗～細砂　Fe沈着
12-3　黄褐色細砂
12-4　灰黄色粘質シルト
13　暗灰黄色粘質シルト～細砂若干含む、Fe20%
14　暗灰黄色13よりやや暗色　粘質シルト～細砂13よりやや多く含む、Fe30%
15　灰オリーブ色粘質シルト～粗・細砂13・14より多く含む、Fe20%
16　灰オリーブ色粘質シルト～細砂15より少なく13・14より多い、Fe10%
17　にぶい黄色粘質シルト～粗細砂が多い、Fe多く沈着
18　黄褐色細～粗砂　12の砂と同一
19　暗褐色粘質シルト～細砂　Fe多い、上面に踏込面をもつ
20　暗灰褐色粘質シルト～細砂（東38に含まれるものと同一）
21　黄褐色細砂を多く含む粘質シルト
22　灰色粘土～東38細砂を中央部に水平に含む
23　にぶい黄褐色粘質シルト～細砂　Fe多い
24　黄褐色細砂～粗砂（少）12・18と同一のもの
25　にぶい黄褐色シルト+24微砂の水平ラミナ
26　19と同系のもの　下面に踏込面をもつ　Fe多い
27　22の細砂　一部Fe（粒状）
28　26の粗細砂　踏込の一つか？
29　暗灰黄色粘質シルト～粗砂・土器片含む、Fe垂直方向に沈着
30　灰黄色粘質シルト　粒状にFe
31　暗灰黄色粘質シルト～粗砂細砂　Fe30%
32　褐色粘質シルト～細砂（下部に粗砂混る）Fe70%
33　灰オリーブ色細砂（右下斜方向ラミナ）Fe50%、一部黄褐色細砂混る
33'　灰オリーブ～黄褐色細砂（水平ラミナ）18と同系のもの
34　オリーブ黒色粘質シルト～微砂少し含む
35　暗灰黄色粘質シルト～細粗砂（29より粗砂多い）
36　褐色細砂　Fe（全体）
37　暗灰黄色粘質シルト　垂直方向にFe沈着
38　オリーブ褐色粘質シルト～微砂　Fe40%（粒状）
39　オリーブ褐色粘質シルト～微砂　38よりFe少ない
40　暗灰黄色粘質シルト～細砂
41　灰色粗～細砂（水平ラミナ）～一部同色粘質シルト（水平堆積）
42　オリーブ褐色粘質シルト～細砂　垂直方向にFe40%
井戸22 { 43　黄褐色粘質シルト～細砂
44　暗オリーブ色粘土　上部に垂直方向のFe、一部細砂混る
45　褐色粘質シルト　中央に細～粗砂混る（斑状）
55　暗灰色粘質シルト
56　暗オリーブ灰色粘質シルト
57　灰～暗オリーブ色粘質シルト（泥土状）有機物含む
58　暗オリーブ灰～灰色砂質シルト

0m　5m

図２　１区　南壁東西土層断面



1　盛土
2　灰オリーブ色粘土シルト
3　暗オリーブ灰色粘土やや微砂　鉄分含む。
3'　暗オリーブ灰色粘土微砂
4　暗緑灰色粘土微砂
5　灰オリーブ色粘土砂　マンガン含む。
5'　暗灰黄色粘土　マンガン含む。
6　暗オリーブ色砂利
6'　にぶい黄褐色微砂粘土
7　灰オリーブ色砂
8　暗緑灰色粘土　角閃含む。
9　灰オリーブ色粘土微砂
10　オリーブ褐色砂　粘土含む。僅かに粗砂。
11　オリーブ黒色粘土やや微砂
12　灰オリーブ色粘土微砂

1　灰オリーブ色シルトにやや粘土混る。多量の鉄分含む。
2　灰オリーブ色粘土にシルト含む。多量に鉄分含む。
3　暗オリーブ灰色粘土にやや微砂混る。鉄分含む。
4　暗緑灰色粘土に微砂混る。所々に鉄分含む。
5　暗オリーブ灰色粘土
6　暗オリーブ色砂利
7　灰オリーブ色砂
8　暗緑灰色粘土　角閃含む
9　暗緑灰色粘土
10　灰オリーブ色粘土
11　灰オリーブ色粘土　やや微砂含む
12　灰オリーブ色粘土に微砂混る
13　灰オリーブ色粘土に微砂混る
14　灰オリーブ色シルトに粘土含む
15　灰オリーブ色粘土にシルト混る
16　オリーブ灰色粗砂
17　灰黄灰色粘土　やや微砂混る
18　灰オリーブ色粘土　微砂混る
19　オリーブ黒色粘土　焼土含む
20　灰オリーブ色粘土
21　暗オリーブ色粘土　ややシルト含む
22　暗オリーブ色粘土にシルト含む
23　灰オリーブ色粘土にややシルト含む
24　灰オリーブ色粘土にややシルト含む
25　灰オリーブ色粘土にシルト含む
26　灰オリーブ色粘土にシルト含む

図３　２区　南壁東西土層断面（東半）

第２節　遺構面の状況

１.１区

この調査区の第１遺構面は、北側、東西方向に構造物があった。第２遺構面は、それを境に溜池状のものが存在し、北半部が落込み、西側でも一段落込む状況であった。第３遺構面は島畠が南東部分から順次、拡大されていく。

第３遺構面C　東西溝とそれに沿って畦畔が伴い、南西側には南北方向の小溝があった。

第３遺構面D　中央に幅3.5mほどの東西溝が、その南側には併行して小溝があった。

第４遺構面A　第３遺構面とは異なり、北側が高く、段をもつ。

第４遺構面B　高くなった北側を中心に整地層が見られ、土坑、掘立柱があった。南半には牛の足跡が顕著に残り、それと併行して掘立柱列があり、南西隅に井戸が認められた。

第４遺構面C　中央やや南側でL字形の東西溝があり、北側整地層の範囲はその溝まで及ぶ。東西溝の北側には併行して小溝があるとともに、土坑、掘立柱、落込みを検出した。

第４遺構面D　溝と土坑が連なり、L字形の区画が明瞭に確認でき、その区画の南西隅には掘立柱建物が復元できる。

第４遺構面E　南半に東西方向の落込み、北西部にも東西方向の小溝があり、その北側に南北方向の小溝が併行して存在した。

第５遺構面B　西半と西側で北北西－南南東、東側で北北東－南南西方向の流路が見られ、主に北北西－南南東方向のものに足跡、鋤跡が良好に認められた。

第５遺構面C　全面に流路であるが、中央に北北西－南南東方向の高まりがあり、ピットと小溝が残っていた。

第５遺構面D　中央が北北西－南南東方向の流路の中心となり、調査区全体にくぼむ。

２.２区

この調査区は、第１遺構面の構造物がちょうど調査掘削深度まで及んでいた。

第１遺構面　中央北側、東西方向に水路があり、その南側に構造物が集中する。西側にも南北方向の水路がある。

第２遺構面A　中央東側の畔から西半がやや高くなり、北側で東西方向の畔が取り付く。その西側北端でこの畦畔を切って木樋暗渠が南北方向にあり、南に接してある木組みの枡とセットになると考えられる。

第３遺構面A　西半が高くなり、北側で落ち、方形の島畠となっている。その北東隅に桶を利用した井戸があった。

第３遺構面B　西半の島畠下部の北東に東西方向の小溝がある。

第３遺構面C　幅0.8mほどの東西溝を中心として、南北に東西溝が併行していた。中央から南側

は西が高く、間隔をおいて3条ある南北溝を会して東へわずかづつ降る雛壇を呈する。

第3遺構面D　全体に水平面をなし、東西溝が併行するが、南東部は耕作区画が変わり、土坑を伴う。

第3遺構面E　全体に幅1.5mほどの東西溝が中央と南側にある。

第3遺構面F　南東側に南北から東北東へ向かう谷状の落込みがあり、その中央に径6.0mの円形の井戸が存在した。

第4遺構面A　中央南側東よりのところで南北方向に、東側中央で東西方向に多量の土器、瓦類を混ぜた整地層が認められ、特に、前者には掘立柱建物がのる。それに伴って、方形の土坑も存在する。

第4遺構面B　東側中央では幅3.5mの東西溝が存在し、南側の建物群を明瞭に区画する。南東側にある東西南北の小溝の分布は範囲が狭まり、高いところのみ残る。土坑、掘立柱、落込みが密集していた。

第4遺構面C　東側中央に長方形土坑、それに沿って掘立柱列が南側にある。それより、南側の未調査地側は掘立柱建物が集中するようである。

第5遺構面　調査区中央で、流路堆積下に南西－北東、南東－北西方向に畔があり、十字に交差する。

（一瀬）

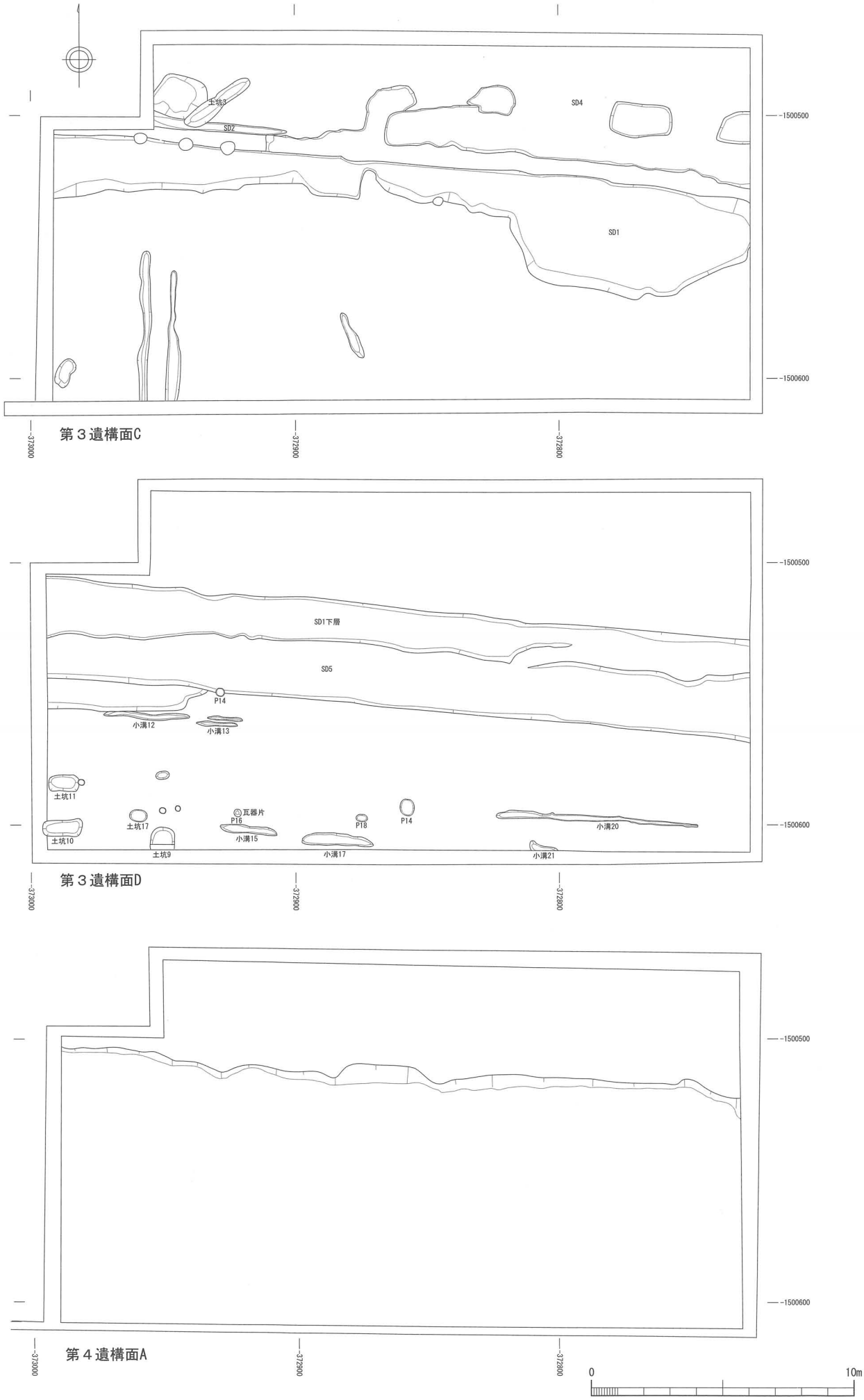
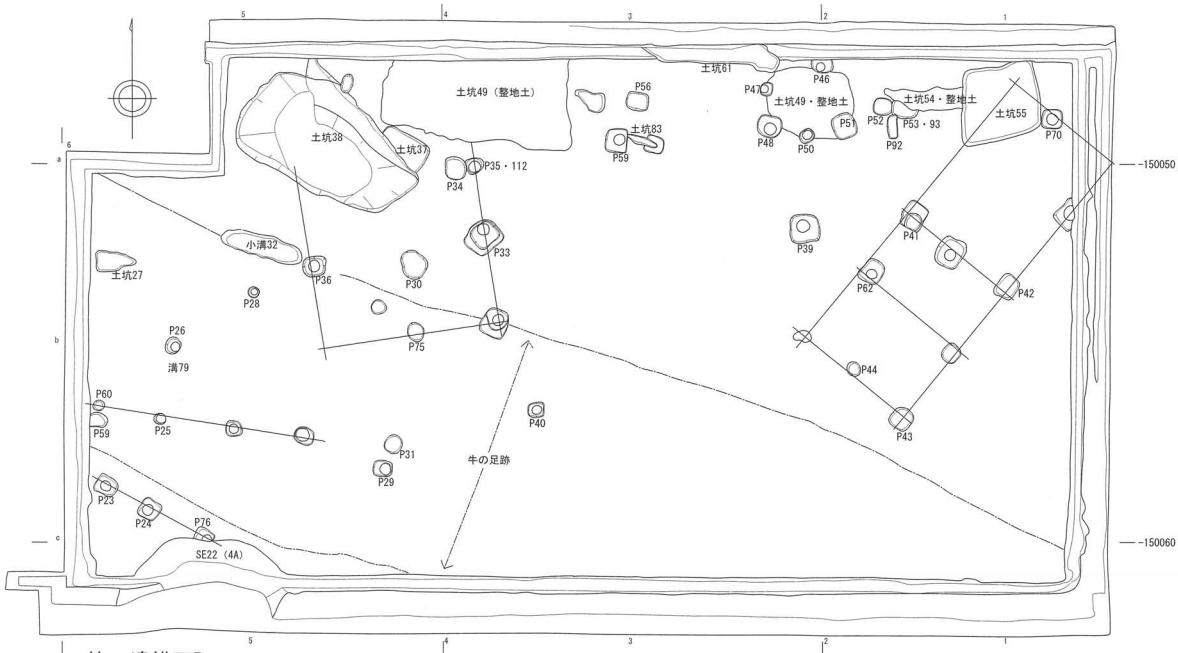
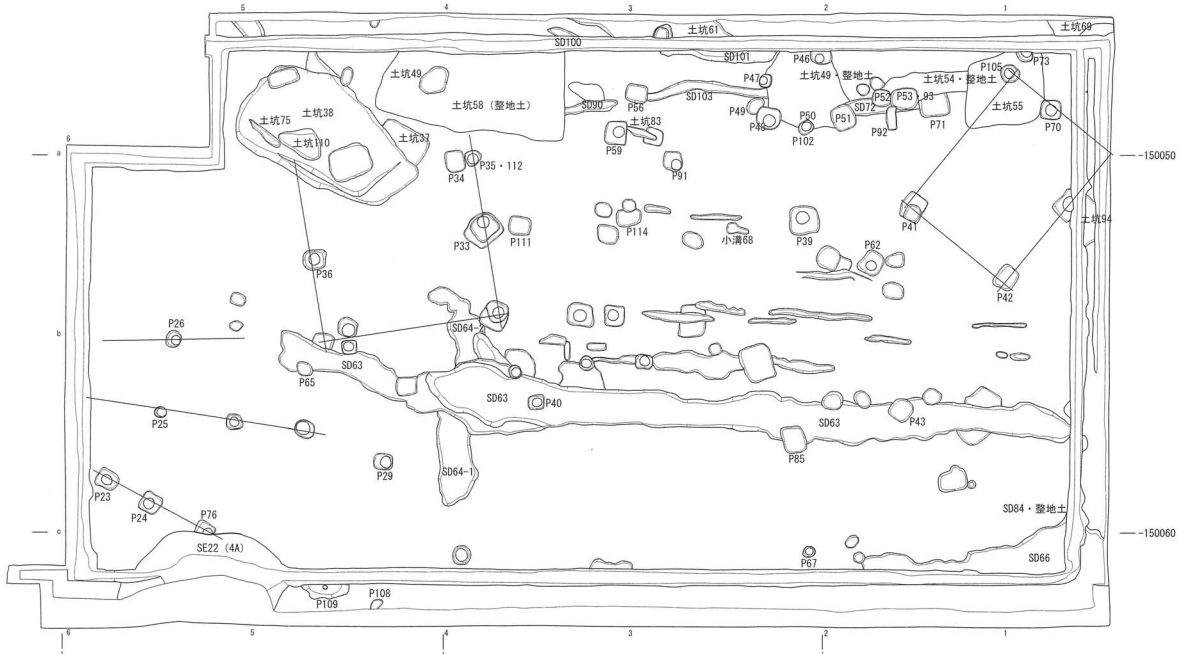


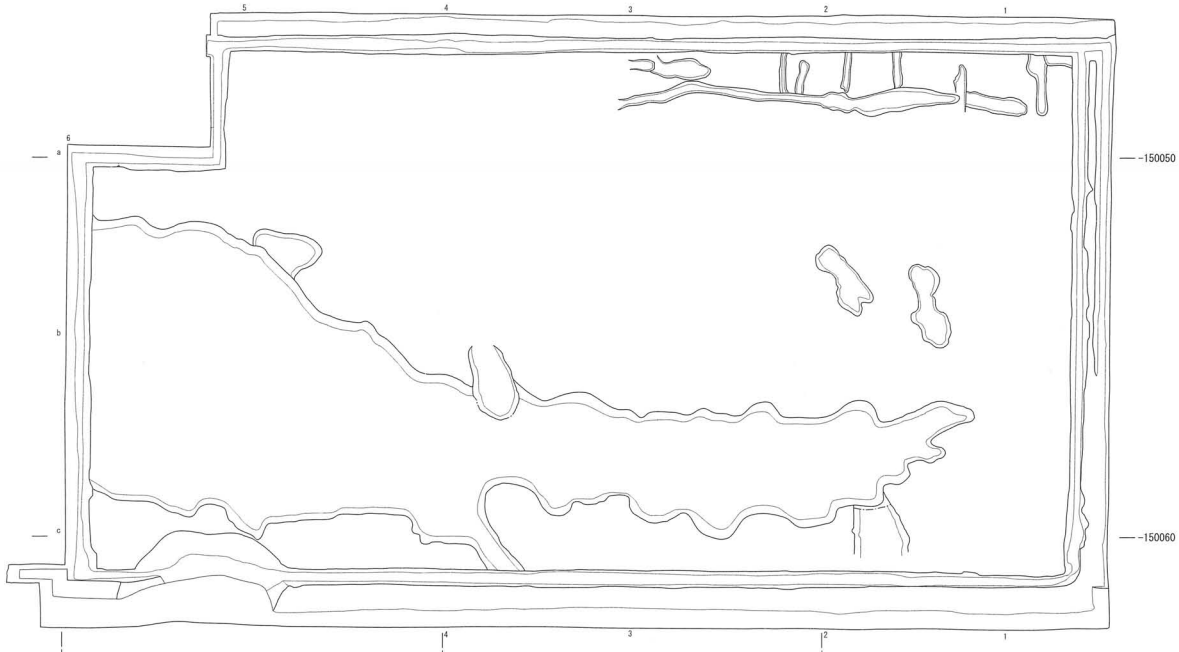
図４　１区　第３遺構面C・D、第４遺構面A平面



第４遺構面B



第４遺構面C



第４遺構面E

図５　１区　第４遺構面B・C・E平面

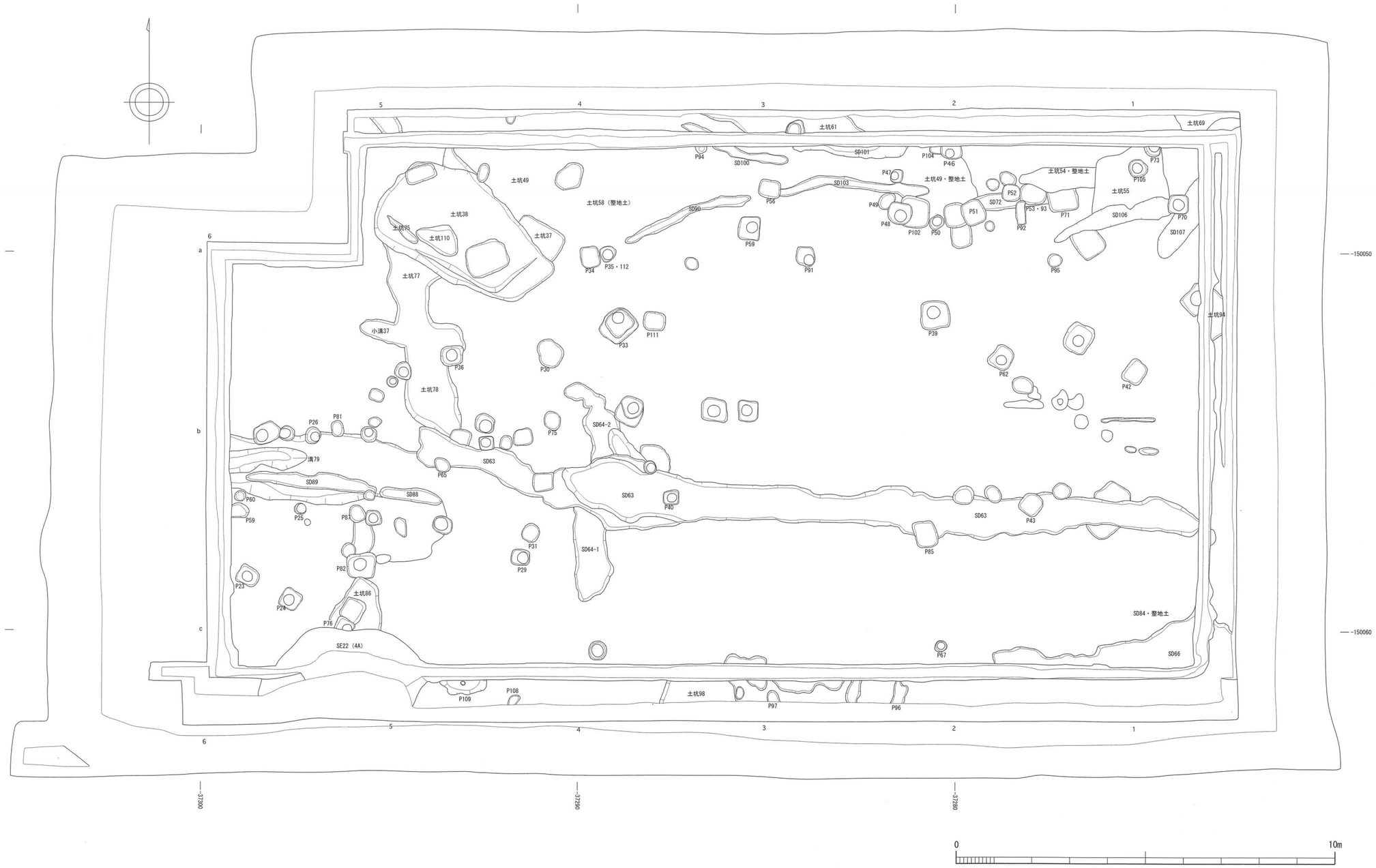
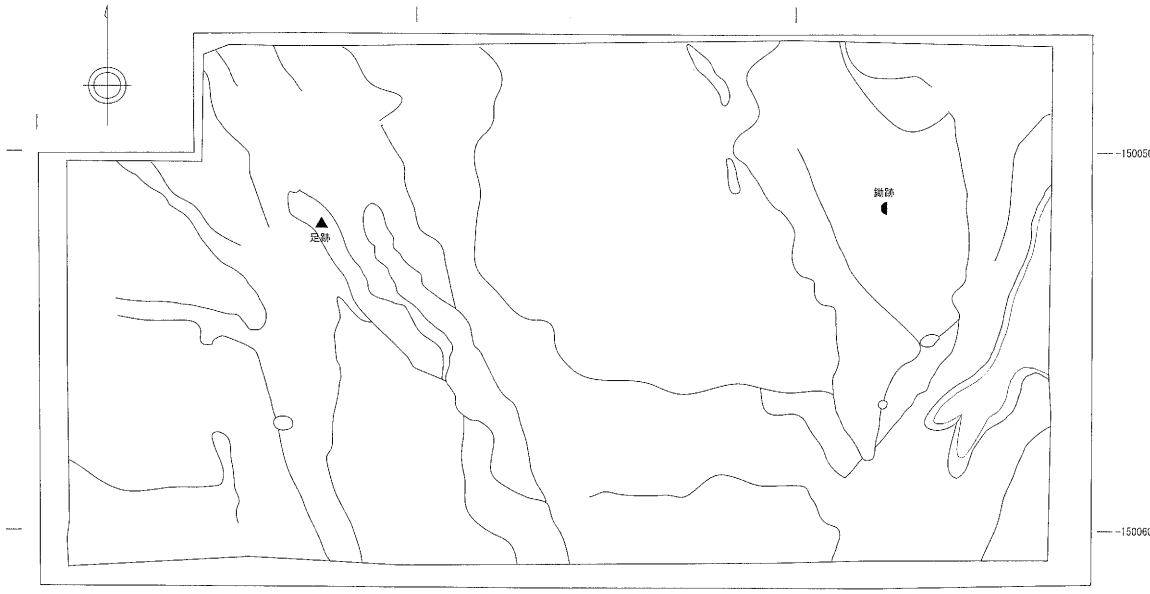
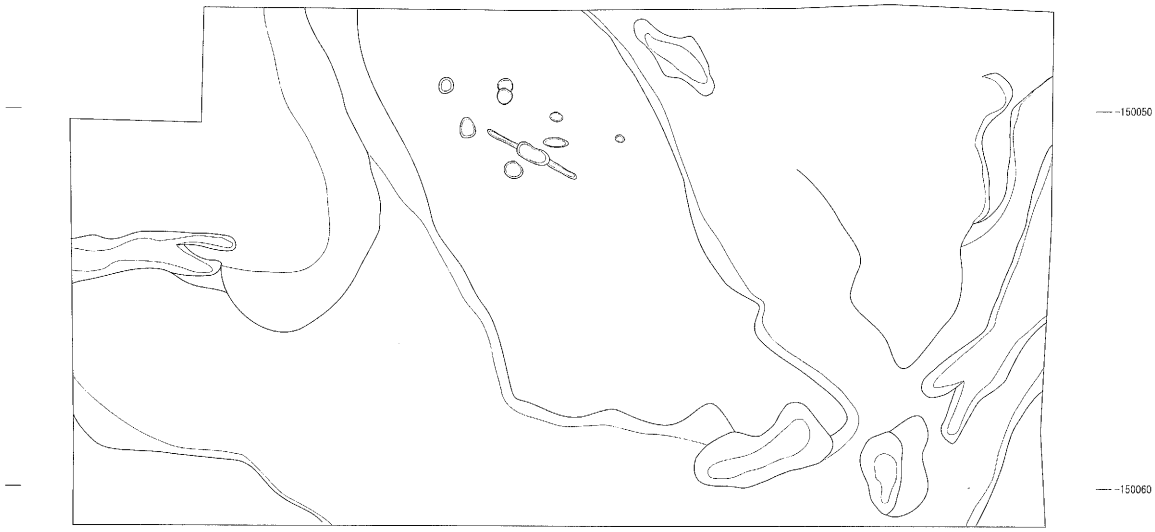


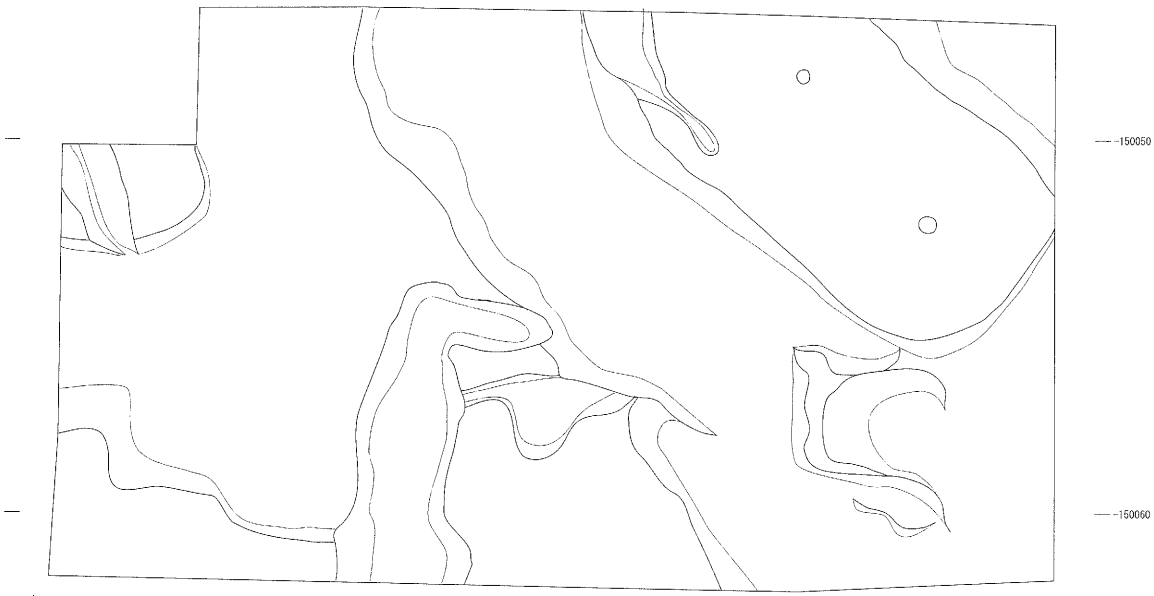
図６　１区　第４遺構面D平面



第５遺構面B



第５遺構面C



第５遺構面D

図７　１区　第５遺構面B・C・D平面

0　10m

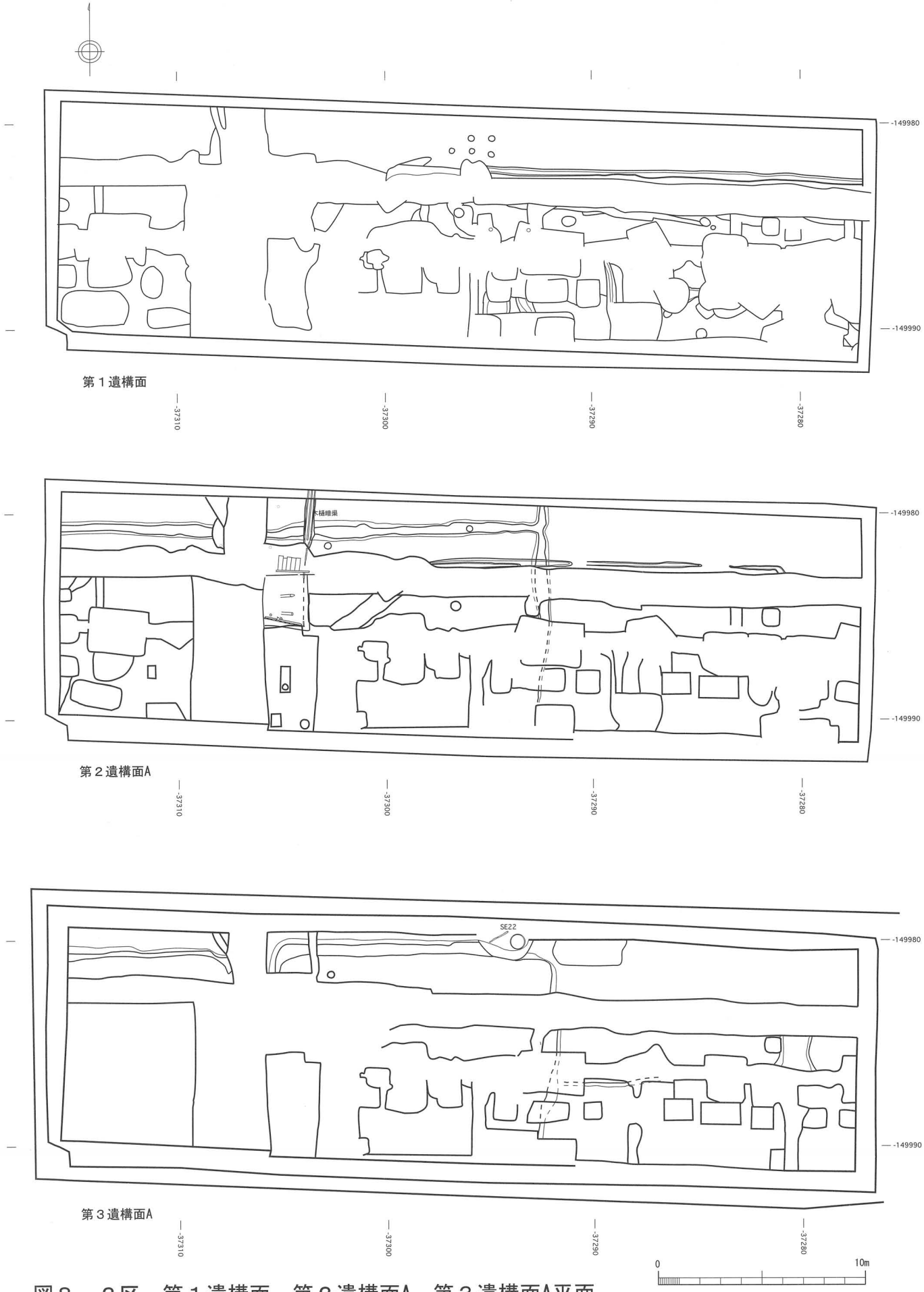


図８　２区　第１遺構面、第２遺構面A、第３遺構面A平面

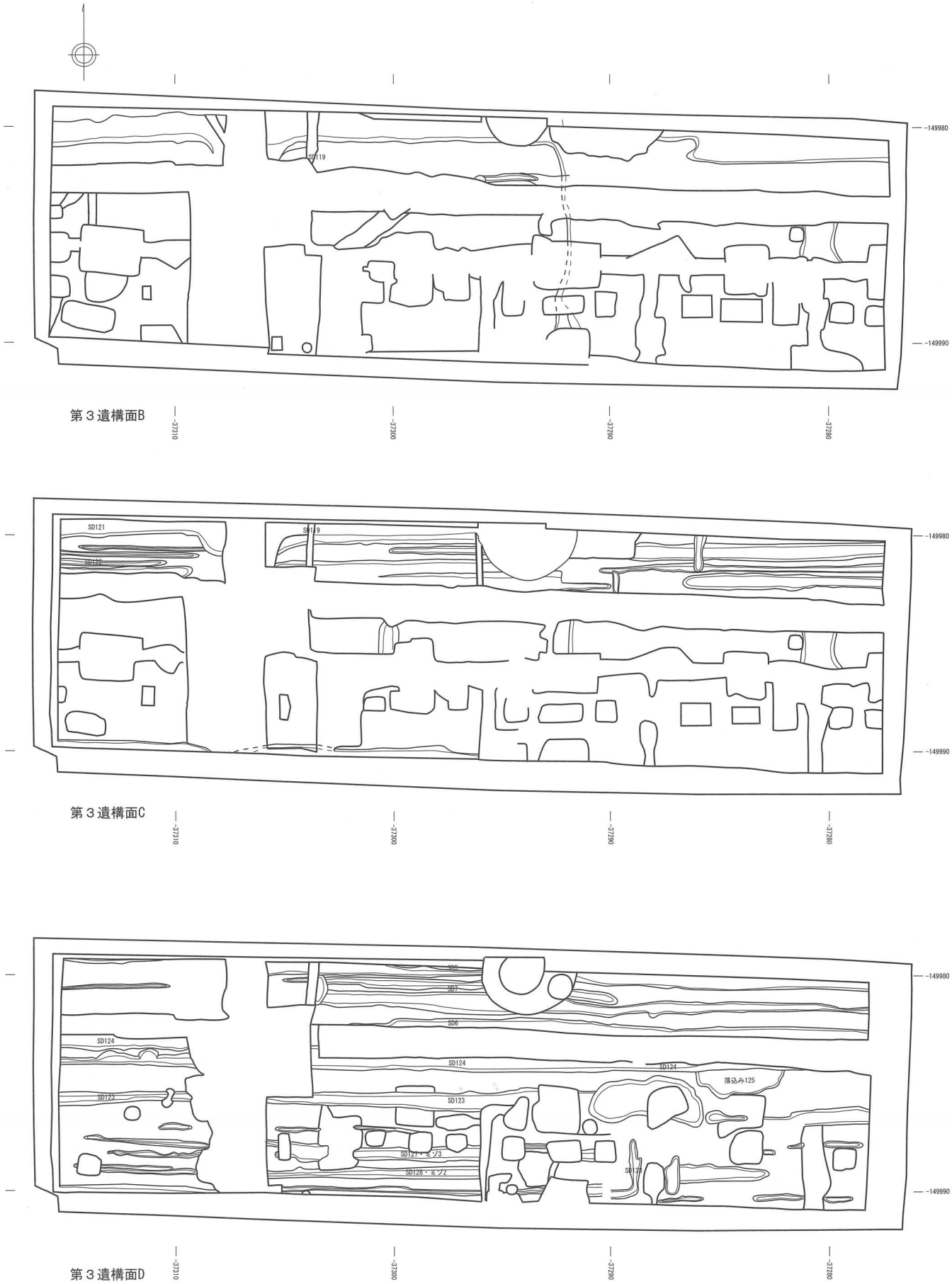
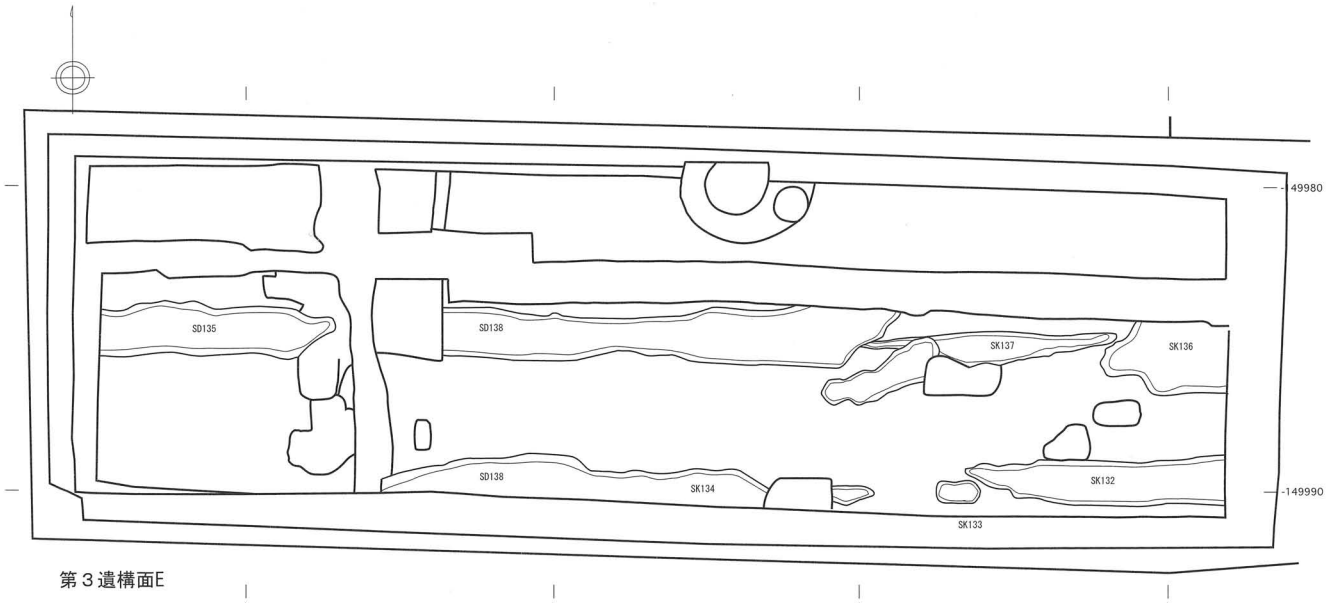
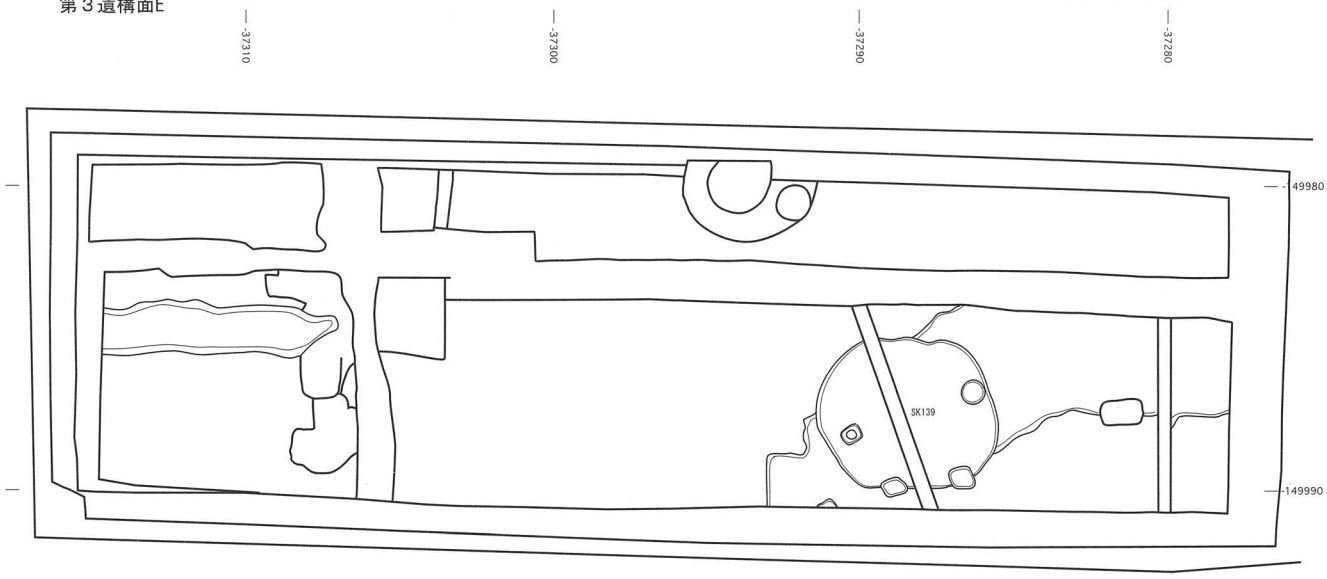


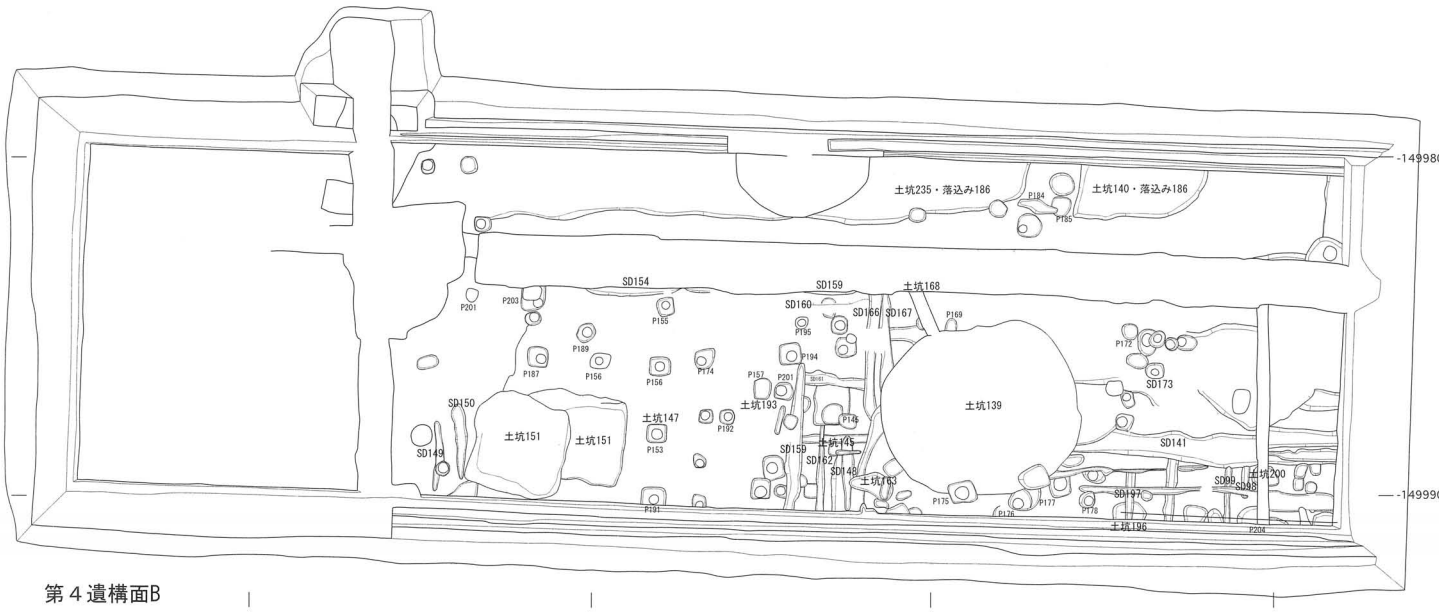
図９　２区　第３遺構面B・C・D平面



第３遺構面E



第３遺構面F



第４遺構面B

0 10m

図10　２区　第３遺構面E・F、第４遺構面B平面

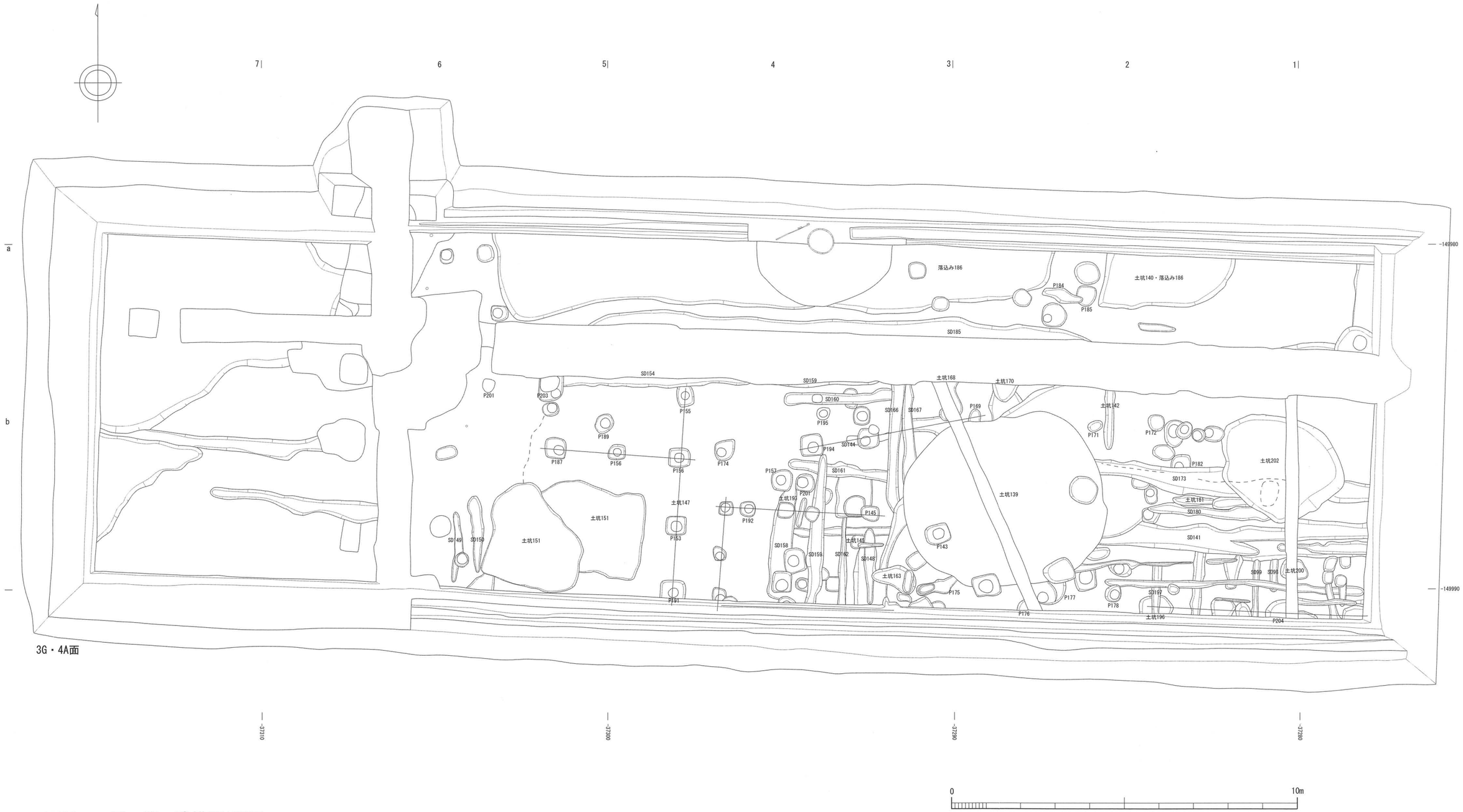
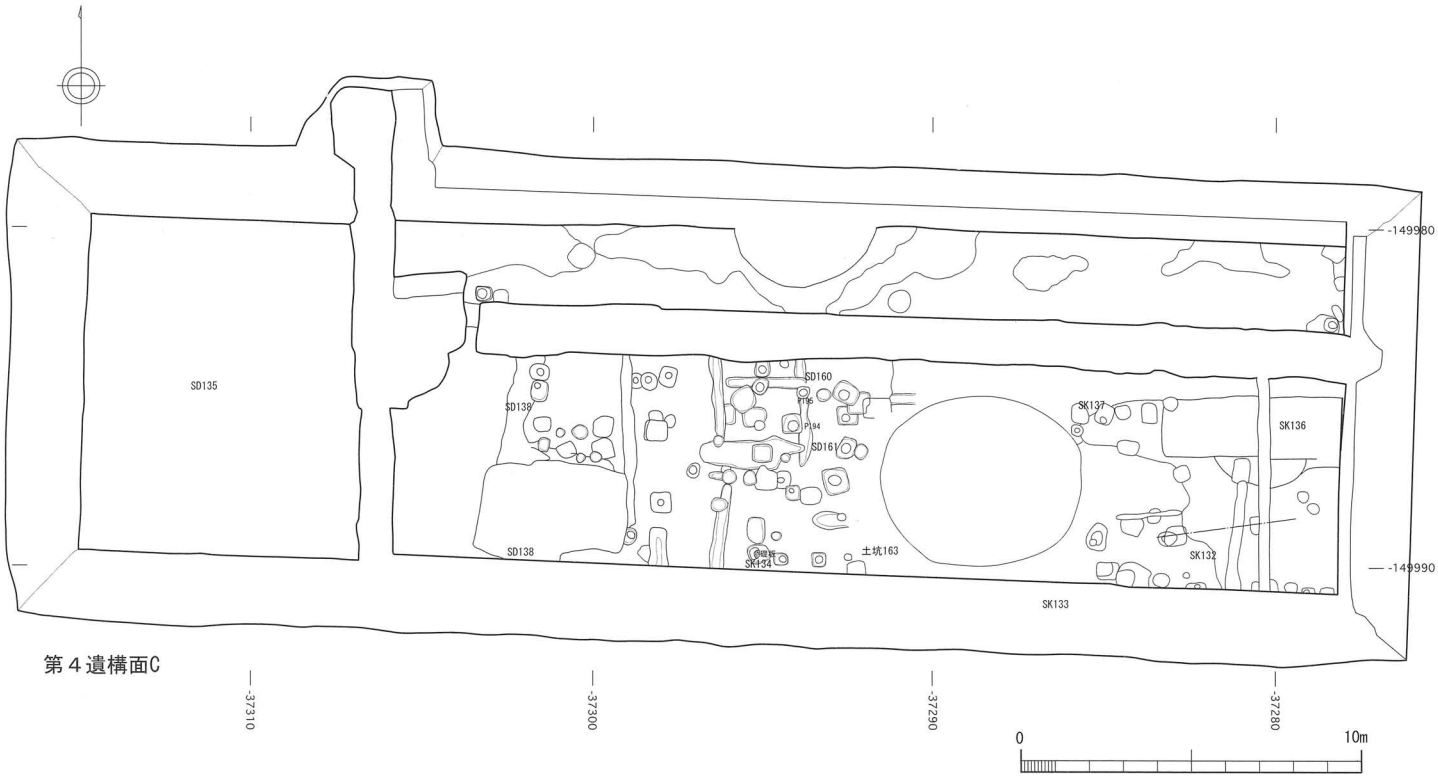


図11　２区　第４遺構面A平面



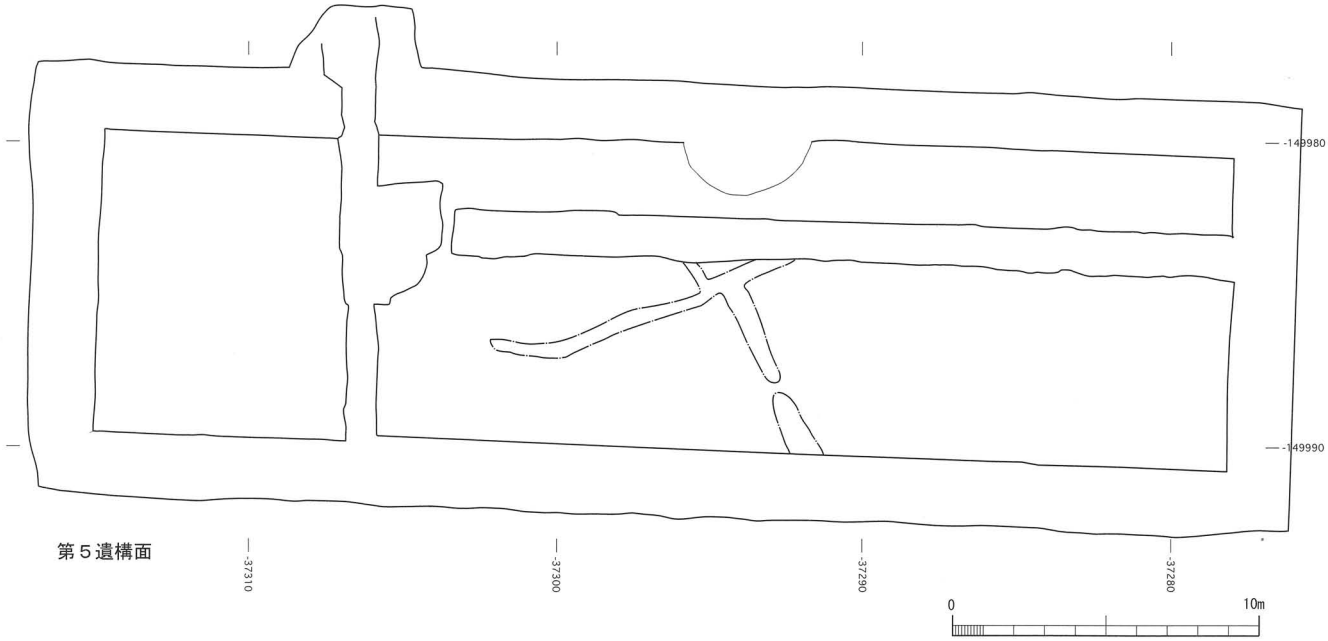


図12　２区　第４遺構面C、第５遺構面平面

第３章　出土遺物

第１節　１区出土遺物

本調査で出土した遺物には、陶磁器、瓦器、土師器、須恵器といった土器類の他、瓦、木製品、石製品があった。図13では、２区柱列から出土する磚１や、１区の布目丸瓦２、縄目・布目が残る平瓦３・４といったものもあるが、ここでは奈良・平安時代の出土遺物の中でも土器を中心に報告することにする。

１．須恵器　杯蓋・杯・高杯・平瓶・甕（図14）

１～11は杯蓋、12～23は杯、24は高杯の脚柱部、25は平瓶、26～29は甕である。

１・３～５・７～９は天井部と口縁部の間に段を有し、天井部は平坦である。10・11は口縁部内面にかえりを有する。かえりは短く地面に接地しない。

12は内面にやや内傾した短いたちあがりを有する。受部は体部より水平にのびる。13はほぼ直線的に外傾する体部を有、口縁端部は丸くおさめている。15・16・21は底面両端に高台が取り付けられている。19・22は直立した高台が取り付けられており、それ以外は「ハ」の字状に取り付けられている。

26・27は外方に肥厚する口縁部を有する。27は口縁部内面に当て具痕が見られる。28の口縁部は外方に水平にのび断面三角形を呈する。29は口縁部が外方に肥厚しており、断面長方形を呈する。

時期は１～９が８世紀、10～11が７世紀、12が６～７世紀、13が８世紀、14が９世紀、15～29が古代である。

２．須恵器　壷（図15）

１～14は壷である。１は直線的に外傾しながらのびる頸部にわずかに外方に屈曲する口縁部を有する。７は底面両端に断面三角形の高台を有する。８は底面両端に断面逆台形の短い高台を有

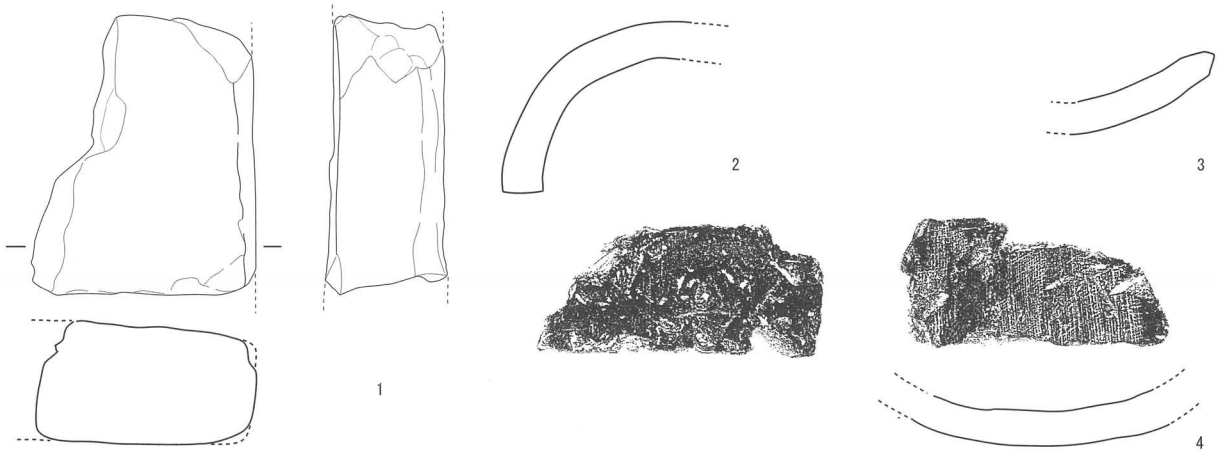


図13　出土瓦他

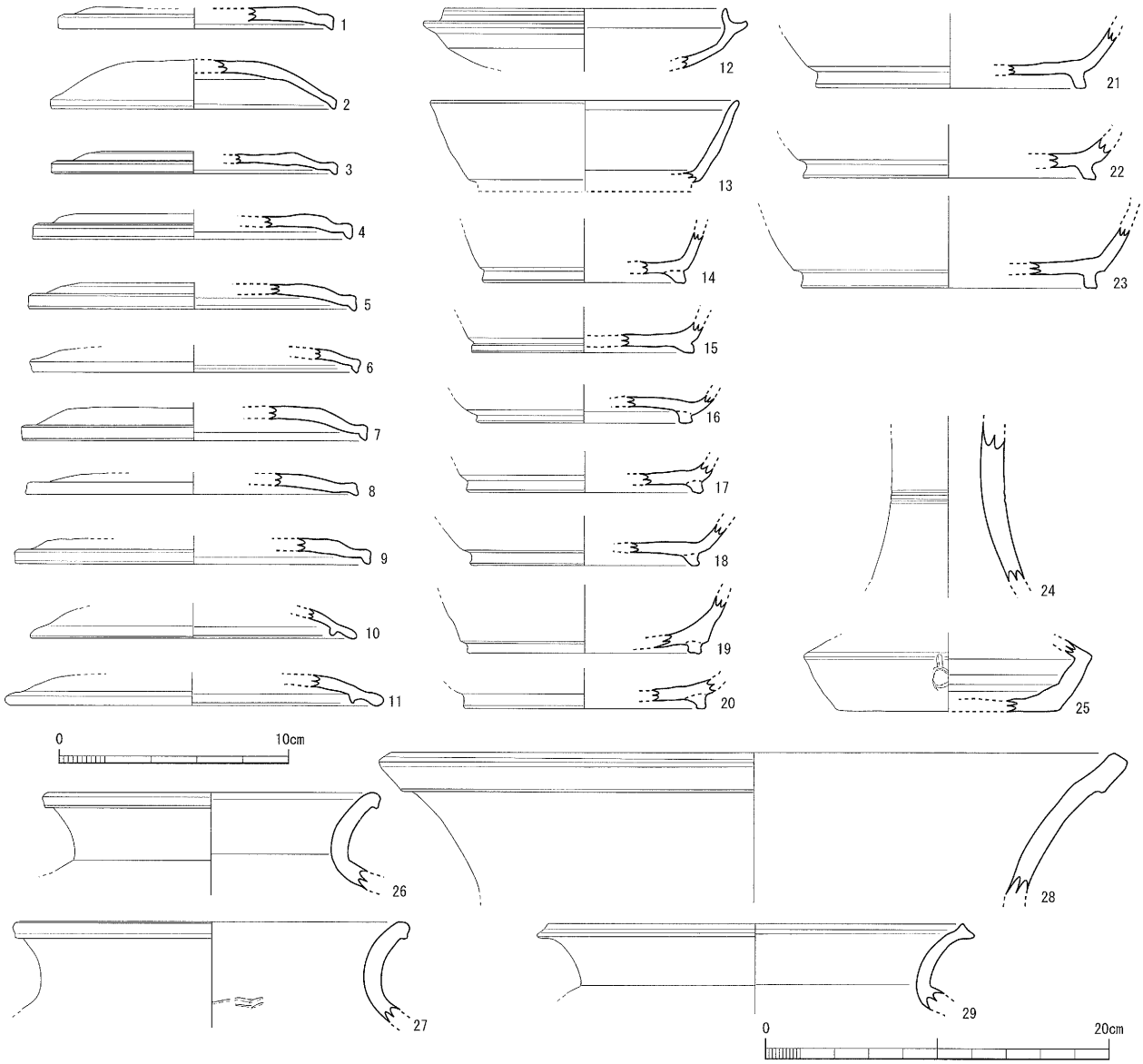


図14　１区　出土須恵器　杯・高杯・平瓶・甕（表１）

する。13は「ハ」の字状の高台を有する。14・16は直立する高台を有する。15～23は底面両端に高台が貼り付けられている。

時期は13・14が８世紀、それ以外が９世紀である。

３．土師器　杯・皿（図16）

１～24が杯、25～38が皿である。外面に指頭圧痕の見られるものが多い。１・３・５・９・11～15・21・32～34・37の体部は口縁部付近で外反している。17・30は体部外面口縁部付近に段を有する。38は「て」の字状口縁を有し、内外面に緑白灰色の釉が施釉されている。

時期は１～37が９世紀、38が中世である。

４．土師器　甕・鉢（図17）

１～28が甕、29～30が鉢である。３・７・20・21・23・25は口径が胴部最大径よりも小さい。甕は頸部付近に指頭圧痕の見られるものが多い。７は体部内面に、18は口縁部内面に横方向のハ

表1　1区　出土須恵器　杯・高杯・平瓶・甕

実測番号	登録番号	出土地点	器種	種類	時代	口径(cm)	底径(cm)	器高(cm)	調整 外面	調整 内面	調整 底部	色調 外面	色調 内面	色調 断面	胎土	焼成
1	490	1区 a4 4C 面側溝	杯蓋	須恵器	8C	(12.0)	不明	残存高(0.9)	ナデ	ナデ		灰色	灰色	灰色	密	良
2	461	1区 a4 4C 面側溝	杯蓋	須恵器		(12.4)	不明	残存高(2.05)	ナデ ヘラ削り	ナデ	不明	灰色	灰色(やや暗)	灰色		良
3	516	1区 b2 4C面 pit62	杯蓋	須恵器		(12.4)	不明	不明	上面削り後ナデ? 口縁ロクロナデ	ロクロナデ		灰色	灰色	灰色	密	良
4	597	1区 b2 4A面 4A 下層	杯蓋	須恵器		(13.8)	不明	残存高(1.05)	ナデ	ナデ		白灰色	白灰色	白灰色	密	
5	1001	1区 c3(南半) 3D 下層	杯蓋	須恵器		(14.2)		残存高(1.1)	削り後ナデ 横ナデ	ロクロナデ		灰白色	灰白色	灰白色	密	良
6	375	1区 a3 4C 面	杯蓋	須恵器		(14.6)	不明	残存高(1.0)	ナデ	ロクロナデ		灰色	灰色	灰色	密	良
7	392	1区 a3 4C 面	杯蓋	須恵器		(15.0)	—	残存高(1.4)	削り後 ロクロナデ	ロクロナデ		灰色	灰色	灰色	密	良
8	460	1区 a4 4C 面側溝	杯蓋	須恵器		(14.5)	不明	残存高(0.9)	削り後ナデ	ロクロナデ	頭部不明	灰色	灰色	灰色	密	良
9	412	1区 c2 4C 面	杯蓋	須恵器		(15.4)	(1.1)	不明	ナデ ヘラ削り	ナデ	不明	明灰色	明灰色	明灰色	密	良
10	467	1区 a4 4C 面側溝	杯蓋	須恵器	7C	(14.2)	不明	残存高(1.3)	ナデ	ナデ	不明	明灰色	明灰色	赤みがかった灰色	密	良
11	361	1区 a3 4C 面	杯蓋	須恵器		(16.5)	不明	残存高(1.3)	ロクロナデ	ロクロナデ		淡灰色	淡灰色	淡灰色	密	良
12	521	1区 c4 4C面 SD64-1	杯	須恵器	6/7C	(12.3)	不明	(2.6)	ロクロナデ?	ロクロナデ		灰白色	灰白色	灰白色		良
13	593	1区 b5 4A面 4A 下層	杯	須恵器	8C	(13.4)	不明	残存高(3.65)	ロクロナデ	ロクロナデ		灰色	灰色	灰色	密	良
14	451	1区 c6 4B面 pit25(柱)	杯	須恵器	9C	不明	(8.6)	残存高(2.2)	ロクロナデ	ロクロナデ	ナデ	灰色	灰色	灰色	密	良
15	489	1区 a4 4C 面側溝	杯	須恵器	古代	不明	(9.6)	残存高(1.35)	ロクロナデ ナデ	ロクロナデ ナデ		白灰色	灰茶色	白灰色	密	良
16	487	1区 c3(西半) 4C 面南壁	杯	須恵器		不明	(9.4)	残存高(1.2)	ナデ	ナデ	ナデ	明灰色	明灰色	明灰色	密	良
17	419	1区 c2 4C 面	杯	須恵器		不明	10.2	残存高(1.4)	ロクロナデ	ナデ	ナデ	明灰色	明灰色	明灰色	密	良
18	673	1区 b4 3D面 SD01 下層	杯	須恵器		不明	(9.4)	残存高(1.8)	ナデ	ナデ	回転ヘラ切り後ナデ	薄灰色	薄灰色	薄灰色	密	良
19	358	1区 a3 4C 面	杯	須恵器		不明	(10.0)	残存高(2.55)	ロクロナデ	ロクロナデ		灰色	灰色	灰色	密	良
20	410	1区 c2 4C 面	杯	須恵器		不明	(10.4)	残存高(1.3)	ロクロナデ	ロクロナデ	ナデ	灰色	灰色	灰色	密	良
21	377	1区 c5 4C 面	杯	須恵器		不明	(11.8)	残存高(2.2)	ロクロナデ	ロクロナデ		灰色	灰色	灰色	密	良
22	575	1区 a2 4B 面	杯	須恵器		不明	(13.1)	残存高(2.65)	ナデ ロクロナデ	ナデ ロクロナデ	ヘラ削り後ナデ ナデ	灰色	灰色	薄灰色	密	良
23	525	1区 b3 4C 面	杯	須恵器		不明	(13.0)	(3.1)	ナデ	ナデ	ナデ	極薄灰色	極薄灰色	薄灰色	密	やや甘
24	1005	1区 c3(南半) 3D 下層	高杯	須恵器		脚柱径(5.0)			横ナデ後縦ナデ 自然釉付着	横ナデ 自然釉付着		灰色	灰色	灰白色	密	良
25	599	1区 b2 4A面 4A 下層	平瓶	須恵器		体部径(12.6)	9.6	残存高(3.05)	ロクロナデ	ロクロナデ	ヘラ削り後ナデ	灰色	灰色	桃灰色	密	良
26	405	1区 c6 4B面 pit24	甕	須恵器		(19.6)	不明	残存高(5.6)	ロクロナデ	ロクロナデ		灰色	灰色	白灰色	密	良
27	501	1区 a4 4C 面側溝	甕	須恵器		(23.5)	不明	残存高(5.85)	ナデ 自然釉付着	ナデ、下部に模様(ヘラ?)		灰色	灰色	灰色	密	良
28	537	1区 b4 4D 下層	甕	須恵器		(24.2)	不明	残存高(3.9)	ナデ ヘラ削り	ナデ	不明	暗灰色	明灰色	明灰色	密	良
29	486	1区 c3(西半) 南壁 3C 下層～4C 面直上	甕	須恵器		43.2	不明	残存高(8.0)	ロクロナデ ナデ	ロクロナデ	不明	灰色 緑色(釉)	灰色	灰色	密	良

※(　) 内数値は反転復元後の数値

ケメが施されている。14・24・25は口縁端部内面が肥厚している。

5．土師器　鍔甕・土釜・杯、黒色土器（図18）

1～3が鍔甕、4が土釜、7・8・10～13が杯、6・9・14・15が黒色土器杯である。1は外反する口縁を有する。鍔は体部より水平にのびる。口縁内部に指頭圧痕が見られる。4は口縁部・鍔部ともに短く、口縁端部内面に段を有する。体部内外面に縦方向のハケメが施されている。

6は両黒焼成で、外湾する体部に緩やかに外反する口縁部をもつ。口縁部内端の角に段を付けるように沈線が施されている。体部内面に横方向の緻密なミガキが施されている。8は外湾する体部にやや外反する口縁部をもち、口縁端部は肥厚し丸くおさめられている。体部内面に横方向のミガキが施されている。9は両黒焼成で、口縁部付近は強いナデによりが一段低くなっている。

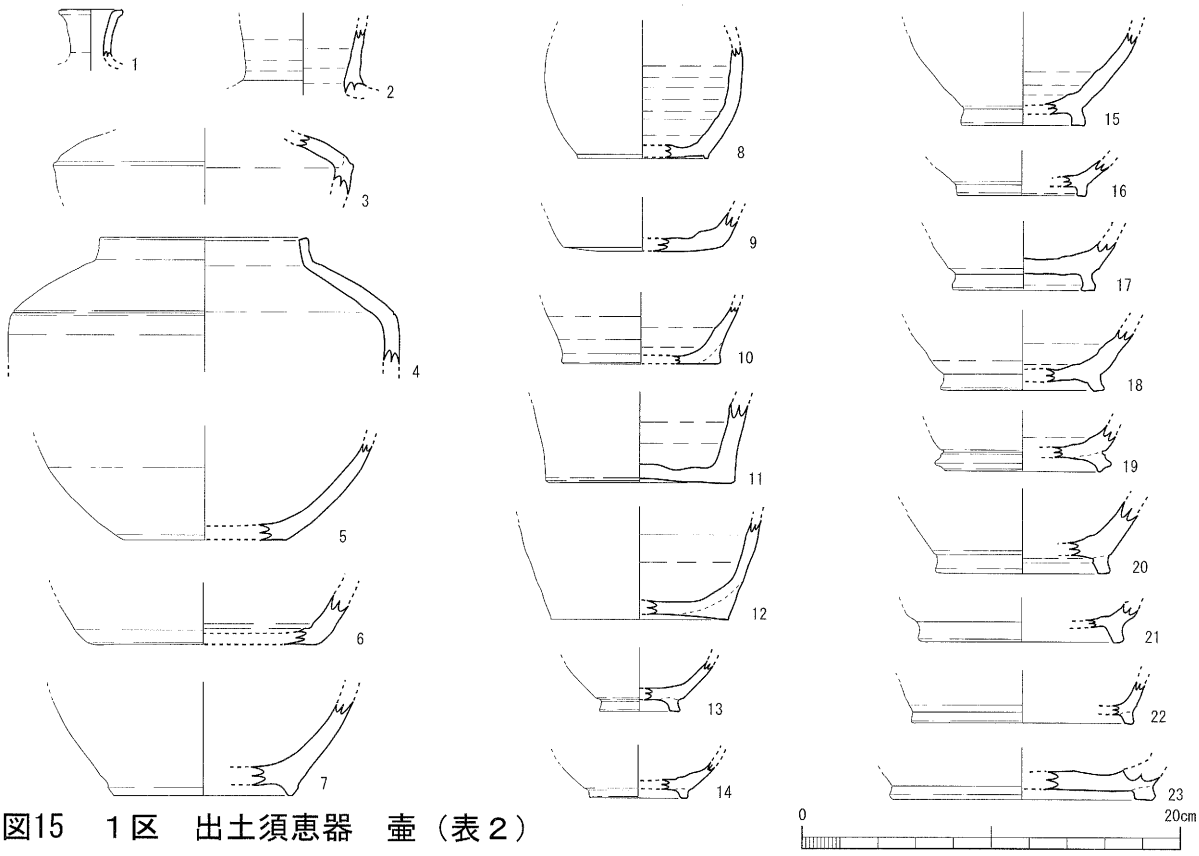


図15　1区　出土須恵器　壷（表２）

表２　1区　出土須恵器　壷

実測番号	登録番号	出土地点	器種	種類	時代	口径(cm)	底径(cm)	器高(cm)	調整 外面	調整 内面	調整 底部	色調 外面	色調 内面	色調 断面	胎土	焼成
1	432	1区 a2 4C面 SK49	壷	須恵器	9C	(3.2)	不明	残存高(2.45)	ロクロナデ	ロクロナデ 自然釉付着	不明	灰色	灰色	灰色	密	良
2	378	1区 c5 4C 面	壷	須恵器		頸最小径(6.0)	不明	残存高(3.3)	ロクロナデ	ロクロナデ 自然釉付着	不明	灰色	灰色	灰色	密	良
3	454	1区 a4 4C 面側溝	壷	須恵器		体部径(15.8)	不明	残存高(3.0)	ロクロナデ	ロクロナデ	不明	淡灰色～灰色	淡灰色	淡灰色	密	良
4	511	1区 b4 4C面 pit75	壷	須恵器		(11.0)	不明	不明	ロクロナデ 沈線	ロクロナデ		白灰色 緑灰色（釉）	白灰色	白灰色		良
5	411	1区 c2 4C 面	壷	須恵器		不明	(8.6)	残存高(5.15)	ロクロ ヘラ削り	ロクロナデ後 縦ナデ	ロクロ ヘラ削り	灰色	灰色	灰色	密	良
6	383	1区 a2 4C 面	壷	須恵器		不明	(12.2)	残存高(2.1)	削り	ロクロナデ		淡灰色	淡灰色	淡灰色	密	良
7	576	1区 a2 4B 面	壷	須恵器		不明	(9.5)	(5.4)	ヘラ削り後ナデ ナデ	ナデ	ナデ	薄灰色	薄灰色	薄灰色		良
8	633	1区 b6 3C 下層	壷	須恵器		不明	(6.8)	(5.7)	ナデ 指紋？有	工具で横ナデ	ヘラ削り後ナデ	暗赤褐色	明赤褐色	薄明赤褐色	甘	良
9	507	1区 a3 4C面 SD72	壷	須恵器		不明	8.5	残存高(2.1)	ロクロヘラナデ	ロクロナデ		茶灰色	暗灰色	茶灰色	密	良
10	427	1区 a2 4C面 SK49	壷	須恵器		不明	(8.4)	残存高(3.0)	ロクロナデ	ナデ	ナデ、ロクロ回転糸切り	白っぽい灰色	白っぽい灰色	白っぽい灰色	密	やや不良
11	1008	1区 a4 4A 下層	壷	須恵器		不明	(10.0)	(4.1)	ヘラ削り	ロクロナデ	糸切り痕有	灰白色	灰白色	灰白色	密	良
12	697	1区 b2 3D 下層	壷	須恵器		不明	(9.4)	不明	ロクロ削り後 ナデ	ロクロナデ	ナデ、ロクロ回転糸切り	白灰色	白灰色	白灰色	密	良
13	440	1区 c4 4B面 pit40（柱）	壷	須恵器	8C	不明	(4.2)	(2.5)	ロクロナデ ヘラ削り	ロクロナデ	ナデ ヘラ削り	明灰色	明灰色	明灰色	密	良
14	357	1区 a3 4C 面	壷	須恵器		不明	(5.2)	残存高(1.9)	ロクロナデ	ロクロナデ		鼠色	鼠色	茶灰色	密	良
15	616	1区 b5～6 3面 SD02	壷	須恵器	9C	不明	(6.4)	残存高(4.8)	ロクロナデ	ロクロナデ	ナデ	暗灰色	灰色（やや青み）	暗灰色	密	良
16	580	1区 b6（北半） 4A面A 下層	壷	須恵器		不明	(6.9)	残存高(1.9)	ロクロナデ ナデ	ロクロナデ		白灰色	白灰色	白灰色	密	良
17	570	1区 a2 4B 面	壷	須恵器		不明	(7.4)	残存高(2.6)	ナデ ヘラ削り後ナデ	ナデ	ヘラ削り後ナデ ナデ	灰色	灰色	灰色	密	良
18	582	1区 b6（北半） 4A面A 下層	壷	須恵器		不明	(8.6)	残存高(3.2)	ナデ 削り後ナデ	ナデ ロクロナデ		灰色	白灰色	白灰色	密	良
19	416	1区 c2 4C 面	壷	須恵器		不明	(9.4)	残存高(1.9)	ロクロヘラ削り ナデ	ロクロヘラ削り	ヘラ削り ナデ	明灰色	明灰色	暗灰色	密	良
20	512	1区 b4 4C面 SD64-2	壷	須恵器	9C	不明	(9.3)	(3.0)	ロクロナデ	ロクロナデ		灰色	灰色	灰色		良
21	585	1区 b5 4A 層下	壷	須恵器		不明	(11.0)	残存高(2.0)	ナデ	ナデ		白灰色	白灰色	白灰色	密	良
22	468	1区 a4 4C 面側溝	壷	須恵器		不明	(11.6)	残存高(2.2)	ロクロナデ	ロクロナデ	ナデ	白っぽい灰色	白っぽい灰色	白っぽい灰色	密	やや甘
23	469	1区 c3（東半） 南壁 3C 下層～4C 面直上	壷	須恵器		不明	(14.0)	残存高(2.0)	ナデ	ナデ 全面に釉	ナデ ヘラ削り後ナデ	やや赤みがかった灰色	緑黒色（釉）	薄灰色（やや赤み）	密	良

※（　）内数値は反転復元後の数値

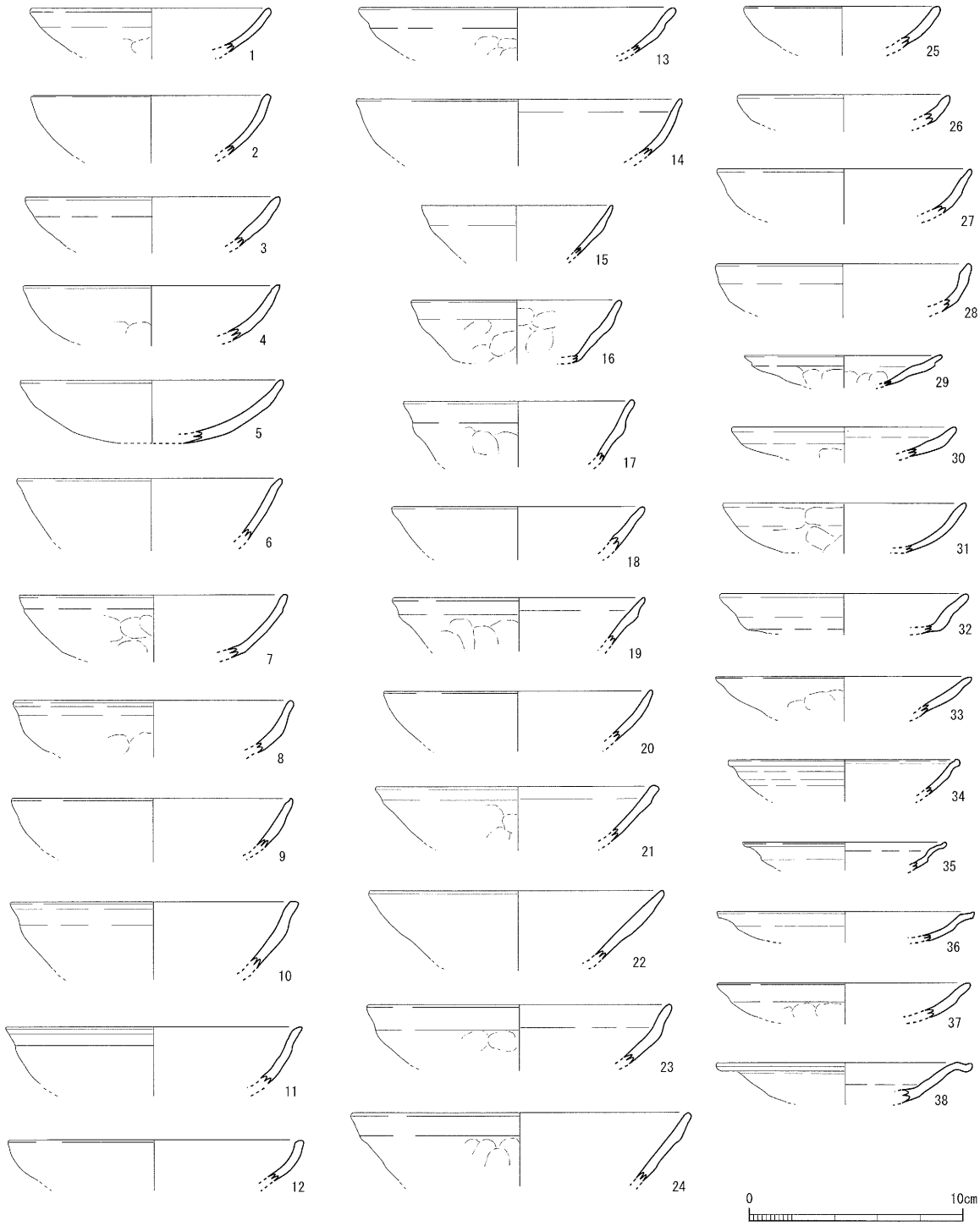


図16　１区　出土土師器　杯・皿（表３）

表３　１区　出土土師器　杯・皿

実測番号	登録番号	出土地点	器種	種類	時代	口径(cm)	底径(cm)	器高(cm)	調整 外面	調整 内面	調整 底部	色調 外面	色調 内面	色調 断面	胎土	焼成
1	1016	1区　b2 4A 面直上	杯	土師器	9C	(11.1)	不明	残存高 (1.95)	ナデ	ナデ		淡黒灰色	淡黒灰色	淡黒灰色	密	良
2	1017	1区　b2 4A 面直上	杯	土師器		(11.2)	不明	残存高 (3.0)	ナデ	ナデ		淡橙色	淡橙色	淡橙色	密	やや甘
3	583	1区　b6（北半） 4A面 4A 下層	杯	土師器		(12.0)	不明	残存高 (2.2)	ナデ	ナデ （ミガキ？）		黄茶色	薄茶色	薄茶色	密	良
4	491	1区　a4 4C 面側溝	杯	土師器		(12.2)	不明	残存高 (2.55)	ナデ	ナデ		淡茶褐色	淡茶褐色	褐白色	密	良
5	503	1区　a4 4C 面側溝	杯	土師器		(12.4)	不明	残存高 (2.9)	ナデ	ナデ		赤肌色	黄茶色	黄茶色	密	やや甘
6	594	1区　b5 4A面 4A 下層	杯	土師器		(12.4)	不明	残存高 (2.9)	ナデ	ナデ		明灰色	明灰色	明灰色	密	良
7	1002	1区　c3（南半） 3D 下層	杯	土師器		(12.6)		残存高 (2.9)	ナデ、指圧痕 縦ハケ？	ミガキ 縦ハケ？		黒灰色	黒灰色～灰色	灰白色	密	良
8	492	1区　a4 4C 面側溝	杯	土師器		(13.2)	不明	残存高 (2.4)	ナデ	ナデ		暗茶色	暗茶色	暗茶色	密	良
9	398	1区　c6 4B 面	杯	土師器		(13.0)	不明	残存高 (2.3)	ナデ	ナデ		淡茶褐色	淡茶褐色	淡茶褐色	密	良
10	595	1区　b5 4A面 4A 下層	杯	土師器		(13.4)	不明	残存高 (3.1)	ナデ	ナデ？ ミガキ？		薄黄茶色	茶色	薄黄茶色	密	良
11	1003	1区　c3（南半） 3D 下層	杯	土師器		(13.8)		残存高 (2.7)	横ナデ	横ナデ		白灰色	淡黄褐色	褐色	密	甘
12	1006	1区　c2（南半） 3D 下層	杯	土師器		(14.0)		残存高 (2.0)	ナデ	ミガキ？		褐色～赤褐色	茶褐色	褐色～赤褐色	密	良
13	676	1区　b4 3D 下層	杯	土師器		(14.8)	不明	不明	ナデ	ナデ ミガキ	不明	薄黄褐色 （肌色）	薄黄褐色 （肌色）	薄黄褐色 （肌色）	密	良
14	1027	1区　c2 側溝 3D 下層～4 層	杯	土師器		(15.1)	不明	不明	ナデ	ナデ	不明	明赤褐色	明赤褐色	白っぽい 赤褐色	密	良
15	573	1区　a2 4B 面	杯	土師器		(9.0)	不明	残存高 (2.3)	ナデ	ナデ	不明	薄明赤褐色	黒褐色	黒褐色	密	良
16	426	1区　a2 4C面 SK49	杯	土師器		(9.8)	不明	不明	ナデ 指圧痕	ナデ 指圧痕	不明	褐乳色	淡橙褐色	褐乳色	密	良
17	619	1区　a1～2 3面 SD04	杯	土師器		(10.7)	不明	残存高 (2.8)	ナデ	ナデ	不明	暗赤褐色	薄赤褐色	薄赤褐色	密	良
18	621	1区　a1～2 3面 SD04	杯	土師器		(11.8)	不明	残存高 (2.0)	ナデ 磨滅	ナデ 磨滅	不明	薄黄灰褐色	薄灰褐色	薄灰褐色	密	良
19	1010	1区　a4 4A 下層	杯	土師器		(12.0)		不明	横ナデ 指圧痕	ナデ		薄赤褐色 （一部黒褐色）	薄赤褐色 （一部黒褐色）	灰色	密	良
20	598	1区　b2 4A面 4A 下層	杯	土師器		(12.6)	不明	不明	ナデ？ ミガキ？	ナデ？ ミガキ？		黒色	茶黒色	黒色	密	良
21	675	1区　b4 3D 下層	杯	土師器		(13.2)	不明	残存高 (2.6)	ナデ	ナデ	不明	赤褐色	赤褐色	赤褐色	やや粗	良
22	458	1区　a4 4C 面	杯	土師器		(13.8)	不明	残存高 (3.2)	ナデ	ナデ	不明	黒っぽい 赤褐色	黒っぽい 赤褐色	灰色	密	良
23	566	1区　a1 4B面 SK55	杯	土師器		(14.4)	不明	残存高 (2.8)	ナデ	ナデ	不明	薄赤褐色	極薄灰褐色	薄灰褐色	密	良
24	474	1区　a6 4C 面側溝	杯	土師器		(15.9)	不明	不明	削り後ナデ 口縁横ナデ	ナデ	不明	茶色っぽい 赤褐色	白っぽい 赤褐色	茶色っぽい 赤褐色		良
25	574	1区　a2 4B 面	皿	土師器		(9.0)	不明	残存高 (1.9)	ナデ	ナデ	不明	灰褐色	薄赤褐色	薄灰褐色	密	良
26	376	1区　a3 4C 面	皿	土師器		(9.8)	不明	残存高 (1.4)	ナデ？	ナデ？		淡褐橙色	淡褐橙色	淡褐橙色	密	良
27	556	1区　b6（南半） 4A面 4A 下層	皿	土師器		(12.0)	不明	残存高 (2.05)	ナデ	ミガキ？	不明	白っぽい 赤褐色	白っぽい 赤褐色	白っぽい 赤褐色	密	良
28	571	1区　a2 4B 面	皿	土師器		(12.0)	不明	残存高 (2.2)	ナデ	ナデ	不明	薄明赤褐色	極薄明赤褐色	極薄明赤褐色	密	良
29	612	1区　b5 3 面	皿	土師器	9/10C	(9.1)	不明	残存高 (1.6)	ナデ	ナデ	不明	極薄灰褐色	灰褐色	薄灰褐色	密	良
30	1034	1区　a6 4A面 SX	皿	土師器	9C	(10.4)	不明	残存高 (1.45)	ナデ、横ナデ 指圧痕	ナデ 横ナデ		灰褐白色	褐茶色	茶灰色	密	良
31	455	1区　a4 4C 面側溝	皿	土師器		(11.4)	不明	残存高 (2.2)	ナデ 指圧痕	ナデ	不明	暗赤褐色	白っぽい 赤褐色	明赤褐色	密	良
32	448	1区　b6 4C 面側溝	皿	土師器		(11.7)	不明	残存高 (1.8)	ミガキ	ナデ、ミガキ？	ナデ	赤褐色	黒褐色	赤褐色	密	良
33	381	1区　a2 4C 面	皿	土師器		(11.8)	不明	残存高 (1.9)	ナデ	ナデ スス付着		褐橙色	褐色	褐橙色		良
34	592	1区　b5 4A面 4A 下層	皿	土師器	9/10C	(10.7)	不明	残存高 (1.65)	ミガキ	ナデ、ミガキ？ 沈線		赤橙色	淡橙褐色	灰茶色	密	良
35	658	1区　b2 3D面 SD05	皿	土師器		(9.6)	不明	不明	ナデ	ナデ	不明	白明赤褐色	茶色	白明赤褐色	密	良
36	452	1区　c6 4B面 pit25（柱）	皿	土師器		(12.0)	不明	残存高 (1.4)	ナデ？ 磨滅	ナデ？ 磨滅	不明	白っぽい 赤褐色	白っぽい 赤褐色	白っぽい 赤褐色	密	良
37	367	1区　a3 4C 面	皿	土師器		(11.8)	不明	不明	ナデ	ナデ		淡褐橙色	乳橙色	淡褐橙色	密	やや良
38	642	1区　c5（c6 一部含）3C 下層	皿	土師器	9/10C	(12.3)	不明	不明	ロクロナデ 施釉	ロクロナデ 施釉		緑白灰色	緑白灰色	白灰色	密	良

※（　）内数値は反転復元後の数値

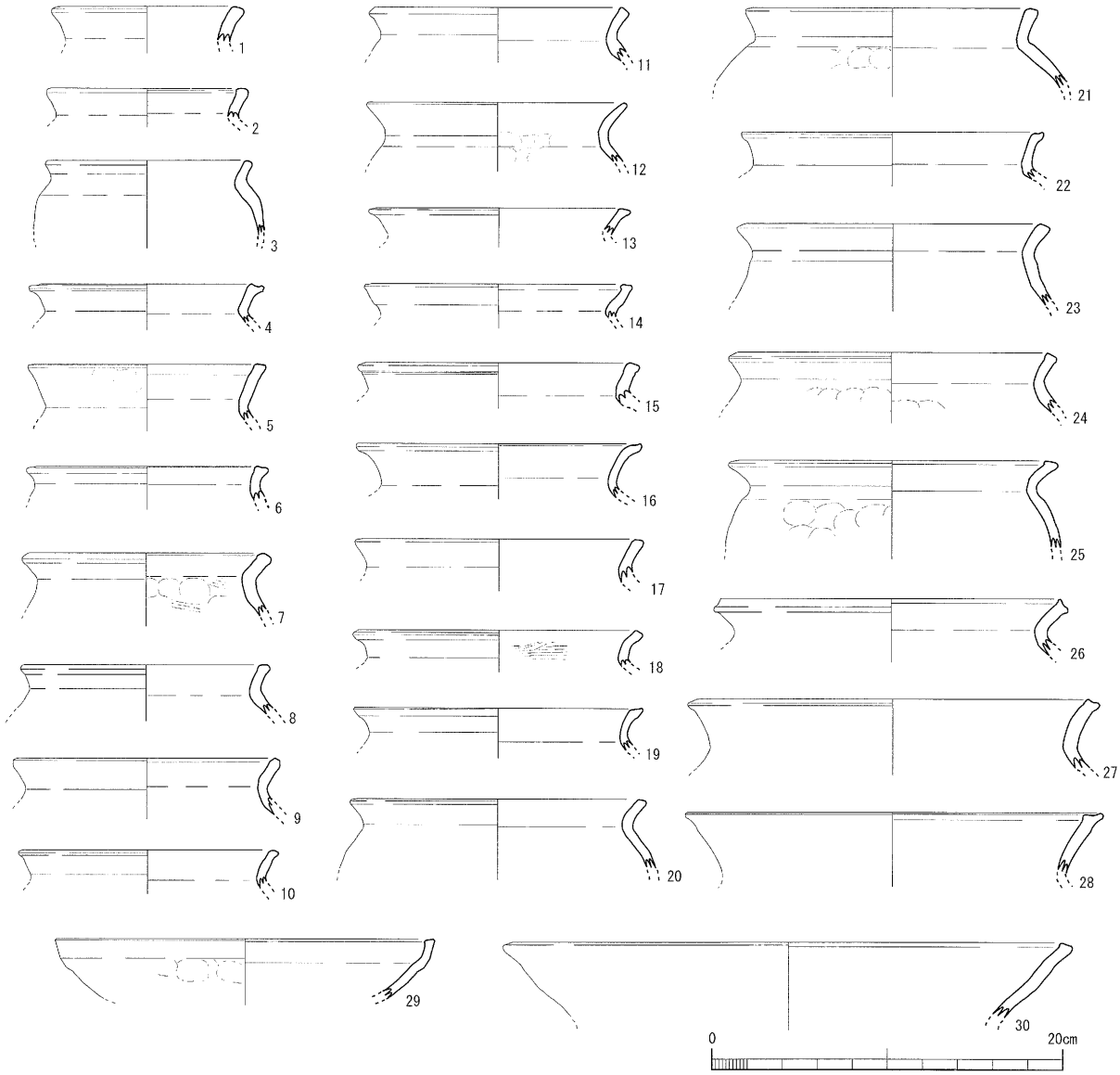


図17　１区　出土土師器　甕・鉢（表４）

体部外面には指頭圧痕が見られ、体部内面には横方向の緻密なミガキが施されている。10・13は断面三角形の高台を底面両端に貼り付けている。

時期は１～３が８～９世紀、４が中世、５～15が９世紀である。

６．土師器　高杯、陶器椀（図19）

１は土師器高杯、２～14は陶器椀である。３は体部が内湾し、口縁端部が外反している。高台は貼り付けの輪高台である。内外面に緑色の釉が施釉されている。４・５・７は口縁端部が外反し、内外面に緑色の釉が施釉されている。８は幅広の器高の低い高台を有する。緑がかった白色の釉が施釉されている。９は器高の高い輪高台を有する。内外面に緑色の釉が施釉されている。10は高台底部に糸切り痕が見られる。

時期は１が８～９世紀、２・３が９・10世紀、４～10が中世である。　（大矢）

表４　１区　出土土師器　甕・鉢

実測番号	登録番号	出土地点	器種	種類	時代	口径(cm)	底径(cm)	器高(cm)	調整 外面	調整 内面	調整 底部	色調 外面	色調 内面	色調 断面	胎土	焼成
1	389	1区 a3 4C面	甕	土師器	9C	(11.8)	不明	残存高(1.9)	ナデ 磨滅	ナデ 磨滅		橙色	橙色	橙色	密	良
2	425	1区 a2 4C面 SK49	甕	土師器		(11.4)	不明	残存高(1.65)	ナデ	ナデ	不明	明橙褐色	明橙褐色	明橙褐色	密	良
3	515	1区 a2 4C面 pit71	甕	土師器		(11.8)	不明	不明	ナデ	ナデ		焦げ茶色	赤茶色	薄茶色	粗	雑
4	1029	1区 a3 4D 下層	甕	土師器		(13.4)	不明	残存高(2.1)	横ナデ	横ナデ		赤黄色	灰褐色	暗褐色	密	良
5	584	1区 b6（北半） 4A面 4A 下層	甕	土師器		(13.6)	不明	残存高(3.2)	ナデ 指圧痕	ナデ		焦げ茶色	焦げ茶色	茶色	密	良
6	380	1区 a2 4C面	甕	土師器		(12.8)	不明	残存高(1.7)	ミガキ？	不明		褐橙色	褐橙色	褐橙色		良
7	428	1区 a2 4C面 SK49	甕	土師器		(14.2)	不明	残存高(3.6)	ナデ ヘラ削り後ナデ	ナデ、ハケ 指圧痕	不明	白っぽい赤褐色	白っぽい赤褐色、黒色	赤褐色	密	良
8	534	1区 b4 4D 下層	甕	土師器		(14.2)	不明	残存高(4.5)	ナデ	ナデ	不明	明赤褐色	白っぽい茶色	明赤褐色		良
9	1014	1区 c3（北半） 3D 下層	甕	土師器		(14.8)	不明	残存高(2.1)	横ナデ			暗赤褐色	暗赤褐色	暗赤褐色	密	良
10	1032	1区 a3 4D 下層	甕	土師器		(15.1)	不明	不明	ナデ 横ナデ	ナデ 横ナデ		薄茶色	赤茶色	薄茶色	やや密	良
11	522	1区 b3 4C面	甕	土師器		(14.9)	不明	残存高(2.95)	ナデ	ナデ	不明	明赤褐色	明赤褐色	明赤褐色	密	良
12	397	1区 c6 4B面 pit23	甕	土師器		(14.7)	不明	残存高(3.25)	ナデ	ナデ 指圧痕		赤茶色	茶褐色	赤茶色	密	良
13	359	1区 a3 4C面	甕	土師器		(15.0)	不明	残存高(1.5)	ナデ	ナデ					密	良
14	572	1区 a2 4B面	甕	土師器		(15.4)	不明	残存高(1.85)	ナデ	ナデ	不明	薄灰褐色	薄赤褐色	薄赤褐色	密	良
15	360	1区 a3 4C面	甕	土師器		(16.2)	不明	不明	ナデ	ナデ		暗橙褐色	暗橙褐色	暗橙褐色	密	良
16	553	1区 b6（南半） 4A面 4A 下層	甕	土師器		(16.4)	不明	残存高(3.05)	ナデ ミガキ？	ナデ	不明	赤褐色	赤褐色	赤褐色	密	良
17	457	1区 a4 4C面側溝	甕	土師器		(16.2)	不明	残存高(4.7)	ナデ	ナデ	不明	赤褐色	白っぽい赤褐色	明赤褐色	密	良
18	379	1区 c5 4C面	甕	土師器		(16.4)	不明	残存高(1.8)	ナデ？	ナデ（一部ハケ）		褐橙色	褐橙色	褐橙色	密	良
19	456	1区 a4 4C面側溝	甕	土師器		(16.4)	不明	残存高(2.4)	ナデ	ナデ	不明	明赤褐色	明赤褐色	明赤褐色	密	良
20	364	1区 a3 4C面	甕	土師器		(16.8)	不明	残存高(3.8)	ナデ	ナデ？		褐橙色	褐橙色	淡褐黄橙色		良
21	533	1区 b4 4A面 4D 下層	甕	土師器		(16.6)	不明	残存高(4.5)	ナデ 指圧痕	ナデ		明赤褐色	灰褐色	明赤褐色	密	良
22	611	1区 b5 3面	甕	土師器		(17.0)	不明	残存高(2.6)	ナデ	ナデ	不明	赤褐色	赤褐色	赤褐色	密	良
23	1030	1区 a3 4D 下層	甕	土師器		(18.0)	不明	残存高(4.55)	ナデ	ナデ		薄赤茶色	薄赤茶色（下方白茶色）	薄赤茶色	密	良
24	387	1区 a3 4C面	甕	土師器		(18.8)	不明	残存高(3.3)	ナデ 指圧痕	ナデ or ハケ 指圧痕		橙褐色	橙褐色	橙褐色		良
25	442	1区 b6 4C面側溝	甕	土師器		(18.8)	不明	残存高(4.8)	ナデ 指圧痕	ナデ	不明	明赤褐色	明赤褐色	明赤褐色	密	良
26	591	1区 b5 4A面 4A 下層	甕	土師器		(20.2)	不明	残存高(3.1)	ナデ	ナデ		焦げ茶色	黄褐色	焦げ茶色	密	
27	453	1区 a4 4C面側溝	甕	土師器		(23.6)	不明	残存高(3.9)	ナデ	ナデ	不明	暗赤褐色	褐色	赤褐色	密	良
28	406	1区 c2 4C面	甕	土師器		(23.8)	不明	残存高(3.35)	ロクロナデ	ロクロナデ	不明	暗灰色	暗灰色	暗灰色	密	良
29	547	1区 c6 4A 下層	鉢	土師器		(21.6)	不明	残存高(3.3)	ナデ	ナデ	不明	焦げ茶色	暗赤褐色	暗赤褐色	密	良
30	1041	1区 a6 4A面 SX	鉢	土師器		(31.5)	不明	残存高(4.1)	ナデ	ナデ	不明	灰色っぽい赤褐色	赤褐色	赤褐色	密	良

※（　）内数値は反転復元後の数値

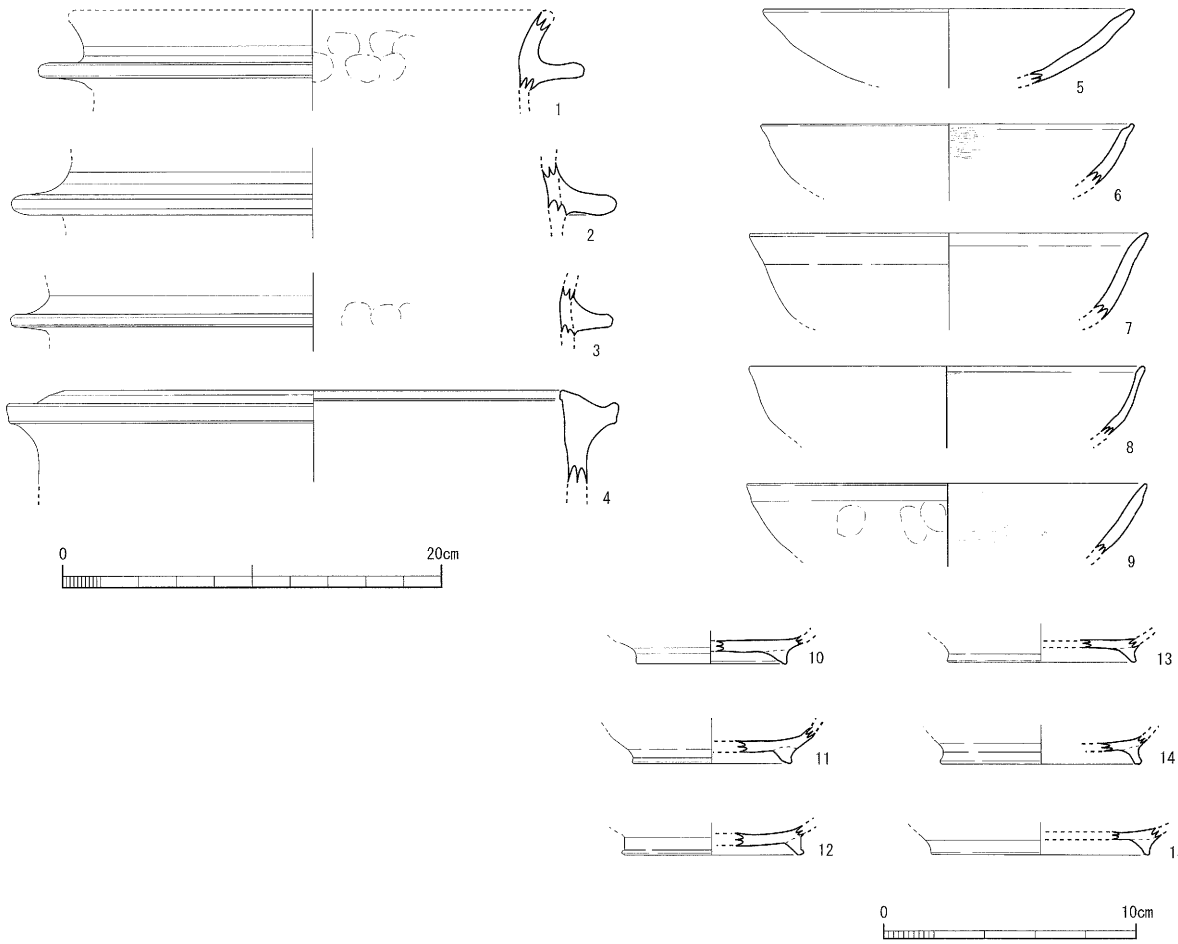


図18　1区　出土土師器　鍔甕・土釜・杯・黒色土器（表５）

表５　１区　出土土師器　鍔甕・土釜・杯・黒色土器

実測番号	登録番号	出土地点	器種	種類	時代	口径(cm)	底径(cm)	器高(cm)	調整 外面	調整 内面	調整 底部	色調 外面	色調 内面	色調 断面	胎土	焼成
1	423	1区 a2 4C 面側溝	鍔甕	土師器	8/9C	鍔径 (28.8)	不明	不明	ナデ	ナデ	不明	暗赤褐色	赤褐色	灰色 赤褐色		良
2	418	1区 c2 4C 面	鍔甕	土師器		鍔径 (32.8)	不明	残存高 (2.75)	ナデ	ナデ	不明	暗赤褐色	黒っぽい 赤褐色	赤褐色	密	良
3	396	1区 c6 4B面 pit23	鍔甕	土師器		鍔径 (26.2)	不明	残存高 (2.6)	ナデ	ナデ 指圧痕		橙褐色	橙褐色	橙褐色	密	良
4	384	1区 a2 4C 面	土釜	土師器	中世	(28.2)	不明	残存高 (4.9)	体部ハケ 鍔部ナデ	ハケ後ナデ		淡褐乳色	淡褐乳色	褐橙色	やや粗	良
5	441	1区 b6 4C 面側溝	杯	土師器	9C	(14.6)	不明	残存高 (2.95)	ナデ	ナデ ミガキ？	不明	灰色混じり白っぽい赤褐色	白っぽい 赤褐色	白っぽい 赤褐色	密	良
6	437	1区 a2 4C面 SK49	杯	黒色 土器		(14.6)	不明	残存高 (2.4)	ナデ	ミガキ	不明	黒灰色	黒灰色	白っぽい灰色	密	やや良
7	617	1区 a1～2 3面 SD04	杯	土師器		(15.8)	不明	残存高 (3.4)	ナデ？ 磨滅	ナデ？ 磨滅	不明	明赤褐色	明赤褐色	明赤褐色	密	良
8	618	1区 a1～ 3面 SD04	杯	土師器		(15.6)	不明	残存高 (2.75)	ナデ？	ミガキ	不明	黒灰色	黒灰色	灰白色	密	良
9	472	1区 a6 4C 面側溝	杯	黒色 土器		(16.0)	不明	不明	ナデ	ナデ	ナデ	赤褐色	黒色	白っぽい赤褐色 黒色		良
10	559	1区 b6（北半） 4A面 4A 下層	杯	土師器		不明	(6.2)	残存高 (1.1)	ナデ	ナデ	ナデ	明赤褐色	灰色	明赤褐色	密	良
11	446	1区 b6 4C 面側溝	杯	土師器		不明	(6.4)	残存高 (1.35)	ナデ	ナデ	ナデ	赤褐色	明赤褐色	明赤褐色	密	良
12	445	1区 b6 4C 面側溝	杯	土師器		不明	(7.2)	残存高 (1.25)	ナデ	ナデ	ナデ	暗赤褐色	暗赤褐色	赤褐色	密	良
13	631	1区 b5 3D面 SD06	杯	土師器		不明	(7.3)	残存高 (0.95)	ナデ	ナデ	ナデ	薄赤褐色	明赤褐色	暗赤褐色	密	良
14	542	1区 c3 4A面 4A 下層	杯	黒色 土器		不明	(7.8)	残存高 (1.15)	ナデ	ミガキ？	ナデ	黒色	黒色	黒褐色	密	良
15	363	1区 a3 4C 面	杯	黒色 土器		不明	(8.7)	残存高 (1.05)	ナデ	ナデ		淡褐橙色	淡褐橙色 (一部灰褐色)	淡褐橙色		やや不良

※（　）内数値は反転復元後の数値

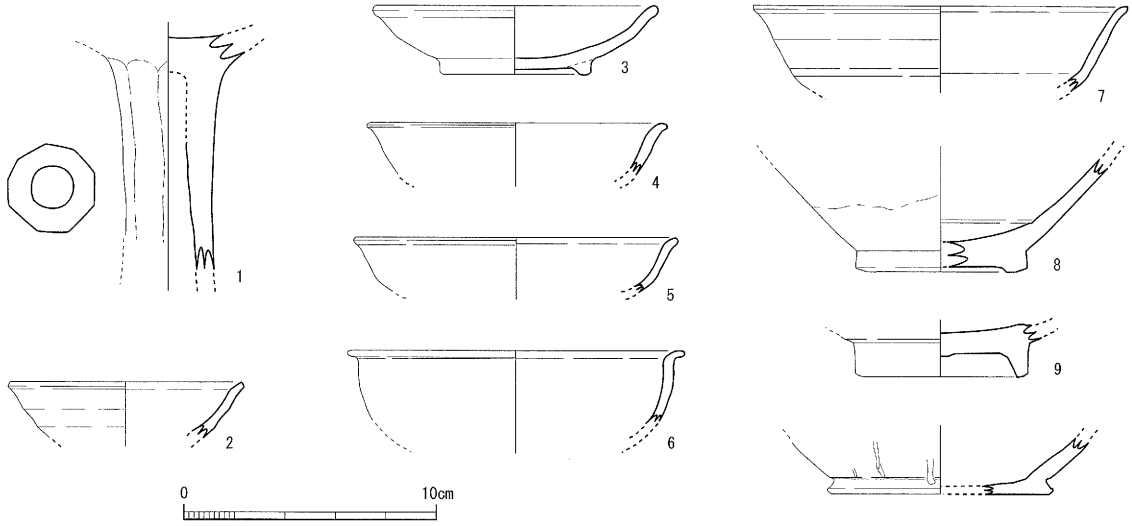


図19　１区　出土土師器　高杯、陶器（表６）

表６　１区　出土土師器　高杯、陶器

実測番号	登録番号	出土地点	器種	種類	時代	口径(cm)	底径(cm)	器高(cm)	調整 外面	調整 内面	調整 底部	色調 外面	色調 内面	色調 断面	胎土	焼成
1	620	1区　a1～2 3面 SD04	高杯	土師器	8/9C	脚柱径 (3.5)	不明	不明	ヘラ削り後ナデ	ナデ ミガキ？	不明	明赤褐色	薄明赤褐色	明赤褐色	密	良
2	477	1区　a6 4C 面側溝	碗	陶器	9/10C	(9.2)	不明	(2.2)	ロクロナデ 施釉	ロクロナデ 施釉	不明	緑混じり黄色	黄緑色	白灰色		良
3	1038	1区　a6 4A面 SX	碗	陶器		(11.0)	6.0	2.78	削り後ナデ 施釉	ナデ後施釉	ナデ	黄白色	黄白色 淡緑色（釉）	黄白色 淡緑色（釉）	密	
4	393	1区　c6 4B面 pit23	碗	陶器	中世	(12.0)	(2.0)	残存高 (2.1)	ミガキ 施釉	ミガキ 施釉		白色 薄緑色（釉）	白色 薄緑色（釉）	白色	密	良
5	536	1区　b4 4D 下層	碗	陶器		(19.6)	不明	(2.2)	ミガキ 施釉	ミガキ 施釉	不明	緑がかった 卵色（釉）	緑がかった 卵色（釉）	白灰色	密	良
6	382	1区　a2 4C 面	碗	陶器		(13.2)	不明	残存高 (2.7)	ハケ or ミガキ？ 磨滅	ハケ or ミガキ？ 磨滅		黒色	黒色	黒色	密	良
7	1007	1区　a4 4A 下層	碗	陶器		(14.9)		(3.5)	ロクロナデ 施釉	ロクロナデ 施釉		緑灰色（釉）	緑灰色（釉）	灰白色	密	良
8	485	1区　c3（南半） 南壁　3C 下層～ 4C 直上	碗	陶器		不明	(5.4)	残存高 (4.4)	ロクロ削り ナデ、施釉	ロクロ削り 施釉	ナデ ロクロ削り	緑がかった白色、卵色	緑がかった 白色	白色	密	良
9	356	1区　a3 4C 面	碗	陶器		不明	(6.8)	残存高 (2.05)	ロクロ削り 施釉	ロクロ削り 施釉		淡緑白色	灰白色	灰白色	密	良
10	409	1区　c2 4C 面	碗	陶器		不明	(8.6)	(2.2)	ロクロナデ	ロクロナデ	ロクロ回転 糸切り痕	明灰色	灰色	明灰色	密	良

※（　）内数値は反転復元後の数値

第２節　２区出土遺物

１．須恵器　杯蓋・壷蓋・杯（図20）

１～17は杯蓋、18は壷蓋である。１は明瞭な宝珠つまみを有する。２は１に比べ扁平な宝珠つまみを有する。５は扁平な宝珠つまみを有し、口縁端部は下方に短く屈曲している。つまみ中央はわずかに凸状になっている。８は扁平な擬宝珠つまみを有し、口縁端部は下方に短く屈曲し丸みを帯びている。18は口縁端部が外反しており、体部との境に沈線を施している。６・７・９・11・15～17は天井部と口縁部との間に段を有する。６・15は平らな天井部を有し、他の杯蓋よりも器高が低い。

19～43は杯で、24～43が高台を有する。19は平坦な底部より体部が外湾しながら立ち上がる。口縁端部内面に段が存在する。20は外反して立ち上がる体部を持ち、口縁部は丸くおさめている。21～23は直線ないしは緩やかに外湾する体部を有する。24は底部近くが外湾し、口縁部付近は外反する。高台は底面端部付近に「ハ」の字状に取り付けられている。29・32・40・42・43は底面両端に高台が取り付けられている。

時期は１が７世紀、２～18・25～28・31・35・36が８世紀、19～24・29・30・32～34・37～43が９世紀である。

２．須恵器　甕・壷（図21）

１～３は甕である。１は口縁端部を外側に折り曲げており、断面長方形を呈する。３は突出した平底を有し、体部との境が明瞭である。

４～19は壷である。８・９は口縁端部が肥厚しており、端面は凹状を呈する。また、８は頸部外面に線刻を有する。14は体部に「松井」と縦に線刻されている。

時期は１・２が８世紀、３～６が９世紀、７が中世、８～19が古代である。

３．土師器　杯・杯蓋・皿（図22・23）

１～26・28～58・62～66が杯、59・60が杯蓋、27・67～69が皿である。７・８・15・21・45・55は口縁部内面付近に沈線が施されている。５・６・11～14・17・20は口縁部内端の角に段を付けるように沈線が施されている。42は内湾して立ち上がる体部を有する。体部外面は指ナデが施されている。底部内面にはラセン状暗文が施されている。45は体部内外面に横方向のミガキが施されている。体部外面下半には指頭圧痕が見られる。55は体部外面に横方向のミガキが施され、底部内面には暗文が施される。杯は口縁部付近が外反するものが多い。

61～66は底面両端に高台を貼り付けている杯である。61は「ハ」の字状に高台を貼り付けている。63の高台は断面三角形である。59は中央部分がへこみ、60は擬宝珠つまみである。

52・56は内湾する体部と直立する口縁部を有する。強いナデにより直立部分と内湾部分との境が明瞭である。体部外面には指頭圧痕が見られる。

時期は１～15が８世紀、16～69が９世紀である。

4．土師器　高杯・黒色土器・瓦器・陶磁器（図24）

1～7は高杯、8・9は瓦器椀、10～13は黒色土器椀、14は磁器椀、15・16は陶器椀、17は黒色土器甕である。1は口縁端部が肥厚しており、体部内面には放射状暗文が施されている。3は体部が緩やかに外湾した後、外反する。体部内面には放射状暗文が施されている。また、口縁部内面に凹線が施されている。5は底部内面に螺旋状暗文が施されている。

8は口縁端部を丸くおさめており、内面には横方向のミガキが施されており、9は口縁部内端の角に段をつけるように沈線が施されている。内面には横方向のミガキが施されている。

10は両黒焼成で、外湾する体部に緩やかに外反する口縁部をもつ。口縁部内端の角に段を付けるように沈線が施されている。内面に斜め方向のミガキが施されている。11は内黒焼成で、外湾する体部に緩やかに外反する口縁部をもつ。口縁部内端の角に段を付けるように沈線が施されている。内面には2～3mm幅の斜め方向のミガキが施されている。12は内黒焼成で外湾する体部をもつ。口縁部内端付近に沈線が施されている。内面には横方向のミガキが緻密に施されている。底部付近には斜め方向のミガキが施されている。

時期は1～7が8世紀、8・9が12～13世紀、10～13が9～10世紀、14～16が近世、17が9世紀である。

5．土師器　土釜・鍔釜（図25）

1～2は土釜、3～14は鍔甕である。1は短い口縁部が直立し、口縁部付近に短く水平方向にのびる鍔が付けられている。3・4・9は外反する口縁部をもち、3・9は水平方向にのびる鍔を、4は下方向にのびる鍔をもつ。3・4は内面に横方向のハケメが施されている。

時期は1・2が中世、3～14が8世紀以降である。

6．土師器　甕（図26）

1～30は甕である。1は強く外反する口縁部をもち、口縁端部が肥厚している。2は外反する口縁部をもち、口縁内端が肥厚している。3は外反する口縁をもち口縁端部が肥厚している。4は強く外反する口縁部をもち、口縁部内端が肥厚している。1・4は頸部と体部の最大径が近似している。1～4は外面に縦方向のハケメが施されている。3・4は体部内面に指ナデが施されている。8・9・10・14は頸部に段を有し、口縁部と体部の境目が明瞭である。22は外反する口縁部をもち、口縁端部は外方へ短くのびる。30は短く外方にのびる口縁部をもつ。

時期は1～4が8世紀、5～20・22～29が9世紀、30が中世である。21が古代になる可能性がある。

7．土師器　鉢（図27）

1～11は鉢である。2・3・4は内湾する体部から外反する口縁部がのびている。11は内湾する体部をもち、口縁端部は肥厚し凹面を形成している。外面には横方向のヘラ削りと指頭圧痕が見られる。内面には不定方向のミガキが施されている。

時期は1～11すべて9世紀である。　（大矢）

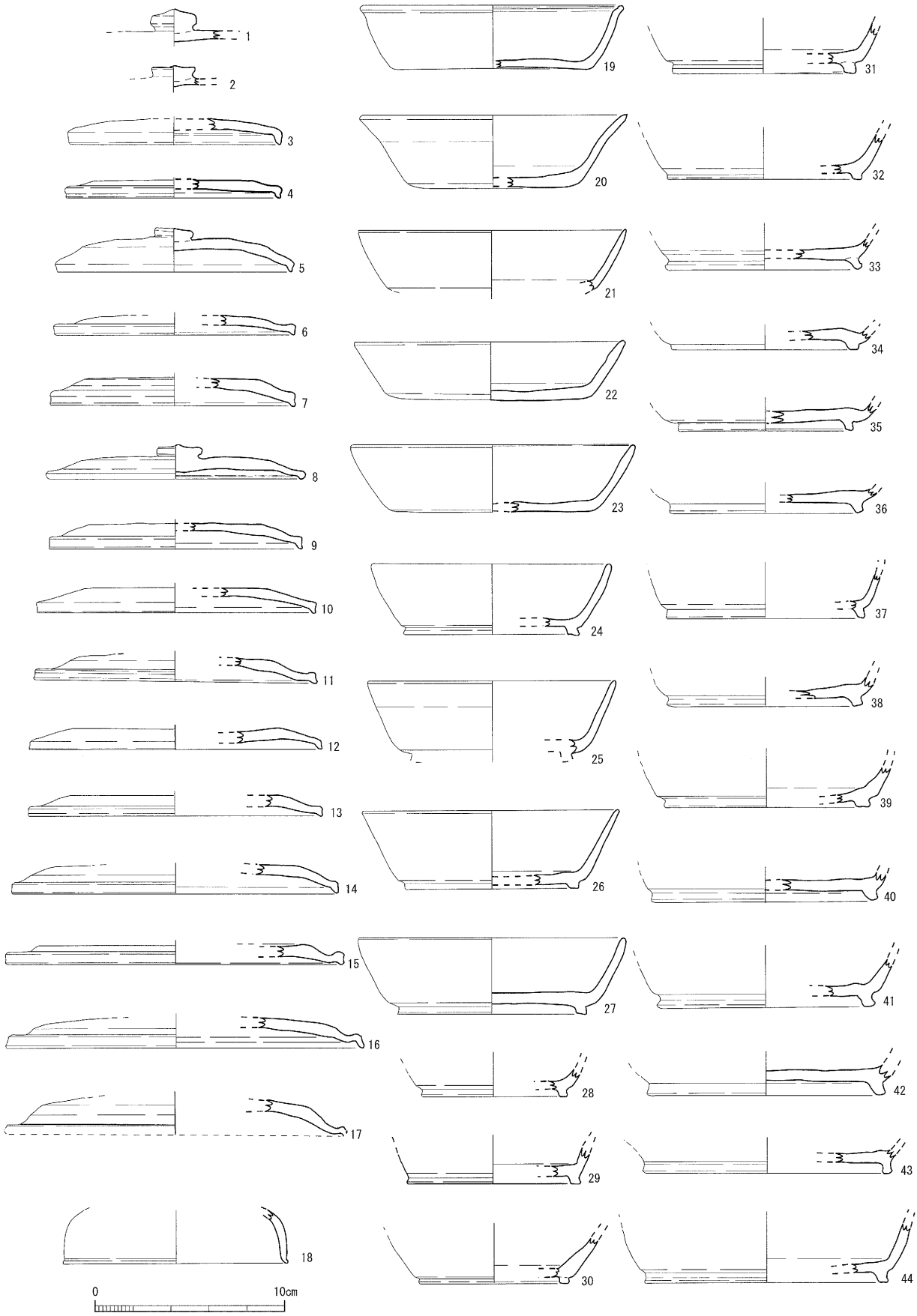


図20　２区　出土須恵器　杯・杯蓋（表７）

表７　２区　出土須恵器　杯・壷蓋

実測番号	登録番号	出土地点	器種	種類	時代	口径(cm)	底径(cm)	器高(cm)	調整 外面	調整 内面	調整 底部	色調 外面	色調 内面	色調 断面	胎土	焼成
1	89	2区 b1 4A面 SK202	杯蓋	須恵器	7C	不明	つまみ径 2.45	残存高 (1.8)	ナデ	ナデ	不明	灰色	灰色	灰色	密	良
2	230	2区 a7 側溝	杯蓋	須恵器	8C	不明	つまみ径 2.35	残存高 (1.1)	ナデ	ナデ	不明	灰色 (やや薄)	灰色 (やや薄)	灰色 (やや薄)	密	良
3	271	2区 b4・3 側溝	杯蓋	須恵器		(11.3)	－	残存高 (1.3)	ナデ、少量の釉まだらに付着	ナデ	口縁端部 ナデ	薄灰色	暗灰色	灰色	密	良
4	96	2区 b4 4A 層下	杯蓋	須恵器		(11.6)	－	残存高 (0.95)	ロクロナデ ヘラ削り	ロクロナデ	口縁端部 ヘラ削り？	薄灰色～灰色 (やや暗)	薄灰色～灰色	薄灰色	密	良
5	9	2区 b5 SK213	杯蓋	須恵器		(12.9)	つまみ径 2.0	2.35	ナデ	ナデ	－	薄灰色 薄緑色 (釉)	薄灰色	薄灰色		
6	261	2区 a1 側溝	杯蓋	須恵器		(13.0)	－	残存高 (1.0)	ヘラ削り後ナデ ナデ	ナデ	口縁端部 ナデ	薄黄灰色	薄黄灰色	薄黄灰色	密	良
7	604	2区 b5 4 面	杯蓋	須恵器		(12.8)	－	残存高 (1.4)	ヘラ削り ナデ	ナデ ロクロナデ	－	薄灰色	薄灰色	薄灰色	密	良
8	170	2区 b5 4A 層下	杯蓋	須恵器		(13.8)	つまみ径 2.4	(1.8)	回転ナデ 削り	ナデ	頭部 ナデ	明灰色	灰色	濃灰色		良
9	603	2区 b5 4 面	杯蓋	須恵器		(13.4)	－	残存高 (1.85)	ロクロナデ ヘラ削り	ナデ ロクロナデ	－	薄灰色	薄灰色	薄灰色	密	良
10	605	2区 b5 4 面	杯蓋	須恵器		(14.8)	－	残存高 (1.3)	ヘラ削り ナデ	ナデ (ロクロ)	－	薄灰色	灰色	薄灰色	密	良
11	74	2区 b6 4B 層下	杯蓋	須恵器		(14.9)	－	残存高 (1.3)	ヘラ削り ナデ	ナデ ヘラ削り	口縁部 ナデ	薄灰色	薄灰色	薄灰色	密	良
12	154	2区 b4 4A 層下	杯蓋	須恵器		(15.5)	－	(1.2)	ヘラ削り後ナデ ナデ	ナデ	－	暗灰色	灰色 (やや暗)	灰色 (やや暗)	密	良
13	174	2区 b5 4A 層下	杯蓋	須恵器		(15.6)	頭径 不明	不明		ナデ	不明	灰色	明灰色	明灰色	密	良
14	108	2区 b3 4A 層下	杯蓋	須恵器		(17.3)	－	残存高 (1.5)	ヘラ削り ナデ	ナデ	口縁部 ナデ	薄灰色	薄灰色	薄灰色	密	良
15	68	2区 b6 4B 層下	杯蓋	須恵器		(18.0)	－	残存高 (1.05)	ヘラ削り ナデ	ナデ	口縁部 ナデ	灰色	灰色	灰色 (やや暗)	密	やや甘
16	69	2区 b6 4B 層下	杯蓋	須恵器		(19.2)	－	残存高 (1.6)	(ロクロ) ヘラ削り、ナデ	ナデ	口縁部 ナデ	薄灰色	薄灰色	薄灰色	密	良
17	52	2区 b1 4B面 SD237	杯蓋	須恵器		(18.0)	不明	残存高 (1.8)	ヘラ削り ナデ	ナデ	不明	灰色 (やや暗)	灰色	灰色	密	良
18	46	2区 b5 4B面 SD234	壷蓋	須恵器		(11.8)	不明	残存高 (7.8)	ナデ	ナデ		赤褐色	暗赤褐色			良
19	51	2区 b1 4B面 SD237	杯	須恵器	9C	(13.9)	(10.4)	3.2	ナデ	ナデ、口縁端部 ヘラで凹線	ナデ	暗褐色	褐色 暗褐色	褐色	密	良
20	94	2区 b4 4A 層下	杯	須恵器		(14.2)	(9.2)	3.85	ロクロナデ	ロクロナデ	ヘラ削り (切り) 後、ナデ	極薄灰色 (ほぼ白色)～薄灰色	極薄灰色 (ほぼ白色)～薄灰色	極薄灰色 (ほぼ白色)	密	良
21	153	2区 b4 4A 層下	杯	須恵器		(14.2)	不明	不明	ナデ	ナデ	不明	暗灰色	暗灰色	灰色		良
22	138	2区 b4 4A 層下	杯	須恵器		14.2	9.8	3.1	横ナデ	横ナデ	指ナデ	暗灰色	暗灰色	暗褐灰色	密	
23	93	2区 b4 4A 層下	杯	須恵器		(15.2)	(11.0)	3.5	ナデ	ナデ	ヘラ削り (切り) ヘラ削り後ナデ	薄灰色	薄灰色	薄灰色	密	良
24	95	2区 b4 4A 層下	杯	須恵器		(12.5)	(9.1)	3.75	ナデ ヘラ削り	ナデ	ヘラ削り ナデ	黒灰色	灰色	赤みがかった灰色		良
25	106	2区 a1 4B 層下	杯	須恵器	8C	13.2	不明	残存高 (4.0)	回転横ナデ	回転横ナデ		灰白色	灰オリーブ色	灰白色	密	良
26	328	2区 a2 4B面 SK235	杯	須恵器		(13.5)	(8.8)	(4.15)	ナデ ロクロナデ	ナデ ロクロナデ	ヘラ削り後ナデ ナデ	暗灰色	灰色 (やや暗)	灰色 (やや暗)	密	良
27	11	2区 b5 4B面 SD210	杯	須恵器		(14.0)	(10.0)	4.0	ナデ	ナデ	ヘラ削り	灰色 (やや暗)	灰色 (やや暗)	灰色	密	良
28	257	2区 a1 3E面 3D 層下	杯	須恵器		不明	(7.9)	残存高 (1.5)	ロクロナデ	ロクロナデ	ヘラ削り後ナデ	薄灰色	薄灰色	薄黄灰色	密	良
29	270	2区 b4・3 側溝	杯	須恵器	9C	不明	(9.0)	残存高 (1.9)	ナデ	ナデ	ナデ	暗灰色	灰色	薄茶褐色	密	良
30	337	2区 a5 4B面 SK235	杯	須恵器		不明	(7.9)	残存高 (2.4)	ナデ	ナデ	ナデ	白灰色	白灰色	白灰色	密	甘
31	112	2区 b3 4A 層下	杯	須恵器	8C	不明	(9.9)	残存高 (2.1)	ロクロナデ	ロクロナデ	ナデ ヘラ削り	薄灰色	薄灰色	薄灰色	密	良
32	85	2区 a1 4B 層下	杯	須恵器	9C	不明	(10.1)	残存高 (2.4)	ナデ ヘラ削り	ナデ		灰褐色	白黄色		密	やや甘
33	182	2区 b5 4A 層下	杯	須恵器		不明	(10.4)	残存高 (2.15)	ナデ	ロクロナデ	ヘラ削り後ナデ	明灰色	茶色がかった灰色	暗灰色	密	良
34	161	2区 b4 4A 層下	杯	須恵器		不明	(10.1)	不明	ナデ	ナデ	ヘラ削り後ナデ ナデ	暗灰色	灰色	灰色 (やや薄)		良
35	73	2区 a1 4B 層下	杯	須恵器	8C	不明	(9.3)	不明	ナデ	ナデ		暗灰色 (底部灰色)	灰色		密	良
36	178	2区 b5 4A 層下	杯	須恵器		不明	(10.0)	不明	ナデ	ナデ	ヘラ削り	明白灰色	明白灰色	白っぽい灰色	密	良
37	113	2区 b3 4A 層下	杯	須恵器	9C	不明	(10.4)	残存高 (2.3)	ナデ 磨滅	ナデ 磨滅	ナデ	極薄赤褐色 (ほぼ白色)	薄明赤褐色	極薄赤褐色 (ほぼ白色)	密	甘
38	210	2区 b1 4B面 SD237	杯	須恵器		不明	10.4	不明	ナデ	ナデ		灰色	灰色	灰色		良
39	248	2区 a2 3E面 3D 層下	杯	須恵器		不明	(10.6)	残存高 (2.1)	ロクロナデ	ロクロナデ	ヘラ削り ヘラ削り後ナデ	暗灰色	暗灰色 (やや薄)	灰色	密	良
40	98	2区 b4 4A 層下	杯	須恵器		不明	(12.0)	不明	ナデ	ナデ	ナデ ヘラ削り	灰色	灰色	灰色 (やや薄)	密	良
41	72	2区 a1 4B 層下	杯	須恵器		不明	(11.6)	残存高 (1.2)	ナデ	ナデ		灰色	暗灰色	灰紫色		
42	251	2区 b1 3D面 SX125	杯	須恵器		不明	(12.7)	不明	ロクロナデ	ロクロナデ	ナデ ヘラ削り後ナデ	薄灰褐色	薄灰褐色	薄灰褐色	密	やや甘
43	70	2区 a1・2 北壁	杯	須恵器		不明	(13.0)	不明	ヘラ削り ナデ	ナデ		灰色	灰色			良

※(　) 内数値は反転復元後の数値

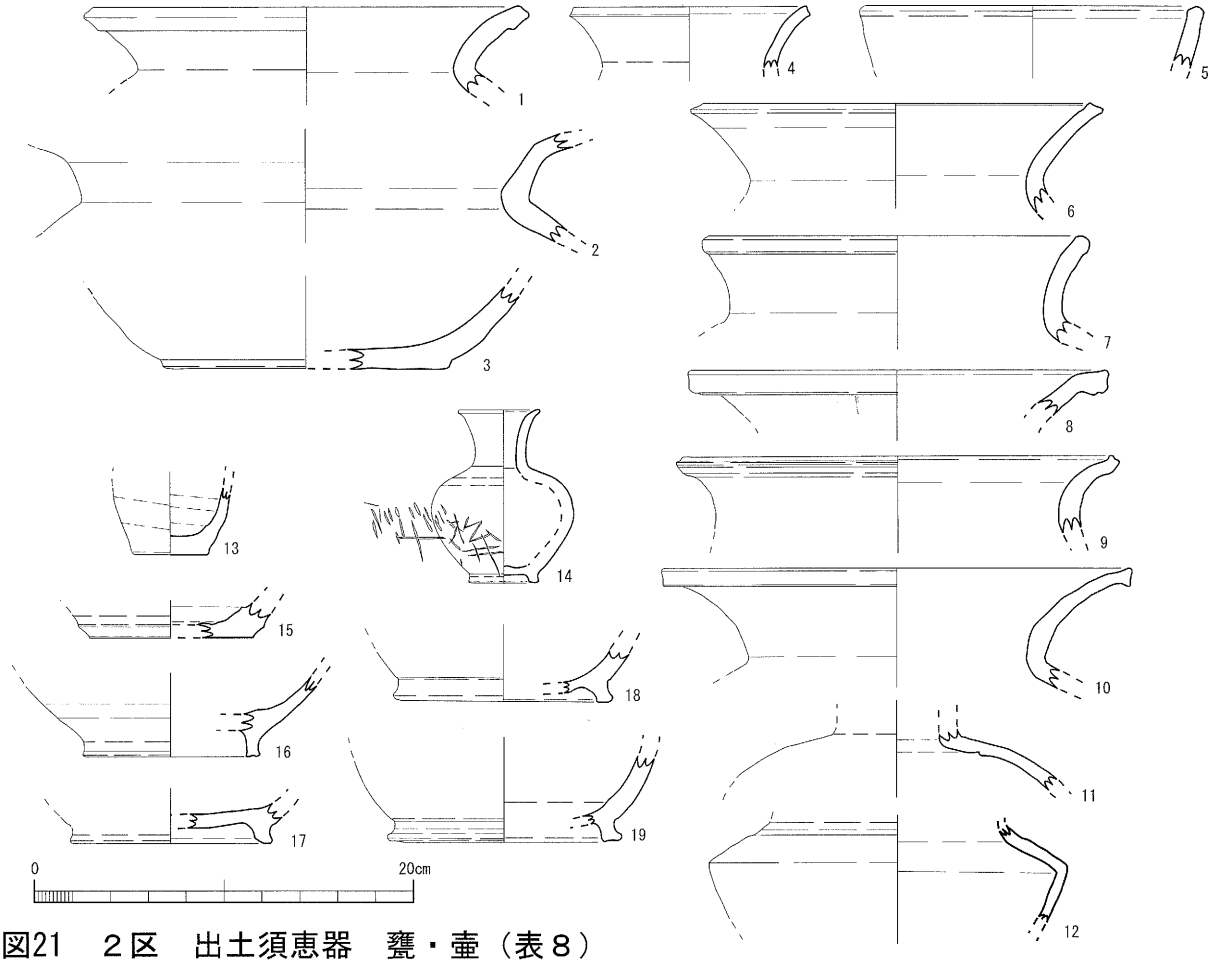


図21　２区　出土須恵器　甕・壷（表８）

表８　２区　出土須恵器　甕・壷

実測番号	登録番号	出土地点	器種	種類	時代	口径(cm)	底径(cm)	器高(cm)	調整 外面	調整 内面	調整 底部	色調 外面	色調 内面	色調 断面	胎土	焼成
1	279	2区 a5 4B面 SK235	甕	須恵器	8C	(22.6)	不明	残存高 (4.6)	ロクロナデ	ロクロナデ	不明	薄灰色	薄灰色	極薄灰色 (白に近い)	密	良
2	607	2区 b5 4面	甕	須恵器		不明	頸部径 (23.6)	残存高 (5.4)	ナデ 体部緑釉付着	ナデ、頸・口縁部緑釉付着。体部タタキ後ナデ	不明	薄灰色 にぶい緑色(釉)	薄灰色 にぶい緑色(釉)	薄灰色		良
3	253	2区 a1 3E面 3D層下	甕	須恵器	9C	不明	(15.2)	残存高 (4.4)	ロクロナデ	ロクロナデ	ロクロ回転糸切り	灰色 (やや薄)	黒灰色	薄灰色	密	
4	239	2区 a5 3D面 SD130	壷	土師器		(12.6)	不明	残存高 (3.2)	ナデ	ナデ、ハケ？磨滅	不明	薄明赤褐色	薄明赤褐色	明赤褐色	密	良
5	86	2区 a1 4B層下	壷	須恵器		(18.2)	不明	残存高 (3.2)	ヘラ削り ナデ	ヘラ削り ナデ		灰色	灰色		密	良
6	55	2区 a2 4B層下	壷	須恵器		(21.6)	不明	残存高 (5.75)	ナデ、口縁平坦部ヘラ削り後ナデ	ナデ	不明	緑灰色	薄灰色	灰色 (やや暗)	密	良
7	198	2区 a2～3 4A層下	壷	土師器	中世	(20.4)	不明	残存高 (5.6)	ナデ	ナデ		灰色	薄灰色	一部赤みがかった灰色	密	やや甘
8	260	2区 a1 側溝	壷	須恵器	8/9C	(21.9)	不明	残存高 (2.3)	ナデ、ヘラで段ナデ（一部凹線による記号の様なもの有）	ナデ	不明	暗灰色	暗灰色	暗灰色 (やや暗)	密	良
9	30	2区 a1～7 4A面下	壷	須恵器		(23.4)	不明	残存高 (3.8)	ナデ、口縁平坦部ヘラ削り後ナデ	ナデ	不明	灰色	灰色	灰色		良
10	107	2区 b3 4A層下	壷	須恵器		(24.6)	不明	残存高 (6.3)	ロクロナデ	ロクロナデ	不明	暗灰色	暗灰色、全体に白色の釉？	暗赤紫色	密	良
11	29	2区 b3 4B面 SD216	壷	須恵器		不明	不明	残存高 (3.0)	ナデ	ナデ	不明	明灰色	明灰色	明灰色	密	良
12	61	2区 b3 4B面 pit155	壷	須恵器		最大径 (18.8)	不明	残存高 (5.1)	ヘラ削り ナデ	ナデ	不明	薄灰色	薄灰色	薄灰色	密	良
13	335	2区 a5 4B面 SK235	壷	須恵器		不明	3.8	残存高 (3.5)	ロクロ水引き	ロクロ水引き	ロクロ回転糸引き	灰白色（一部薄赤褐色）	薄赤褐色	薄赤褐色	密	甘
14	1043	2区 b5 北東4面相当攪乱内	壷	須恵器		4.3	3.7	9.05	ロクロナデ	ロクロナデ	ナデ	灰色 自然釉付着	灰色 自然釉付着	灰色	密	
15	208	2区 b1 4B面 SD237	壷	須恵器		不明	8.6	残存高 (1.2)	削り？(ナデ？)	横ナデ	削り後ナデ？	灰色	灰色	灰色		良
16	45	2区 b5 4B面 SD209	壷	須恵器		不明	(9.4)	残存高 (4.2)	ナデ	ナデ		灰色	灰色 緑灰色（釉）		密	良
17	262	2区 a1 側溝	壷	須恵器		不明	(10.4)	残存高 (2.2)	ナデ	ナデ	ヘラ削り後ナデ	薄黒色	薄灰色	薄灰色		
18	330	2区 a2 4B面 SK235	壷	須恵器		不明	(11.6)	残存高 (2.7)	ナデ	ナデ	ナデ	暗緑灰色	薄灰色	灰色	密	良
19	211	2区 a5 3D面 SD129	壷	須恵器		不明	(12.4)	残存高 (4.5)	ロクロナデ	ナデ	ナデ	薄灰色	灰色	極薄灰色	密	良

※（　）内数値は反転復元後の数値

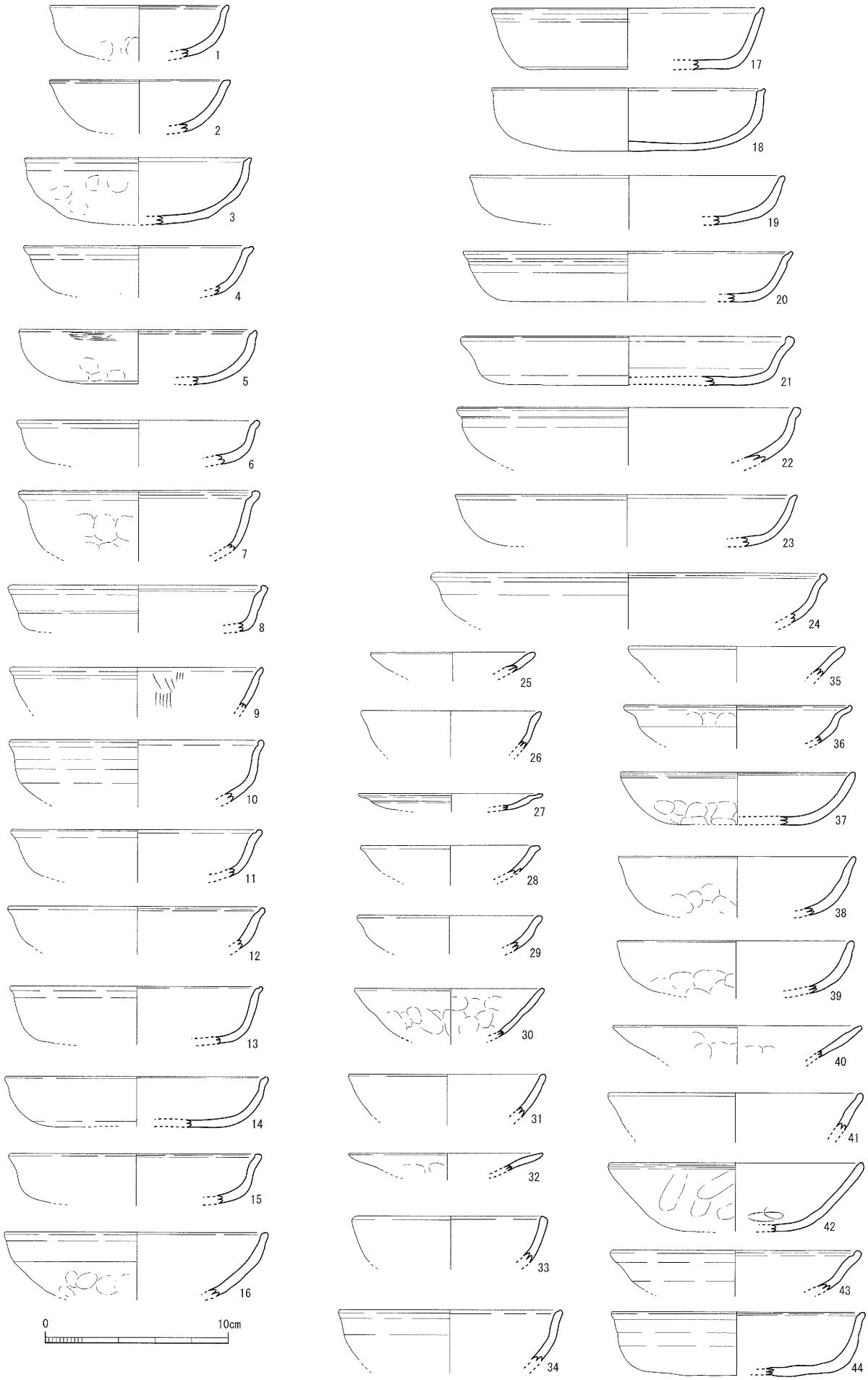


図22　２区　出土土師器　杯（表９）

表９　２区　出土土師器　杯

実測番号	登録番号	出土地点	器種	種類	時代	口径(cm)	底径(cm)	器高(cm)	調整 外面	調整 内面	調整 底部	色調 外面	色調 内面	色調 断面	胎土	焼成
1	306	2区 b4 4A層下	杯	土師器	8C	(9.8)	不明	残存高(2.3)	ナデ 指圧痕	ナデ	不明	白っぽい赤褐色	赤褐色	白っぽい赤褐色	密	良
2	390	2区 a5 4B面 SK235	杯	土師器		(9.9)	不明	残存高(2.8)	ナデ	ナデ	不明	薄明赤褐色(肌色に近い)	薄明赤褐色(生成に近い)	薄明赤褐色(生成に近い)	密	良
3	145	2区 b4 4A層下	杯	土師器		(12.6)	不明	残存高(約3.7)	ヘラ削り ナデ	ヘラ削り ナデ		黄褐色	黄褐色			良
4	166	2区 b4 4A層下	杯	土師器		(12.8)	不明	(2.6)	ナデ	ナデ	不明	薄明赤褐色	薄明赤褐色	薄明赤褐色		良
5	123	2区 b3 4A層下	杯	土師器		(13.2)	不明	残存高(3.0)	ナデ	ナデ	不明	明赤褐色	薄明赤褐色	明赤褐色	密	良
6	163	2区 b4 4A層下	杯	土師器		(13.4)	不明	(3.4)	ナデ、口縁端部ヘラで凹線後ナデ	ナデ		明赤褐色	明赤褐色	明赤褐色		良
7	269	2区 b4・3 側溝	杯	土師器		(13.2)	不明	残存高(3.2)	ナデ 指圧痕	ミガキ？	不明	明赤褐色	薄明赤褐色	薄明赤褐色	密	良
8	286	2区 b4 3G・4A面 pit191	杯	土師器		(14.2)	不明	(2.5)	ナデ	ナデ、口縁端部工具で段	不明	薄明赤褐色	明赤褐色	明赤褐色		良
9	289	2 区 4 面柱穴列	杯	土師器		(14.0)	不明	(3.4)	ナデ、口縁端部工具で段（沈線）	ナデ	不明	極薄褐色	薄褐色	極薄褐色		良
10	290	2 区 4 面柱穴列	杯	土師器		(14.0)	不明	(3.4)	ナデ	ナデ、口縁端部工具で段（沈線）	不明	薄明赤褐色	明赤褐色	薄明赤褐色		良
11	341	2区 a5 4B面 SK235	杯	土師器		(13.8)	不明	(2.5)	ナデ	ナデ、口縁端部ヘラで段つけ後ナデ	不明	薄明赤褐色	薄明赤褐色	薄明赤褐色	密	良
12	310	2区 b4 4A層下	杯	土師器		(14.2)	不明	(2.3)	ナデ	ナデ	不明	暗赤褐色	暗赤褐色	暗赤褐色	密	良
13	609	2区 b5 4面	杯	土師器		(13.8)	不明	(3.2)	ナデ	ナデ	不明	薄灰褐色	赤灰褐色	薄灰褐色	密	良
14	122	2区 b3 4A層下	杯	土師器		(14.4)	不明	残存高(2.75)	ナデ	ナデ	不明	明赤褐色	褐色	黒褐色～明赤褐色	密	良
15	345	2区 b4 4面	杯	土師器		13.9	不明	残存高(2.7)	横ナデ	横ナデ		橙乳色	橙乳色	橙乳色	密	良
16	283	2区 b4 3G・4A面 pit153	杯	土師器	9C	(14.3)	不明	(3.5)	ナデ	ナデ	不明	薄明赤褐色	薄明赤褐色	薄明赤褐色		良
17	2	2区 b4 4B面 SD227	杯	土師器		(14.8)	(10.6)	3.3	ナデ	ナデ後口縁端部ヘラで凹線	ナデ	明黄褐色	明黄褐色	明黄褐色	密	良
18	21	2区 b3 4B面 SD214	杯	土師器		(14.9)		3.4	ナデ	ナデ	ナデ	にぶい赤褐色	暗茶褐色	赤褐色～黒色	密	良
19	12	2区 b5 4B面 SD210	杯	土師器		(17.4)	不明	残存高(2.65)	ナデ	ナデ	不明	明赤褐色	明赤褐色	明赤褐色	密	良
20	285	2区 b4 3G・4A面 pit190	杯	土師器		(18.0)	不明	(2.8)	ナデ	ナデ	不明	極薄明赤褐色	薄赤褐色	薄明赤褐色	密	良
21	121	2区 b3 4A層下	杯	土師器		(18.4)	不明	残存高(2.65)	ナデ（磨滅）	ナデ	削り後ナデ	明赤褐色	薄明赤褐色	明赤褐色	密	良
22	143	2区 b4 4A層下	杯	土師器		(19.0)	不明	(3.0)	ヘラ削り ナデ	ヘラ削り ナデ		黄褐色	黄褐色		密	良
23	48	2区 b5 4B面 SD231	杯	土師器		19.0	不明	残存高(2.8)	横ナデ	横ナデ		明赤褐色	明赤褐色	明赤褐色	密	良
24	155	2区 b4 4A層下	杯	土師器		(22.6)	不明	(3.6)	ナデ	ナデ 端部ヘラで段	不明	極薄明赤褐色	薄明赤褐色	薄明赤褐色		良
25	326	2区 b5 4A面 SK151	杯	土師器		(9.2)	不明	残存高(1.1)	ナデ	ナデ	不明	薄褐色	薄褐色	薄褐色(ほぼ白色)	密	良
26	273	2区 b4・3 側溝	杯	土師器		(10.0)	不明	(2.0)	ナデ	ナデ、口縁端部ギ凹線	不明	極薄明赤褐色	黒色(やや薄)	極薄灰色(ほぼ白色)		良
27	291	2 区 4 面柱穴列	皿	土師器		(10.0)	不明	(0.7)	ナデ	ナデ	不明	薄明赤褐色	明赤褐色	薄明赤褐色		良
28	227	2区 a7 3D面	杯	土師器		(9.8)	不明	(1.5)	ナデ	ナデ	不明	薄明赤褐色	明赤褐色	明赤褐色	密	良
29	228	2区 a6 3D面	杯	土師器		(10.0)	不明	残存高(1.9)	ナデ	ナデ	不明	薄赤褐色	薄赤褐色	極薄赤褐色	密	良
30	338	2区 a5 4B面 SK235	杯	土師器		(10.3)	不明	残存高(2.6)	ナデ	ナデ	不明	赤褐色	薄明赤褐色	暗褐色	密	良
31	232	2区 b5 3E面 3D層下	杯	土師器		(10.7)	不明	(2.2)	ナデ 磨滅	ナデ 磨滅	不明 磨滅	明赤褐色	明赤褐色	薄赤褐色	密	良
32	265	2区 a1 側溝	杯	土師器		(10.5)	不明	残存高(0.9)	ナデ	ナデ	不明	薄黄褐色	薄褐色	薄褐色	密	良
33	133	2区 b3 4A層下	杯	土師器		(10.8)	不明	残存高(2.5)	ナデ ミガキ？	ナデ	不明	明赤褐色(やや薄)	明赤褐色(やや薄)	明赤褐色	密	良
34	156	2区 b4 4A層下	杯	土師器		(12.2)	不明	不明	ナデ	ナデ	不明	薄明赤褐色	薄明赤褐色	極薄明赤褐色(ほぼ白色)		良
35	225	2区 a7 3D面	杯	土師器		(12.0)	不明	残存高(1.55)	ナデ	ナデ		黄褐色	黄褐色	明黄褐色	密	良
36	266	2区 a1 側溝	杯	土師器		(12.6)	不明	不明	ナデ	ミガキ？	不明	薄明赤褐色	極薄明赤褐色	極薄明赤褐色	密	良
37	99	2区 b4 4A層下	杯	土師器		(13.0)	不明	不明	ミガキ？	ミガキ？	不明、指圧痕未調整	明赤褐色	明赤褐色	明赤褐色	密	良
38	344	2区 b4 4面	杯	土師器		(13.2)	不明	残存高(3.2)	ナデ	ナデ		淡褐橙色	淡橙灰色	淡褐橙色	密	良
39	277	2区 b5 側溝	杯	土師器		(12.8)	不明	残存高(2.8)	ナデ 指圧痕	ナデ		薄黒褐色	薄灰褐色	黒灰色 薄灰褐色	密	良
40	236	2区 b4・3 3D面 SD126	杯	土師器		(13.7)	不明	残存高(2.8)	ナデ 指圧痕	ナデ 指圧痕	不明	薄黄褐色	薄黄褐色	薄黄褐色	密	良
41	354	2区 b4・5 4A面 SK152	杯	土師器		(13.8)	不明	残存高(2.0)	ナデ？ 磨滅	ミガキ？ 磨滅		薄赤褐色	赤褐色	赤褐色	密	良
42	59	2区 b3 4B面 pit155	杯	土師器		(14.2)	不明	(2.0)	ナデ	ナデ、口縁端部ヘラで段つけ後ナデ	不明	明赤褐色	明赤褐色	明赤褐色	密	良
43	323	2区 b5 4A面 SK151	杯	土師器		(13.5)	不明	残存高(3.7)	ナデ	ナデ	不明	赤褐色	赤褐色(やや暗)	赤褐色(やや暗)	密	良
44	144	2区 b4 4A層下	杯	土師器		(14.0)	不明	残存高(3.6)	ヘラ削り ナデ	ヘラ削り ナデ		黄褐色	白っぽい黄褐色		密	良

※（　）内数値は反転復元後の数値

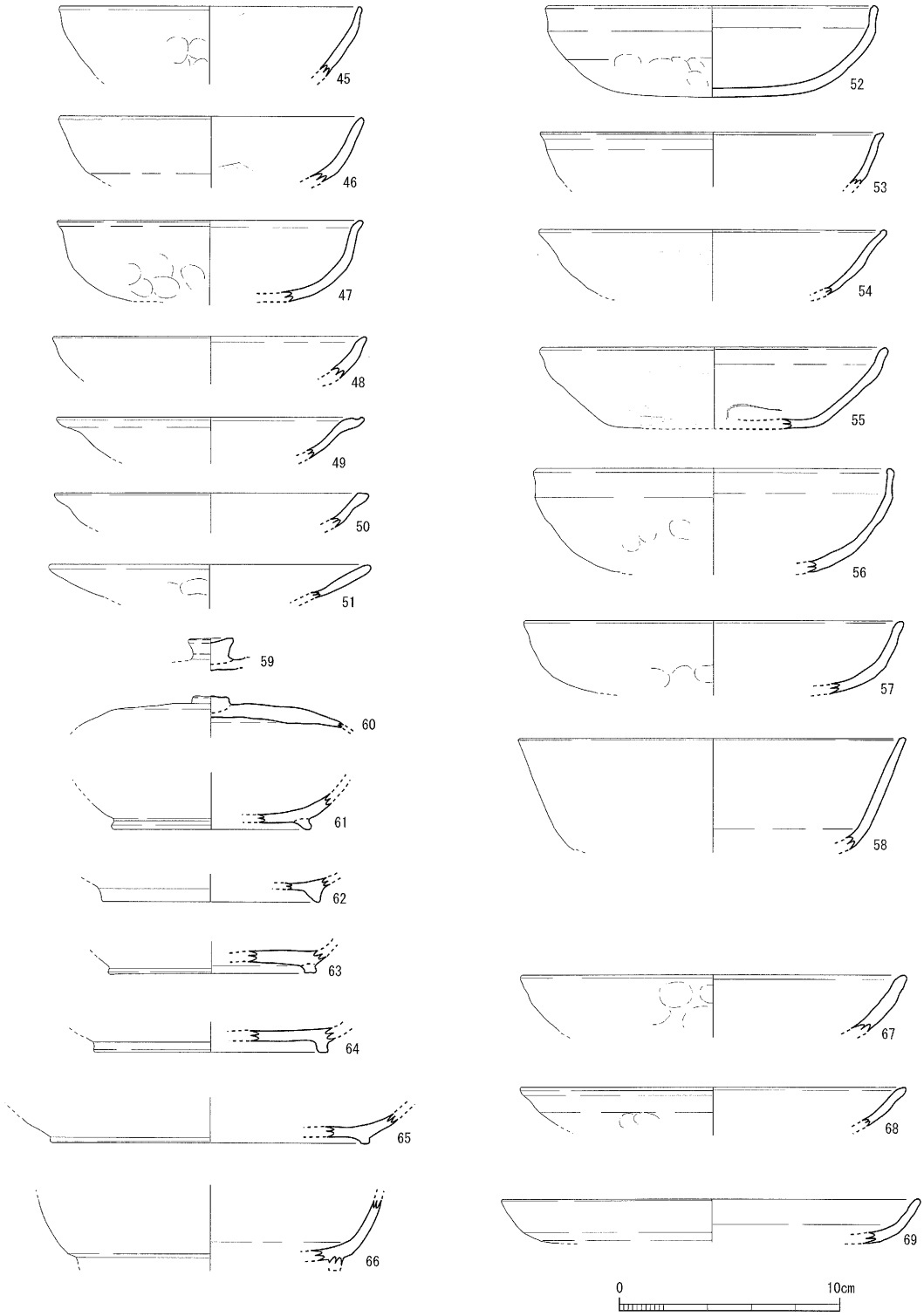


図23　２区　出土土師器　杯・杯蓋・皿（表10）

表10　２区　出土土師器　杯・杯蓋・皿

実測番号	登録番号	出土地点	器種	種類	時代	口径(cm)	底径(cm)	器高(cm)	調整 外面	調整 内面	調整 底部	色調 外面	色調 内面	色調 断面	胎土	焼成
45	307	2区 b4 4A層下	杯	土師器	9C	13.8	不明	残存高(3.2)	ナデ	ナデ	不明	淡橙色	橙色	黄褐色	密	良
46	4	2区 b5 4B面 SK152	杯	土師器		(13.8)	不明	残存高(2.9)	ナデ	ナデ 一部ハケ	不明	黄褐色	黄褐色		密	良
47	301	2区 b4 4A層下	杯	土師器		(13.8)	不明	残存高(3.7)	ナデ 磨滅	ナデ 磨滅	不明	淡橙色	淡橙色	暗橙色	密	良
48	84	2区 a1 4B層下	杯	土師器		(14.3)	不明	残存高(1.9)	ヘラ削り ナデ	ナデ		黄褐色	黄褐色 (所々鉄分含)		密	良
49	238	2区 a5 3D面 SD130	杯	土師器		(14.1)	不明	残存高(1.8)	ナデ 施釉	ナデ 施釉	不明	薄緑褐色	薄緑褐色	薄灰色	密	良
50	129	2区 b3 4A層下	杯	土師器		(14.4)	不明	残存高(1.8)	ナデ ミガキ？	ナデ	不明	薄明赤褐色	明赤褐色	明赤褐色	密	良
51	231	2区 b5 3E面 3D層下	杯	土師器		(14.6)	不明	残存高(1.5)	ナデ	ナデ（ミガキ？）	不明	赤褐色 (やや暗)	赤褐色	薄赤褐色 薄黒色	密	良
52	284	2区 b5 3G・4A面 pit187	杯	土師器		(15.1)	(7.0)	4.1	ナデ 指圧痕	ナデ	ナデ	明赤褐色	薄明赤褐色	赤褐色		良
53	50	2区 b4 4B面 pit221	杯	土師器		15.6	不明	残存高(4.2)	横ナデ	縦ナデ		明褐色	明褐色	明褐色	密	
54	130	2区 b3 4A層下	杯	土師器		(15.6)	不明	残存高(2.9)	ミガキ	ナデ、口縁端部ヘラ凹線後ナデ	不明	明赤褐色	薄明赤褐色	薄明赤褐色	密	良
55	302	2区 b4 4A層下	杯	土師器		(15.6)	不明	残存高(3.9)	ナデ ミガキ	ナデ、ミガキ後ナデ、暗紋	不明	明赤褐色	白っぽい赤褐色	明赤褐色	密	良
56	287	2区 b5 3G・4A面 pit187西	杯	土師器		(16.4)	(6.0)	残存高(4.0)	ナデ 指圧痕？	ナデ	ナデ	薄明赤褐色	明赤褐色	明赤褐色		良
57	179	2区 b5 4A層下	杯	土師器		(17.2)	不明	残存高(3.3)	ナデ	ナデ	不明	明赤褐色	白明赤褐色	赤褐色		良
58	5	2区 b5 4B面 SK152	杯	土師器		(17.6)	不明	残存高(5.0)	ロクロナデ	ロクロナデ		灰色	灰色			良
59	234	2区 b5 3E面 3D層下	杯蓋	土師器		不明	つまみ径2.0	残存高(1.4)	ナデ	ナデ	不明	明赤褐色	明赤褐色	明赤褐色	密	良
60	280	2区 a5 4B面 SK235	杯蓋	土師器		不明	つまみ径1.6	残存高(1.45)	ナデ ヘラ削り後ナデ	ナデ ヘラ削り後ナデ	不明	灰色	灰色 (やや薄)	薄灰色 暗赤褐色	密	良
61	115	2区 b3 4A層下	杯	土師器		不明	(9.2)	残存高(1.65)	ナデ	ナデ	ナデ	明赤褐色	明赤褐色	明赤褐色	密	良
62	62	2区 a3 4B層下	杯	土師器		不明	(9.4)	残存高(1.05)	ナデ	ナデ	ナデ	白色	極薄赤褐色 (ほぼ白色)	極薄赤褐色 (ほぼ白色)		良
63	255	2区 a1 3E面 3D層下	杯	土師器		不明	(10.1)	残存高(1.15)	ナデ	ナデ	ナデ	黒灰褐色	暗褐色	薄赤褐色	密	良
64	351	2区 b5 4面	杯	土師器		不明	(10.5)	残存高(1.1)		ナデ		灰白色	灰白色	灰白色	密	やや軟
65	339	2区 a5 4B面 SK235	杯	土師器		不明	(14.4)	残存高(1.35)	ナデ	ナデ	ナデ	明赤褐色	薄明赤褐色 (肌色に近い)	薄明赤褐色 (肌色に近い)	密	良
66	7	2区 b4 4B面 pit212	杯	土師器		不明	不明	不明	ナデ	ナデ	ヘラ削り	灰色 (やや暗)	灰色 (やや暗)	灰色	密	良
67	304	2区 b4 4A層下	皿	土師器		(17.4)	不明	残存高(2.55)	ナデ	ナデ	不明	白っぽい明赤褐色	白っぽい赤褐色	白っぽい赤褐色	密	良
68	18	2区 b3 4B面 pit224	皿	土師器		(17.4)	不明	残存高(1.75)	ナデ	ナデ	不明	赤褐色	薄赤褐色	薄赤褐色	密	良
69	97	2区 b4 4A層下	皿	土師器		(18.9)	不明	残存高(2.05)	ナデ	ナデ	不明	灰色 (やや暗)	灰色 (やや暗)	灰色	密	良

※(　) 内数値は反転復元後の数値

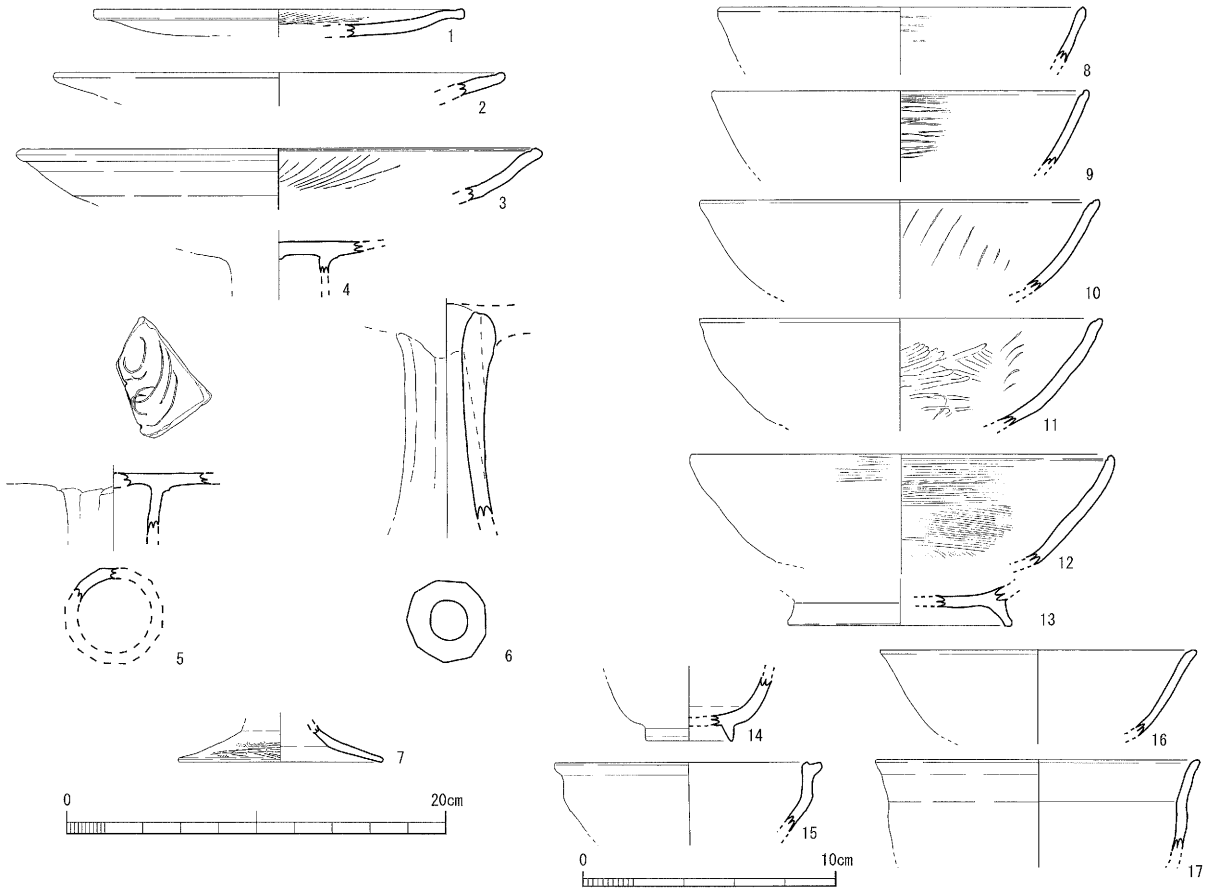


図24　２区　出土土師器　高杯・黒色土器・瓦器・陶磁器　（表11）

表11　２区　出土土師器　高杯・黒色土器・瓦器・陶磁器

実測番号	登録番号	出土地点	器種	種類	時代	口径(cm)	底径(cm)	器高(cm)	調整 外面	調整 内面	調整 底部	色調 外面	色調 内面	色調 断面	胎土	焼成
1	175	2区 b5 4A層下	高杯	土師器	8C	(19.6)	不明	残存高(1.4)	削り後ナデ	ミガキ（暗紋）	不明	明赤褐色	白っぽい赤褐色	明赤褐色	密	良
2	200	2区 a2～3 4A層下	高杯	土師器		(23.9)	不明	残存高(1.2)	ミガキ	磨滅 ミガキ？		肌色	肌色	薄肌色	密	
3	147	2区 b4 4A層下	高杯	土師器		(28.0)	不明	残存高(2.8)	ナデ	ナデ、口縁端部ヘラで凹線後ナデ	不明	薄明赤褐色	明赤褐色	明赤褐色(やや薄)		良
4	162	2区 b4 4A層下	高杯	土師器		不明	不明	残存高(0.6)	ナデ	ナデ 一部ヘラで凹線	不明	明赤褐色	薄明赤褐色	薄明赤褐色	密	良
5	3	2区 b4 4B面 SD227	高杯	土師器		不明	不明	残存高(3.3)	ヘラ削り、ナデ(杯部ミガキ、暗紋)	ナデ	不明	明赤褐色	薄黄褐色	明赤褐色	密	良
6	83	2区 a3 北壁	高杯	土師器		脚柱径(4.2)	不明	残存高(11.0)	ヘラ削り（9面）	ナデ	不明	明赤褐色	赤褐色	明赤褐色	密	良
7	209	2区 b1 4B面 SD237	高杯	土師器		不明	(10.9)	残存高(2.0)	ヘラミガキ	削り後ナデ		赤褐色	薄褐色	薄褐色	粗	
8	223	2区 a7 3D面	椀	瓦器	12/13C	(14.6)	不明	残存高(2.35)	ナデ	ナデ	不明	黒褐色	薄黒褐色	薄黄褐色	密	良
9	272	2区 b4・3 側溝	椀	瓦器		(15.6)	不明	残存高(2.9)	ナデ	ミガキ、口縁端部ヘラで段	不明	薄黒色	薄黒色	極薄灰色(ほぼ白色)	密	良
10	347	2区 b5 4面	椀	黒色土器	9/10C	(15.8)	不明	残存高(3.6)	磨滅 ミガキ？	ミガキ スス付着	不明	暗茶褐色	黒色	黒色	密	良
11	348	2区 b5 4面	椀	黒色土器		(15.9)	不明	残存高(4.2)	横ナデ 磨滅	ミガキ、暗紋 口縁端部横ナデ		淡橙色	黒色	薄茶色(一部黒色)	密	良
12	236	2区 a5 4B面 SK235	椀	黒色土器		(17.0)	不明	残存高(4.3)	ミガキ 削り後ナデ	ミガキ 口縁端部沈線		薄赤褐色(口縁黒色)	黒色	薄赤褐色	密	良
13	56	2区 a2 4B層下	椀	黒色土器		不明	(8.8)	残存高(1.1)	ナデ	ナデ	ナデ	暗赤褐色	黒褐色	暗赤褐色	密	良
14	274	2区 3E面 SE120	椀	磁器	近世	不明	(3.4)	残存高(2.45)	ミガキ後施釉、染付文様（青色）有	ミガキ後施釉	ミガキ後施釉	極薄水色	白色(僅かに青み)	白色	緻密	良
15	308	2区 b4 4A層下	椀	陶器		(10.6)	不明	残存高(2.7)	ナデ	ナデ	不明	淡橙黄色			密	良
16	349	2区 b5 4面	椀	灰釉		12.7	不明	残存高(3.4)	ロクロナデ 釉付着	ロクロナデ 釉付着		灰白色、明黄オリーブ色（釉）	灰白色、明黄オリーブ色（釉）	灰白色	密	良
17	31	2区 a1～7 4B面	甕	黒色土器	9C	(12.6)	不明	残存高(3.5)	ナデ	ナデ	不明	黒色	明赤褐色(口縁黒色)	黒色		良

※（　）内数値は反転復元後の数値

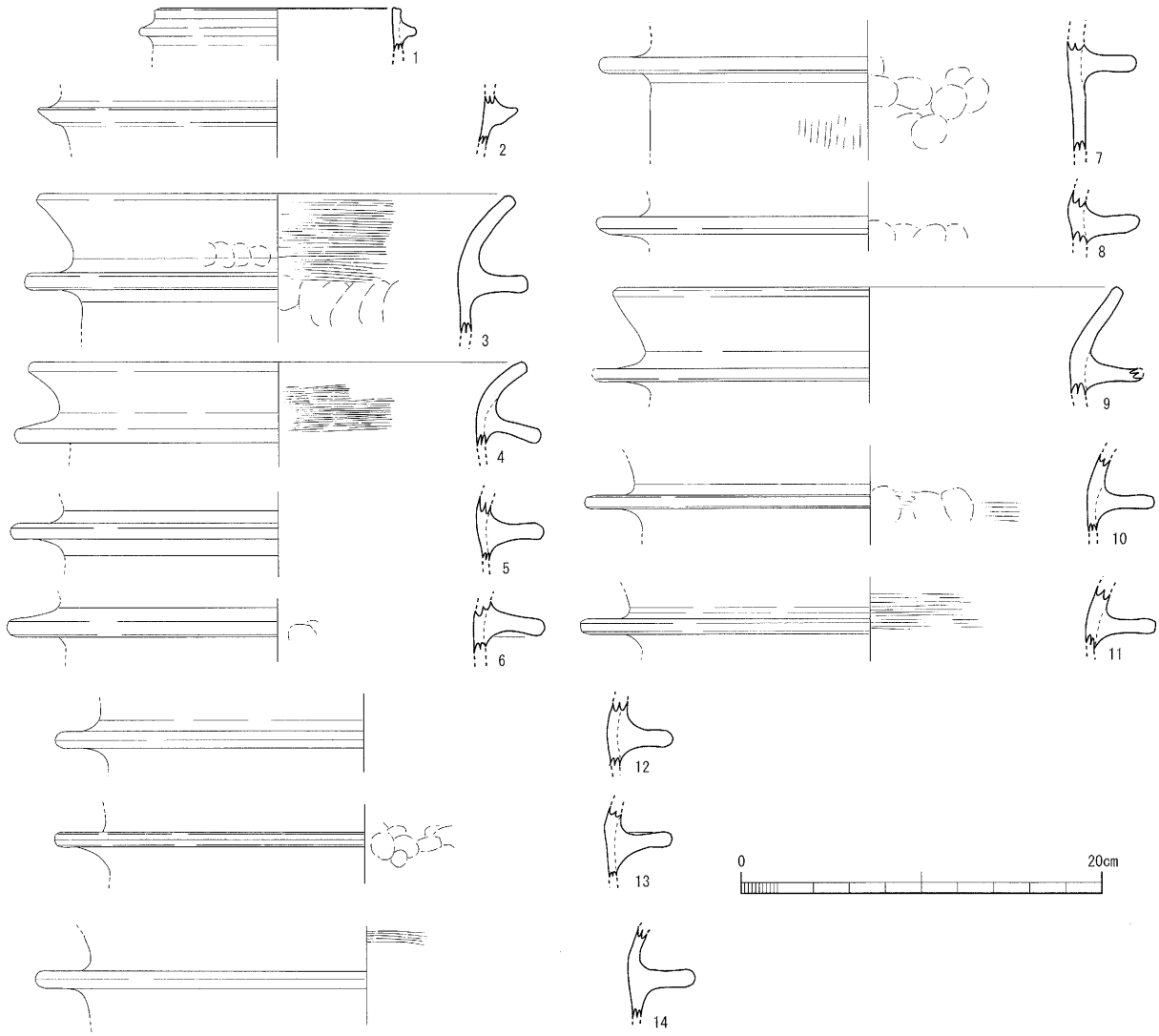


図25　２区　出土土師器　鍔甕・土釜（表12）

表12　２区　出土土師器　鍔甕・土釜

実測番号	登録番号	出土地点	器種	種類	時代	口径(cm)	底径(cm)	器高(cm)	調整 外面	調整 内面	調整 底部	色調 外面	色調 内面	色調 断面	胎土	焼成
1	214	2区 a5 3E面119（暗渠）周辺 3D下層	土釜	土師器	中世	(13.6)	不明	残存高(2.4)	ナデ	ナデ	不明	薄黒色	極薄黄褐色(ほぼ白色)	極薄黄褐色(ほぼ白色)	密	良
2	247	2区 a2 3E面 3D層下	土釜	土師器		鍔部径(26.6)	不明	残存高(2.7)	ナデ 磨滅	ナデ 磨滅	不明	明赤褐色	明赤褐色	明赤褐色	密	良
3	195	2区 b2 4A面	鍔甕	土師器	8C～	(26.4)	不明	残存高(7.45)	ナデ	指ナデ、横ナデ ハケ		茶灰色	赤茶色	赤茶色	密	良
4	318	2区 b4・5 4A面 SK152	鍔甕	土師器		(27.6)	不明	残存高(4.5)	横ナデ 横ハケ	横ナデ 横ハケ	不明	赤褐色	赤褐色(やや暗)	赤褐色	密	良
5	319	2区 b4・5 4A面 SK152	鍔甕	土師器		鍔部径(29.6)	不明	残存高(2.9)	ナデ	ナデ	不明	赤褐色	赤褐色(やや暗)	明赤褐色	密	良
6	212	2区 a5 3D面 SD129	鍔甕	土師器		鍔部径(29.8)	不明	残存高(1.4)	ナデ	ナデ	不明	明赤褐色	明赤褐色	明赤褐色	密	良
7	314	2区 b4 4A層下	鍔甕	土師器		鍔部径(29.6)	不明	残存高(5.7)	ハケ、ナデ スス付着	ナデ 指圧痕	不明	暗赤褐色	赤褐色	暗赤褐色	密	良
8	75	2区 b6 4B層下	鍔甕	土師器		鍔部径(29.8)	不明	残存高(2.8)	ナデ	ナデ後ハケ		暗赤褐色	黒褐色	赤褐色(やや暗)	密	良
9	100	2区 b4 4A層下	鍔甕	土師器		(28.0)	不明	残存高(6.0)	ナデ	ナデ	不明	明赤褐色	赤褐色	明赤褐色	密	良
10	203	2区 a2～3 4A層下	鍔甕	土師器		(31.2)	不明	残存高(4.2)	ナデ			赤褐色	赤褐色	赤褐色		良
11	196	2区 b2 4A面	鍔甕	土師器		鍔部径(31.6)	不明	残存高(3.6)	ハケ	横ナデ		薄焦げ茶色	薄焦げ茶色	薄焦げ茶色	密	良
12	204	2区 a3 4B面 SK235	鍔甕	土師器		鍔部径(34.2)	不明	残存高(3.7)	ナデ	ハケ後ナデ？		茶褐色	赤褐色	茶褐色	粗	良
13	312	2区 b4 4A層下	鍔甕	土師器		鍔部径(34.0)	不明	残存高(2.9)	ナデ	ナデ 指圧痕	不明	暗赤褐色	茶褐色	赤褐色	やや粗	良
14	44	2区 b5 4B面 SK152	鍔甕	土師器		鍔部径(36.4)	不明	残存高(5.1)	ナデ	ナデ		茶褐色	茶褐色			良

※（　）内数値は反転復元後の数値

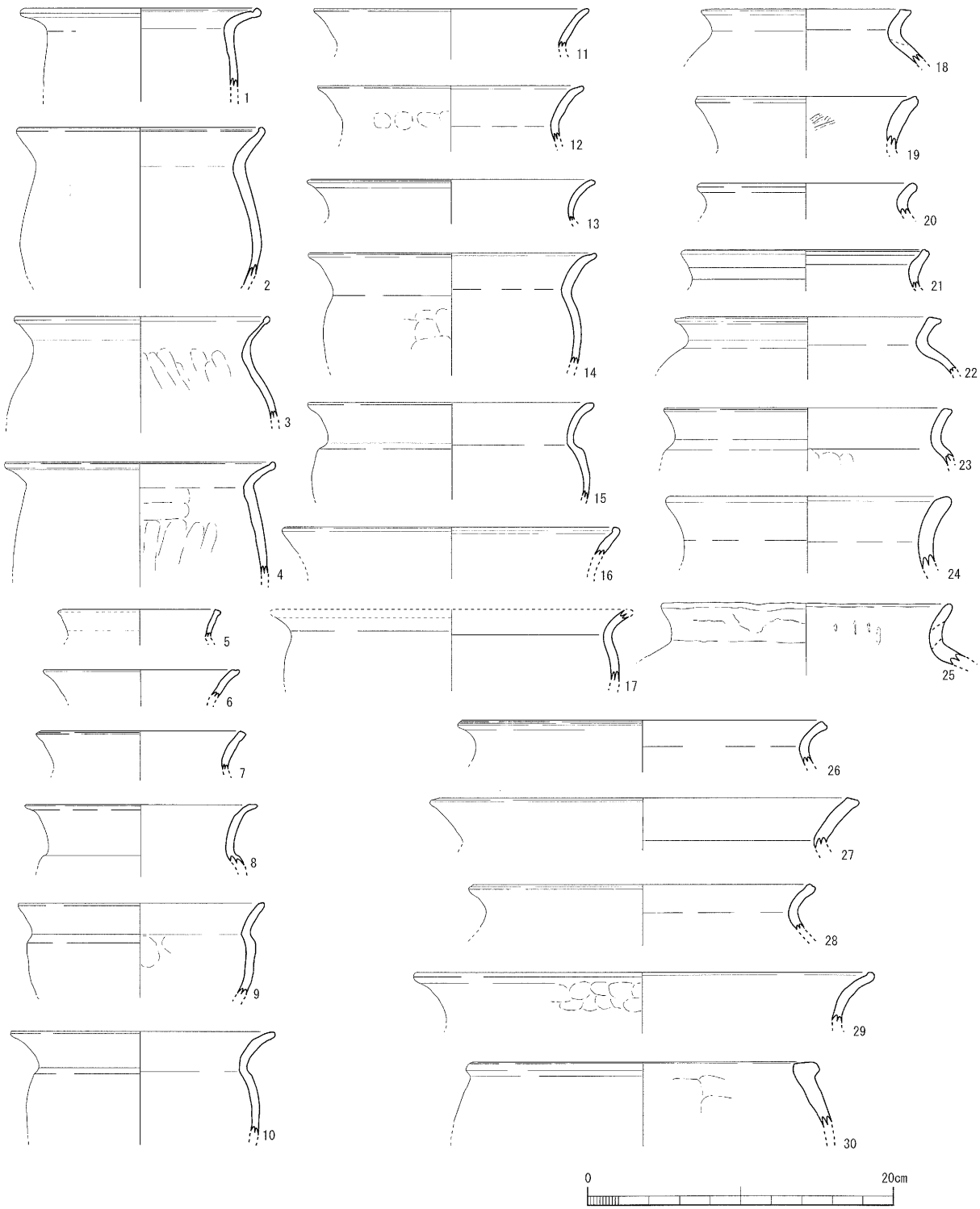


図26　２区　出土土師器　甕（表13）

表13　２区　出土土師器　甕

実測番号	登録番号	出土地点	器種	種類	時代	口径(cm)	底径(cm)	器高(cm)	調整 外面	調整 内面	調整 底部	色調 外面	色調 内面	色調 断面	胎土	焼成
1	148	2区 b4 4A層下	甕	土師器	8C	(15.8)	不明	残存高(5.0)	ナデ ハケ目	ナデ	不明	明赤褐色	明赤褐色(やや薄)	明赤褐色		良
2	58	2区 b3 4B面 SK145	甕	土師器		(16.2)	不明	残存高(1.5)	ナデ 体部ハケ	ナデ、口縁部ハケ後ナデ	不明	暗赤褐色	薄赤褐色	薄赤褐色	密	良
3	295	2区 b1 4A面 SK152	甕	土師器		(16.6)	不明	残存高(6.4)			不明	暗赤褐色	暗褐色	明赤褐色		良
4	305	2区 b4 4A層下	甕	土師器		(17.8)	不明	残存高(7.3)	横ナデ ハケ目	指ナデ	不明	淡橙色	暗橙色	暗橙色	密	良
5	343	2区 b4 4面	甕	土師器	9C	10.6	不明	残存高(1.7)	横ナデ	横ナデ		薄褐灰色	淡橙色	淡橙色	密	良
6	213	2区 a5 3E面 119(暗渠)周辺 3D下層	甕	土師器		(12.9)	不明	残存高(1.8)	ナデ 磨滅	ナデ 磨滅	不明	明赤褐色	明赤褐色(やや薄)	明赤褐色	密	良
7	355	2区 b4・5 4A面 SK152	甕	土師器		(13.6)	不明	残存高(2.5)	ナデ	ナデ	不明	赤褐色	薄赤褐色	赤褐色	密	良
8	47	2区 b5 4B面 SD234	甕	土師器		(15.2)	不明	残存高(4.0)	ナデ、口縁平坦部ヘラ削り後ナデ	ナデ	不明	明赤褐色	暗赤褐色	明赤褐色		良
9	171	2区 b5 4A層下	甕	土師器		(16.0)	不明	残存高(6.0)	ナデ	ナデ	不明	赤褐色	明赤褐色	赤褐色	密	良
10	23	2区 b4 4B面 SD206	甕	土師器		(17.4)	不明	残存高(6.65)	ナデ	ナデ	不明	明赤褐色	明赤褐色	明赤褐色	密	
11	311	2区 b4 4A層下	甕	土師器		(18.2)	不明	残存高(2.5)	横ナデ	ナデ	不明	淡橙色	淡黄褐色	淡橙色	密	良
12	101	2区 b4 4A層下	甕	土師器		(17.6)	不明	残存高(3.2)	ナデ	ナデ	不明	明赤褐色	赤褐色	明赤褐色	密	良
13	292	2区 4面柱穴列	甕	土師器		(19.0)	不明	残存高(2.6)	ナデ	ナデ	不明	赤褐色	暗赤褐色	赤褐色		良
14	139	2区 b3 4A層下	甕	土師器		19.2	不明	残存高(7.2)	指ナデ	横ナデ		赤茶色	薄茶色	褐茶色	密	
15	8	2区 b5 SK213	甕	土師器		(18.9)	不明	残存高(6.2)	横ナデ、口縁端部ヘラナデ	横ナデ		明赤褐色(部分的に暗褐色)	暗赤褐色	明赤褐色	密	良
16	316	2区 b4 4B面 SD154	甕	土師器		(22.2)	不明	残存高(1.8)	ナデ	ナデ	不明	黒褐色	黒褐色	明赤褐色	密	良
17	303	2区 b4 4A層下	甕	土師器		頸部径(21.1)	不明	残存高(4.7)	不明 磨滅	ナデ	不明	赤褐色	茶褐色	赤褐色	密	良
18	346	2区 b5 4面	甕	土師器		13.6	不明	残存高(3.2)				褐橙色 褐色	暗褐色 灰色	暗褐色	密	良
19	186	2区 b5 4A層下	甕	土師器		(14.6)	不明	残存高(3.4)	ナデ	ナデ	不明	明灰色	灰色 肌色	灰色	粗	甘
20	87	2区 a1 4B層下	甕	土師器		(14.4)	不明	残存高(2.0)	ナデ ミガキ？	ナデ ミガキ？(磨滅)		黄褐色	黄褐色		密	
21	207	2区 b4 4B面 pit155	甕	土師器	古代？	(16.2)	不明	残存高(3.5)	ナデ	ナデ		黒褐色	黒褐色	赤褐色	粗	良
22	199	2区 a2～3 4A層下	甕	土師器	9C	(17.4)	不明	残存高(3.7)	横ナデ	横ナデ		焦げ茶色	焦げ茶色	赤茶色	密	
23	331	2区 a2 4B面 SK235	甕	土師器		(19.0)	不明	残存高(3.0)	ナデ	ナデ 指圧痕	不明	薄明赤褐色	明赤褐色(やや薄)	明赤褐色	密	良
24	202	2区 a2・3 4A面下	甕	土師器		18.8	不明	残存高(4.8)	不明 磨滅	不明 磨滅		薄赤茶色	薄赤茶色	薄赤茶色(一部白灰色)	粗	良
25	322	2区 b5 4A面 SK151	甕	土師器		(18.8)	不明	残存高(4.0)	ナデ	ナデ		赤褐色	薄黒褐色	薄黒褐色	密	良
26	149	2区 b4 4A層下	甕	土師器		(24.2)	不明	残存高(2.5)	ナデ	ナデ	不明	明赤褐色	薄明赤褐色	明赤褐色(やや薄)		良
27	119	2区 b3 4A層下	甕	土師器		(28.1)	不明	残存高(3.25)	ナデ、口縁平坦部ヘラ削り後ナデ	ハケ後ナデ	不明	黒褐色	薄黒褐色	明赤褐色	密	良
28	197	2区 a2～3 4A層下	甕	土師器		(22.7)	不明	残存高(2.7)	ナデ	横ナデ ミガキ		赤茶色	赤茶色	赤茶色	密	良
29	118	2区 b3 4A層下	甕	土師器		(30.0)	不明	残存高(3.5)	ナデ	ナデ	不明	赤褐色	黒褐色	赤褐色		良
30	254	2区 a1 3E面 3D層下	甕	土師器	中世	(23.8)	不明	残存高(4.0)	ナデ	ナデ	不明	薄明赤褐色	薄明赤褐色	薄明赤褐色	密	良

※(　)内数値は反転復元後の数値

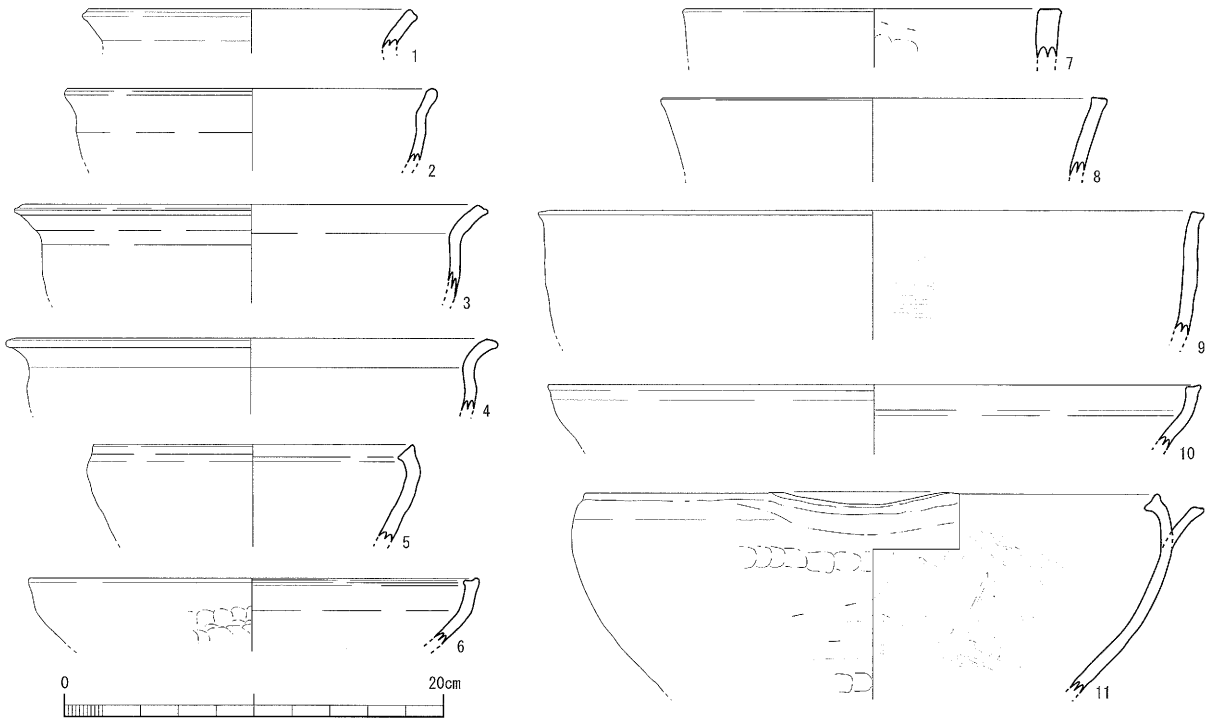


図27　２区　出土土師器　鉢（表14）

表14　２区　出土土師器　鉢

実測番号	登録番号	出土地点	器種	種類	時代	口径(cm)	底径(cm)	器高(cm)	調整 外面	調整 内面	調整 底部	色調 外面	色調 内面	色調 断面	胎土	焼成
1	242	2区 b7 3D面	鉢	土師器	9C	(17.8)	不明	残存高(1.8)	ミガキ	ミガキ	不明	明赤褐色	明赤褐色	明赤褐色	密	良
2	219	2区 b1 3D面	鉢	土師器		(19.6)	不明	残存高(3.8)	ナデ	ナデ	不明	薄灰色	薄灰褐色	薄灰褐色	密	良
3	281	2区 b4 4A層下	鉢	土師器		(25.0)	不明	残存高(4.9)	ナデ	ナデ	不明	暗赤褐色	暗褐色	暗褐色	密	良
4	76	2区 b6 4B層下	鉢	土師器		(26.0)	不明	残存高(3.75)	ナデ	ナデ	ナデ	暗赤褐色	赤褐色	赤褐色	密	良
5	6	2区 b4 4B面 pit212	鉢	土師器		(16.8)	不明	残存高(5.2)	ナデ、口縁端部ヘラ削り	ナデ	不明	暗赤褐色	暗赤褐色	赤褐色	密	良
6	268	2区 b4・3 側溝	鉢	土師器		(23.7)	不明	残存高(3.3)	ナデ	ナデ	不明	暗赤褐色	暗赤褐色	赤褐色	密	良
7	135	2区 b3 4A層下	鉢	土師器		(19.7)	不明	残存高(2.4)	ナデ、口縁平坦部ヘラ削り	ナデ	不明	暗赤褐色	明赤褐色	明赤褐色	密	良
8	127	2区 b3 4A層下	鉢	土師器		(23.4)	不明	残存高(4.0)	ナデ、口縁平坦部ヘラ削り後ナデ	ナデ	不明	赤褐色	黒褐色	赤褐色	密	良
9	350	2区 b5 4面	鉢	土師器		(34.6)	不明	残存高(6.4)	ナデ	ハケ後ナデ		暗赤褐色	薄茶褐色	暗赤褐色	密	良
10	88	2区 a1 4B層下	鉢	土師器		(34.3)	不明	残存高(3.4)	ナデ	ナデ	不明	褐色	薄褐色	褐色	密	良
11	342	2区 b4 4面 pit	鉢	土師器		(30.0)	不明	残存高(10.7)	体部ヘラ削り	ミガキ	不明	暗赤褐色	黒っぽい赤褐色	赤褐色	密	良

※(　) 内数値は反転復元後の数値

第4章　まとめ

以上のごとく、検出した各遺構面において、それぞれの所見を得ることができた。

大きく1区は5面、2区は1区より第3遺構面が発達するため、掘削深度との関係からそれより少なく、主だった面としては4面の調査となった。

中でも、特筆できるものに第4遺構面の掘立柱建物群がある。これらは整地の分離から、大きく3期に分けてとらえることができる。出土遺物からすれば全体に長岡京期前後のものが目立つが、その存続時期は7～10世紀にかけてと考えられる。その詳細は、1区の須恵器杯で7世紀初め頃のものもあるが、連続性から言えば、1区が相対に古く、7世紀中葉以降、8世紀からは1・2区両区で確認できるようになる。出土量からすれば、8世紀末から9世紀中葉にかけてのものがすこぶる顕著である。

最も古い1期は第5層の砂が微高地状に北西方向に張り出す1区を中心に確認できるが、削平がはなはだしい。掘方は一辺0.6m前後の長方形気味のもので、地形に合わせるためか北西―南東方向に軸を振り、柱間は1.5～2.3mである。

2・3期はわずかに東に振る程度で、南北軸にそろう方形の掘方である。2期は3期に比べ、掘方は一辺0.6～0.8m前後と大きく、柱間は1.9～2.1mである。2区の南東隅で検出した通り柱には、同じ建築材を分けて礎板として用いる。この期の屋敷地の整地範囲は図にある通り、南北65mで東に拡がり、砂を主体とする。これに伴い、1区では南・西を、2区では北を区画する溝を検出しており、最も深い2区東西溝の東側では0.45mある。こうした溝は埋没後も同様な位置で井戸・土坑・落ち込みといったものの掘返しがある。

3期は一辺0.6mやや小ぶりの掘方で、柱間は1.8～2.2mである。2期の区画より、主に西辺を10m程、張り出させて整地することで拡張する。これに伴う特徴は、2区東側、整地区画の北西隅において、軟弱な粘性の高い粘質シルトがベース面であったためか、2期整地範囲の外縁に5～10mにわたって主に8世紀の土師器・須恵器・瓦片を中心として、それらをバラス代わりに敷いた状況で出土していることである。

このことから、初期の建物群は2区までは広がらないことが分かり、それぞれ1～3期に及ぶ屋敷地の変遷を追える。2・3期の間にも、2期西辺両隅の溝上にも遺構が重なることから、徐々に敷地を拡げていったことがうかがえる。センター調査分の第4b面掘立柱建物はこの上部で検出され、掘方内出土遺物から廃絶は9世紀中頃である。今回調査分の掘方形状からも2期は9世紀前半、3期は9世紀中葉～後葉を中心としたものと考えられる。また、1期は整地土内出土遺物より、8世紀後半を中心とするであろう。　（一瀬）

調査の実施及び報告書作成にあたっては、藤川富久子、中山陽子、上野恵己、岡村まり江、田之上裕子、小倉　勝、富田卓見、奥村弥恵、澁谷裕美、大矢祐司、小野木ルリコ、高嶋千佳、田中真希代、松村祐香をはじめとする諸嬢・諸氏の協力を得た。

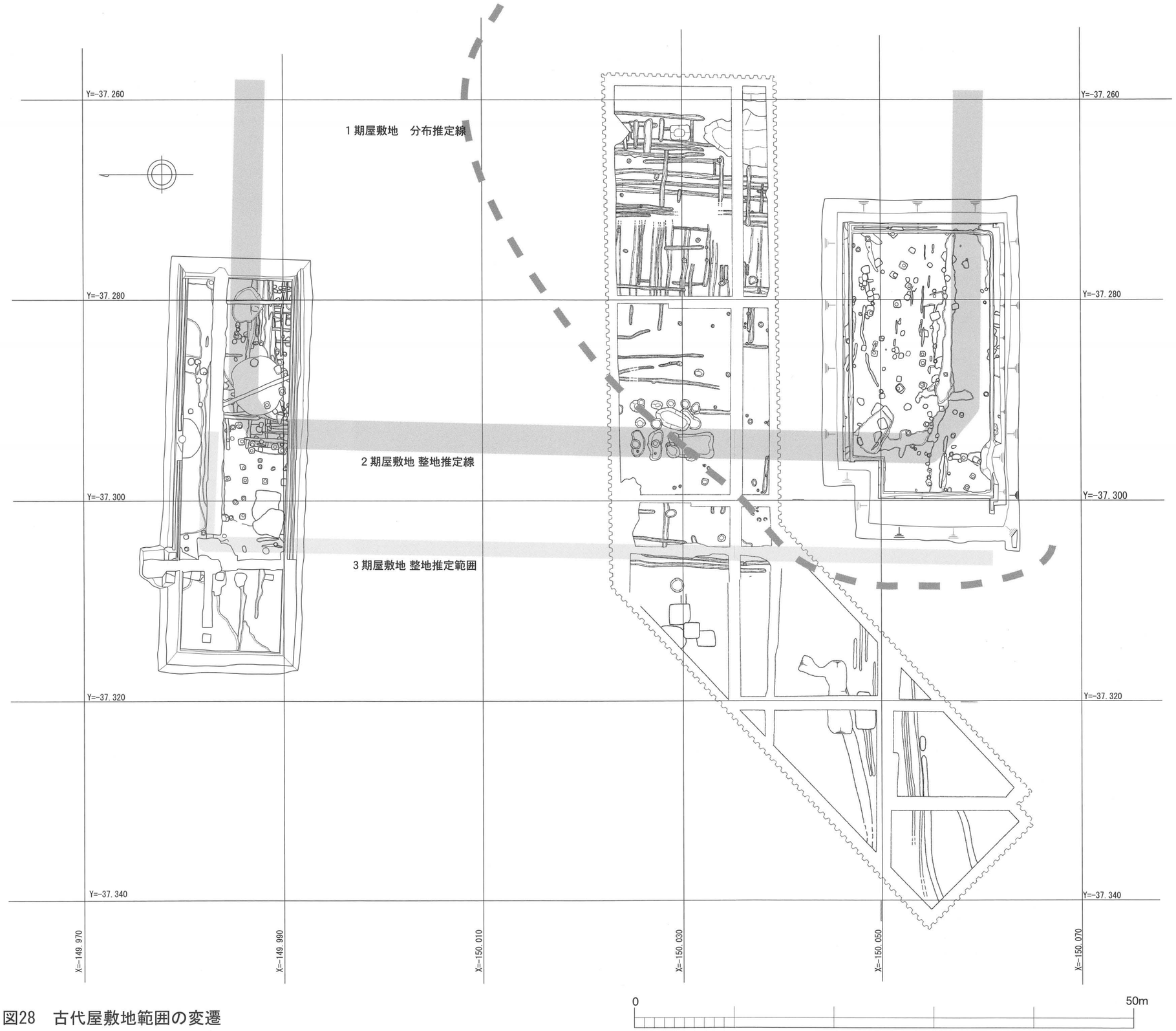
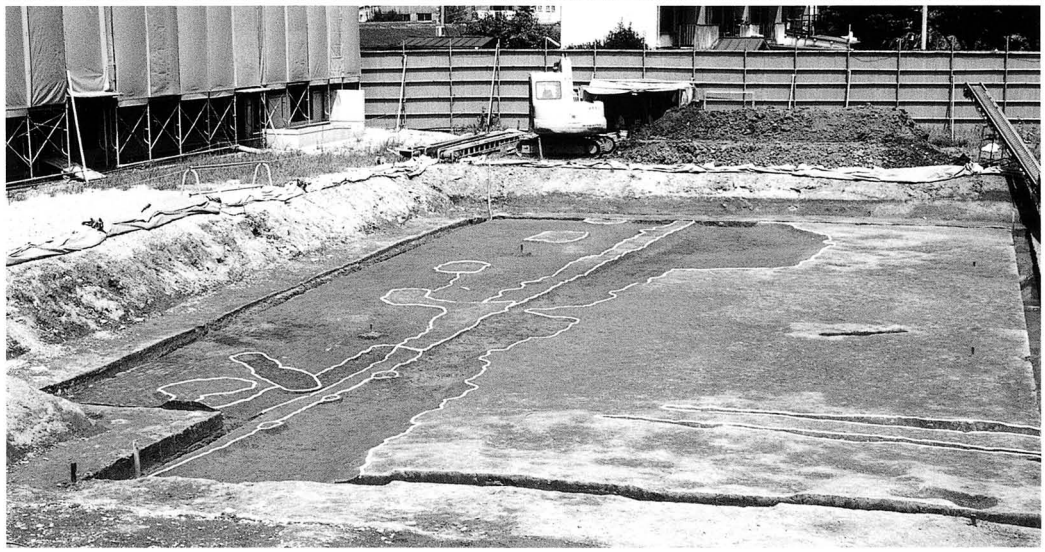


図28　古代屋敷地範囲の変遷

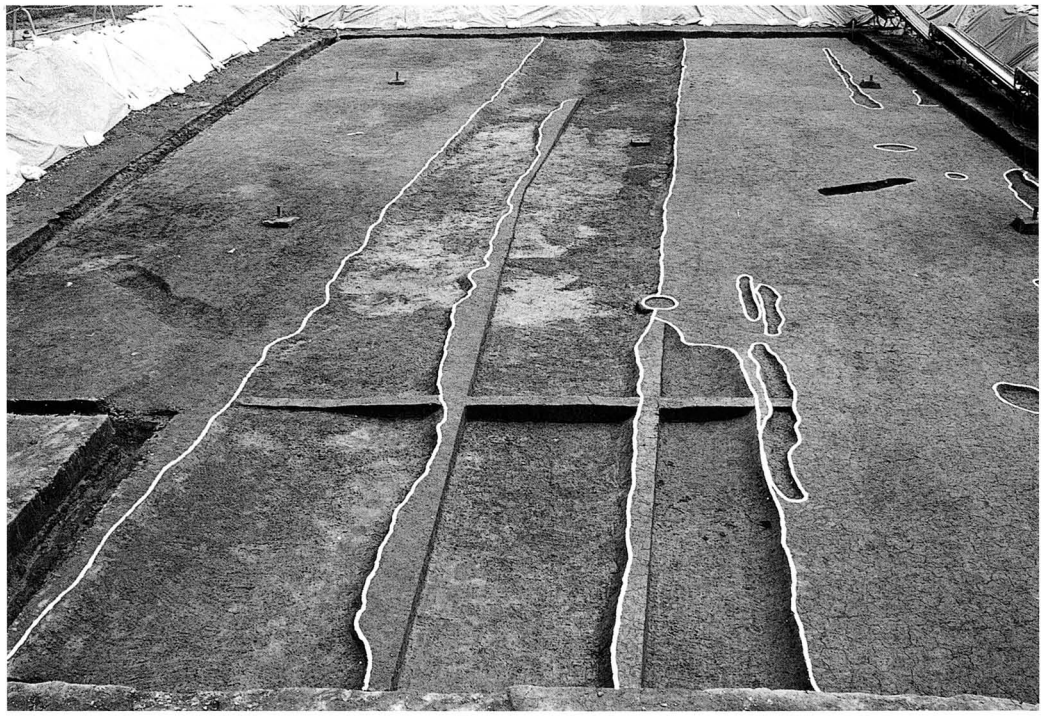
写　真　図　版

図版１　１区

南壁中央
（北から）

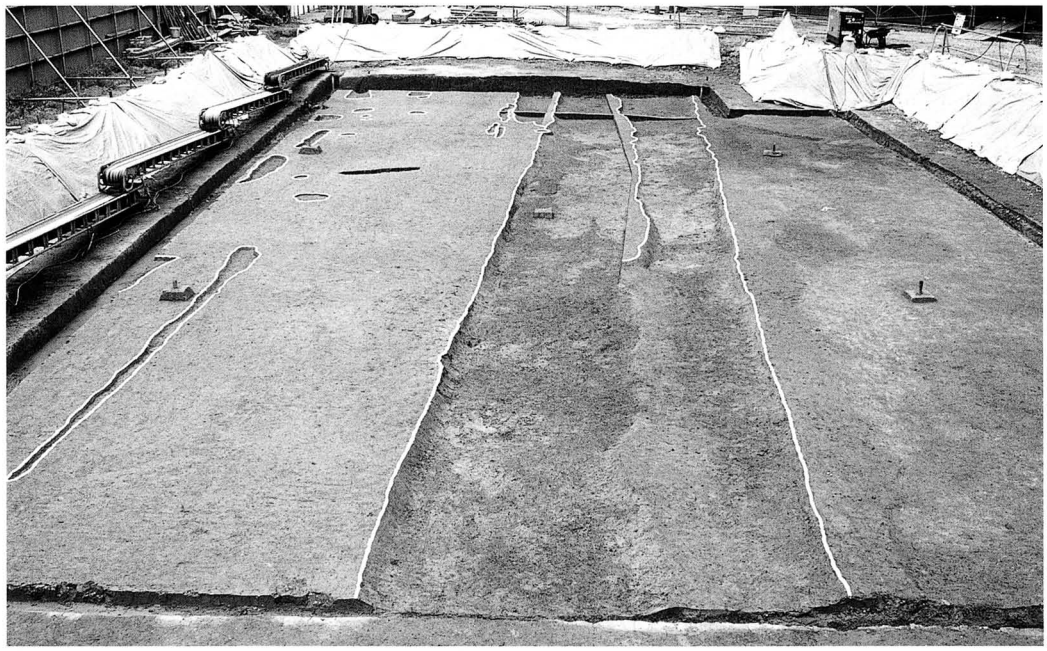


第３遺構面C
（西から）

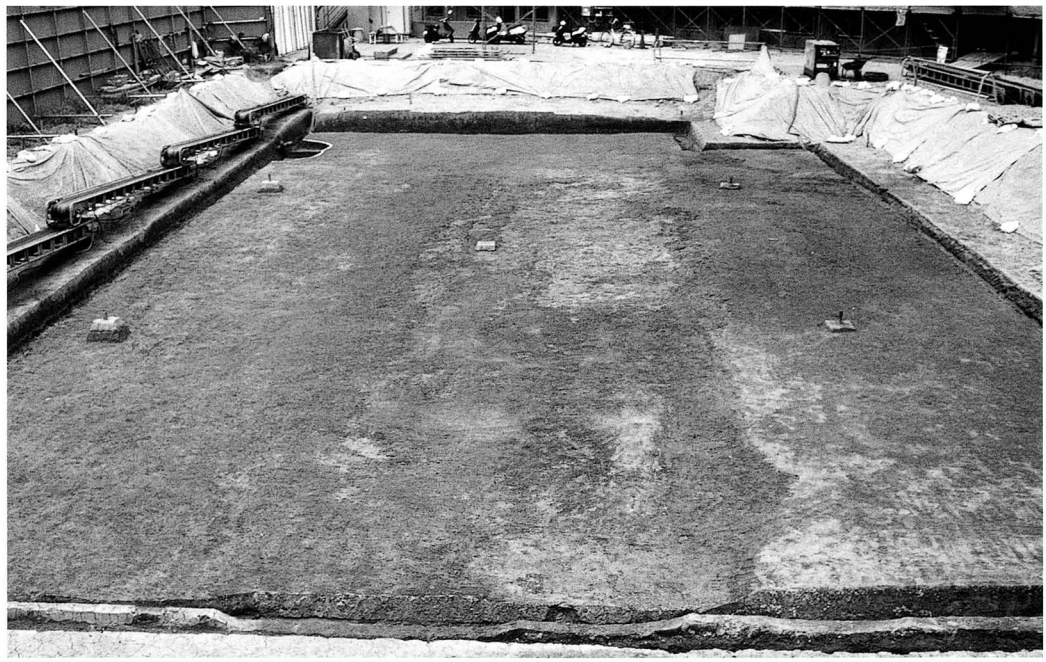


第３遺構面D
（西から）

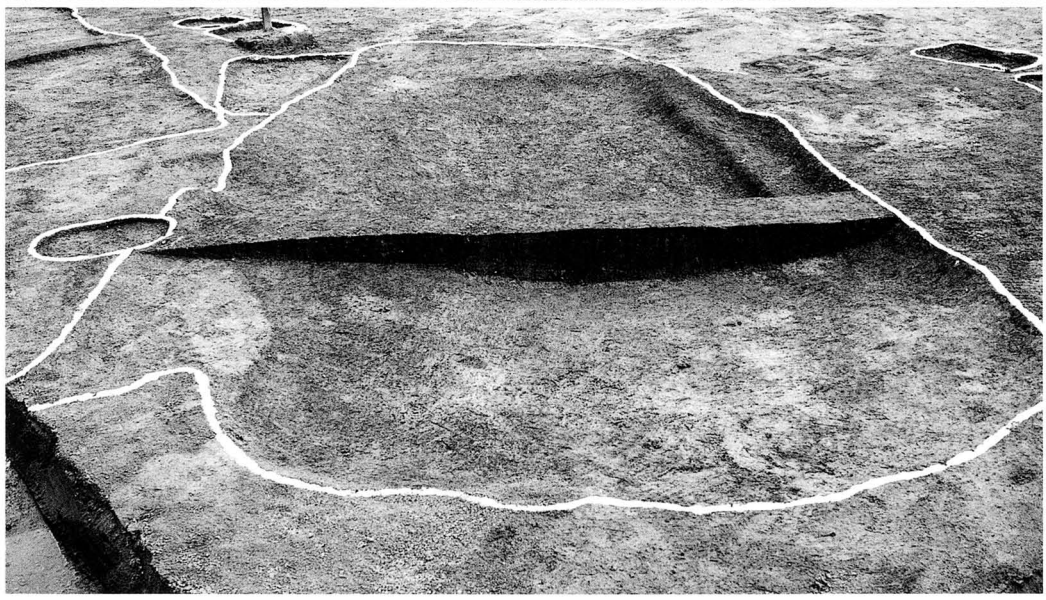
図版２１区



第３遺構面D
（西から）

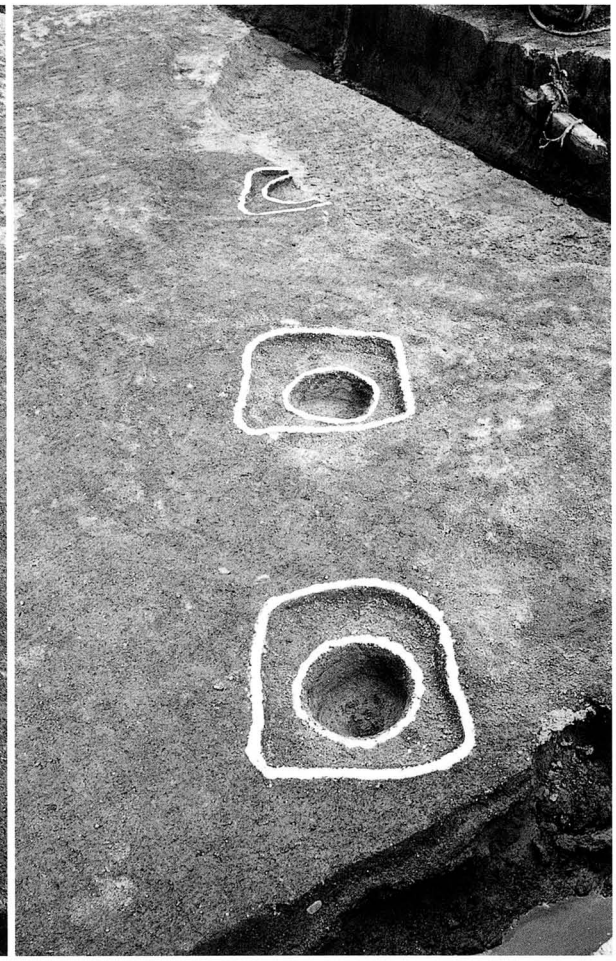


第４遺構面A
（東から）

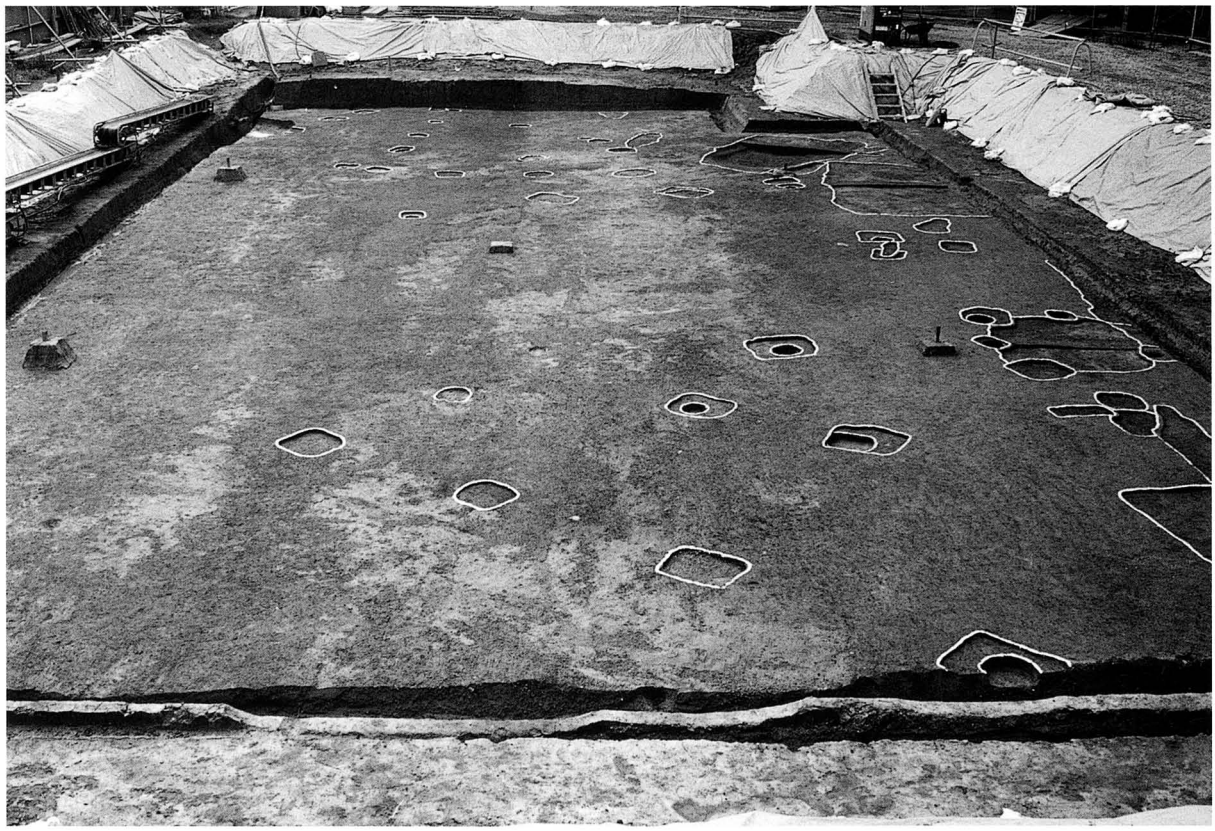


第４遺構面B
土坑38
（北西から）

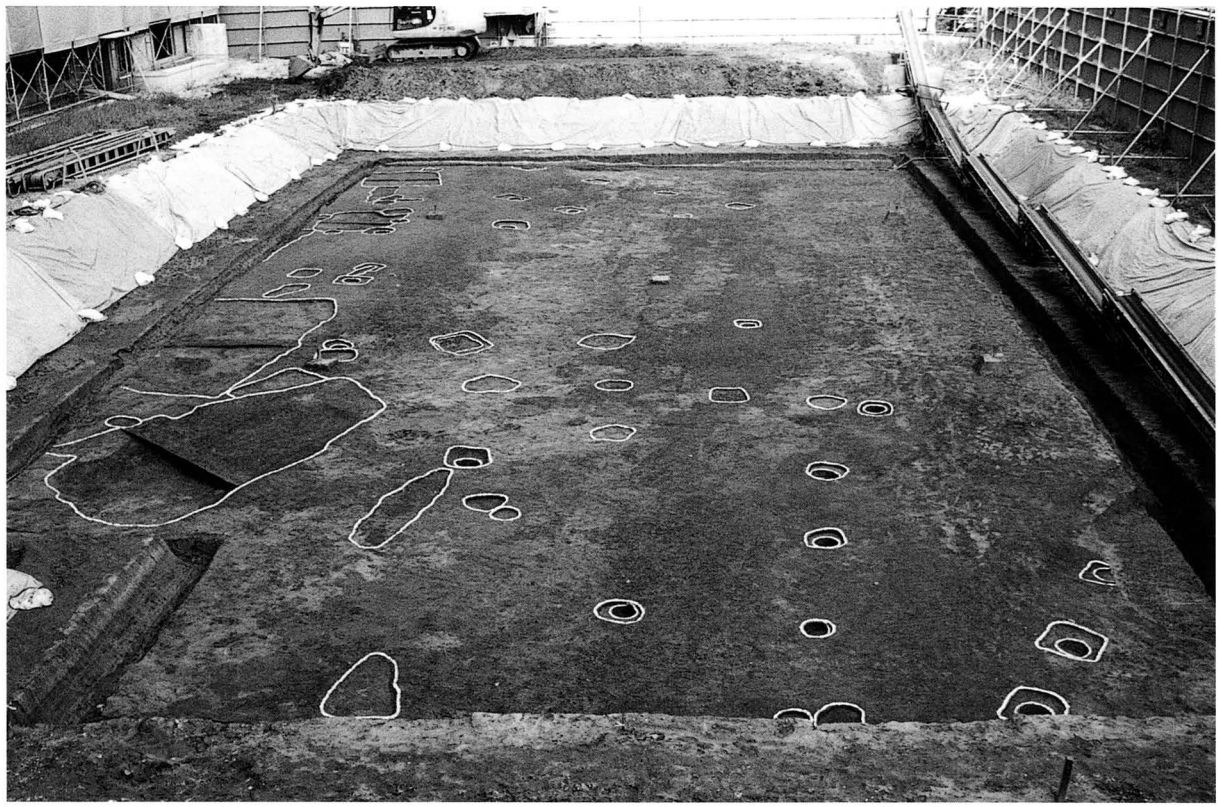
第４遺構面B　掘立柱列 P59・60・25（西から）



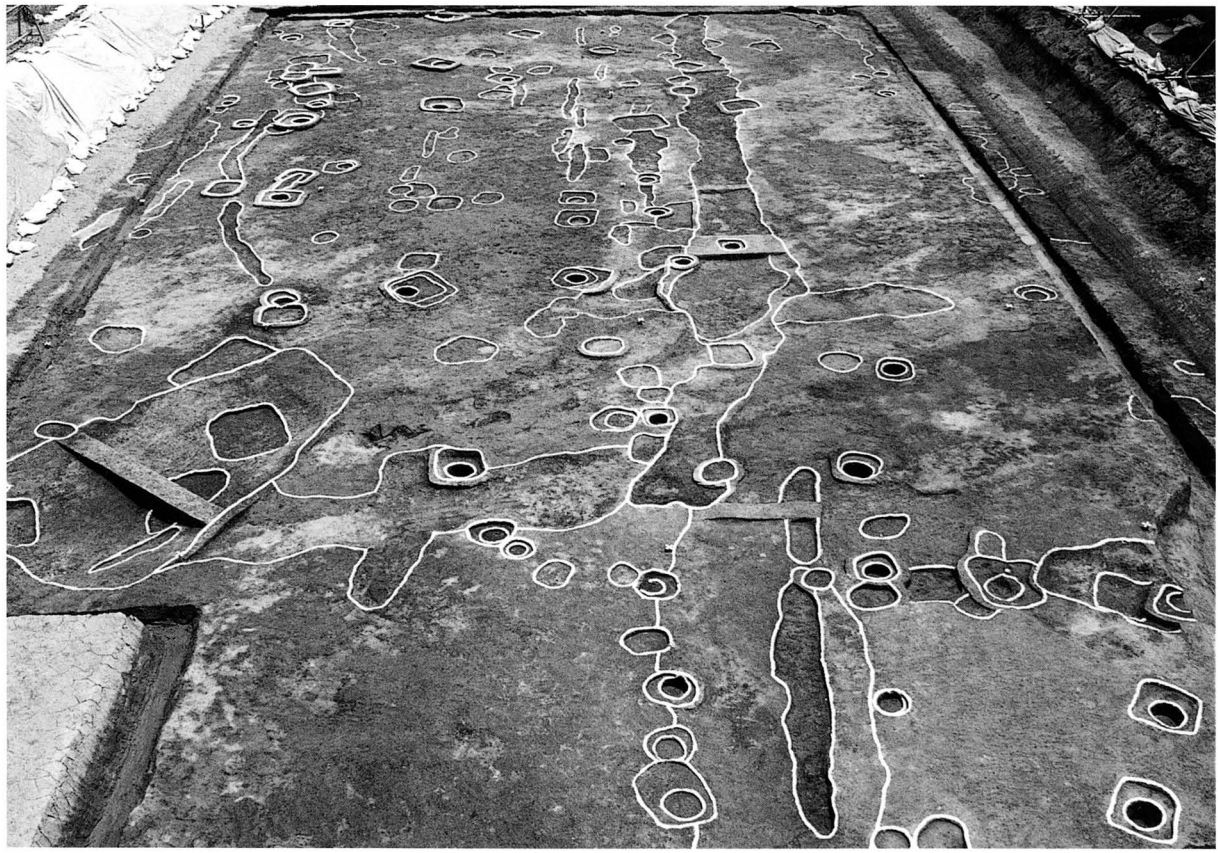
第４遺構面B　掘立柱列　P23・24・76（西から）



第４遺構面B（東から）

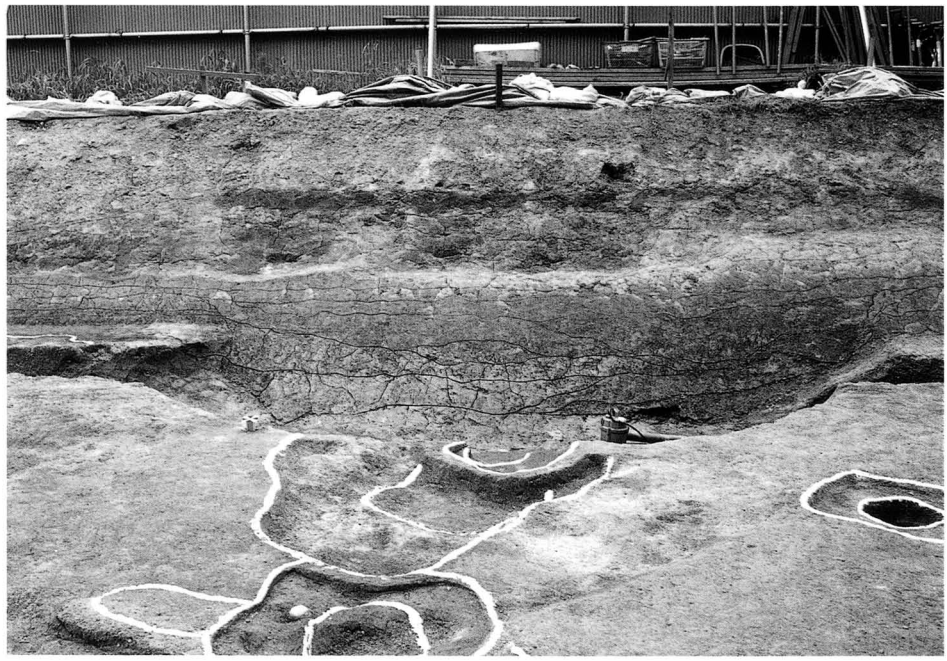


第４遺構面B（西から）

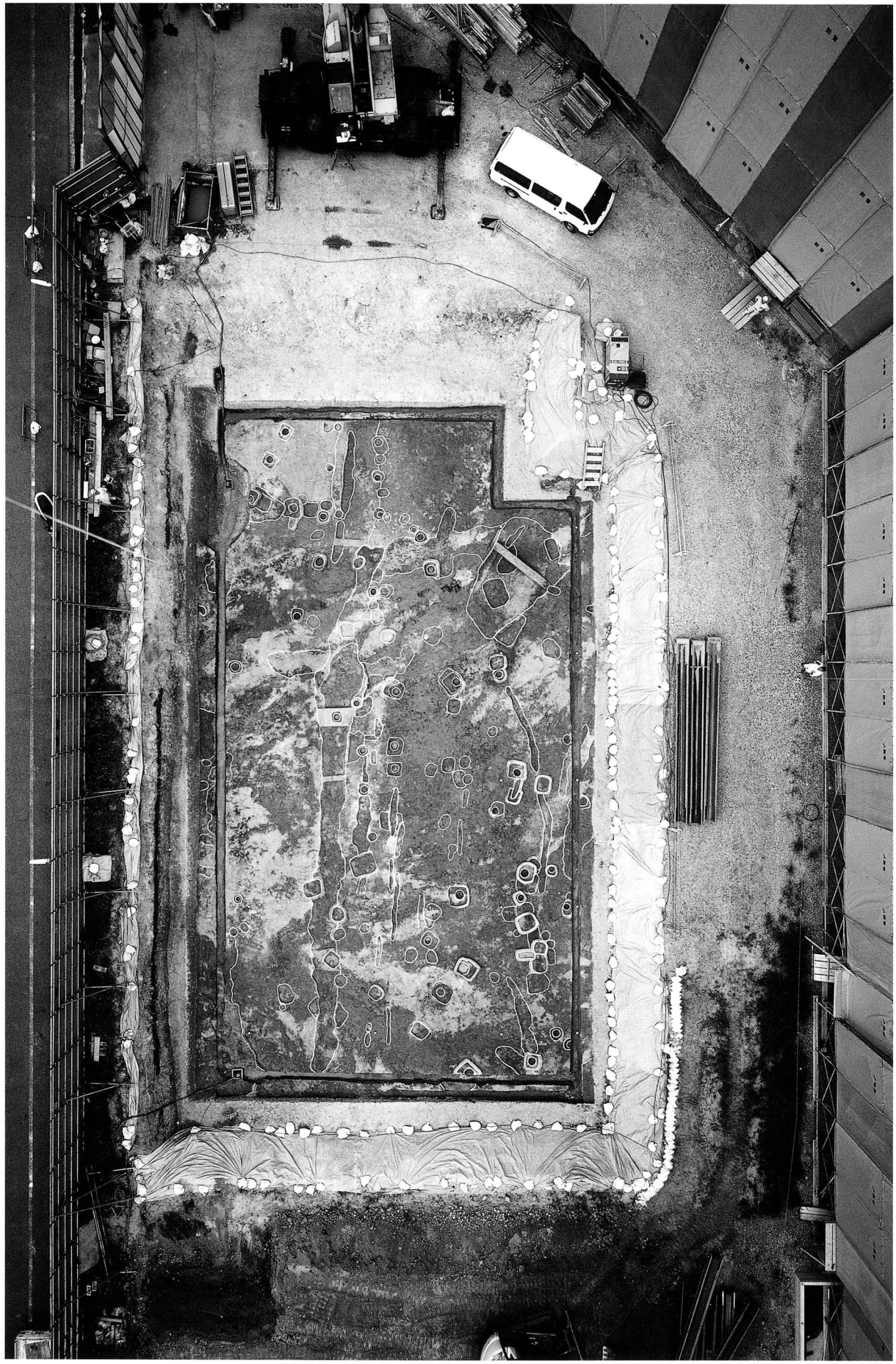


第４遺構面D（西から）

第４遺構面D（西から）



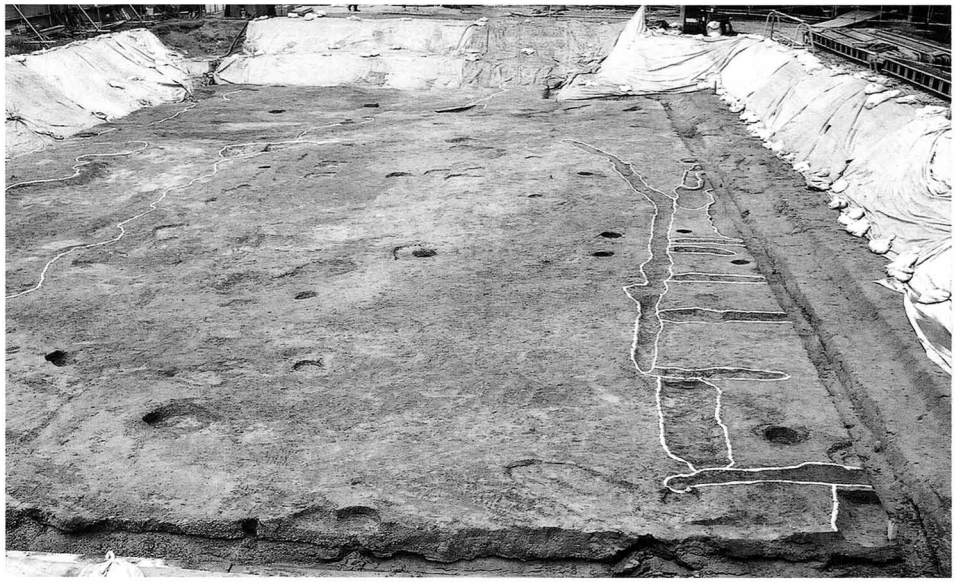
第４遺構面B
SE22（北から）



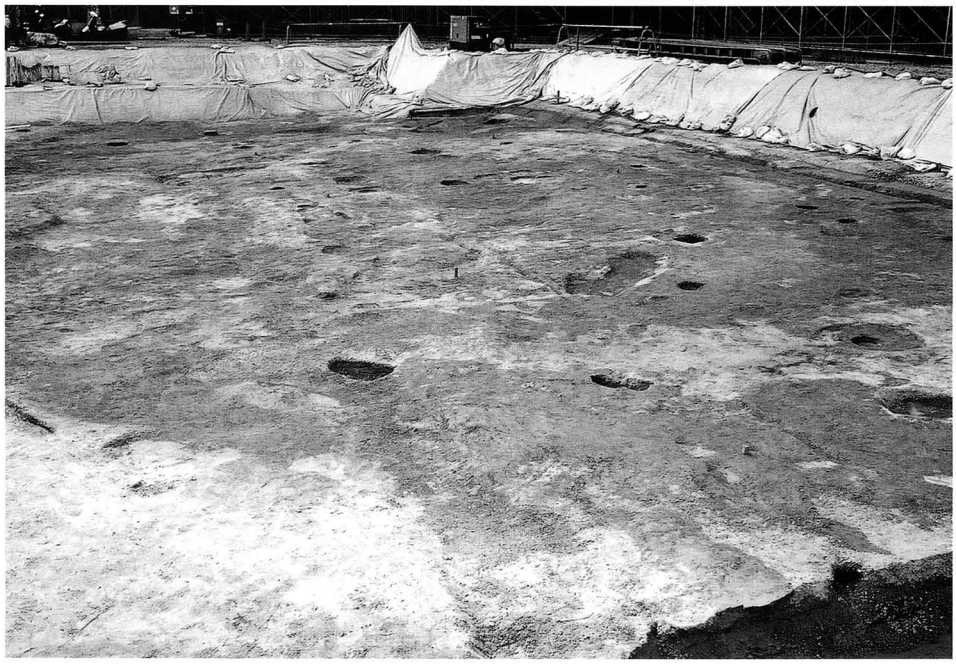
第４遺構面D（西から）

図版７　１区

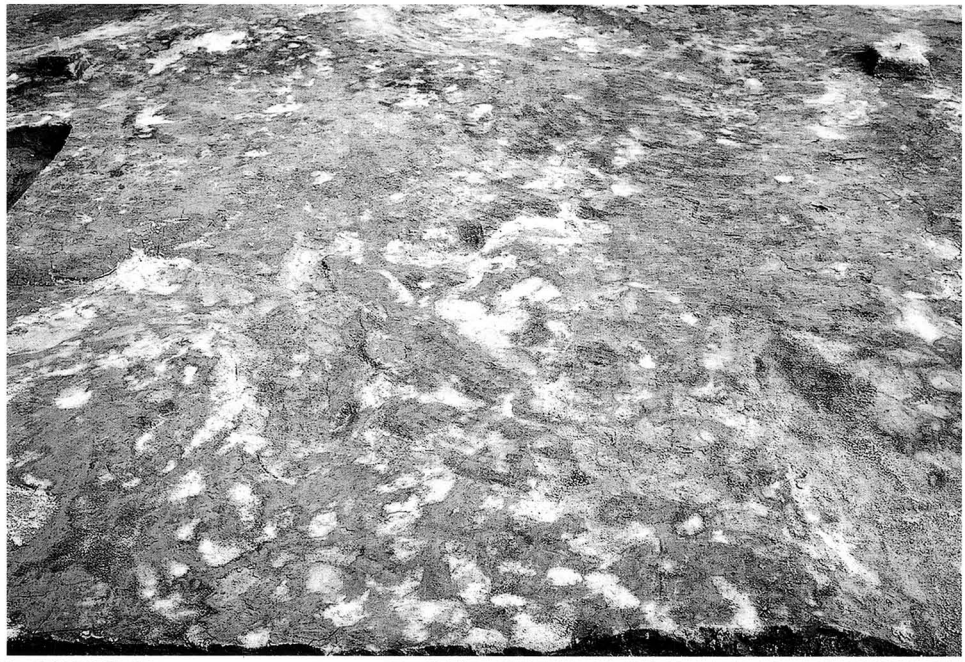
第４遺構面C
SD63（東から）



第４遺構面F（東から）



第５遺構面A
（南東から）



第５遺構面B　足跡
（西から）

第５遺構面B西半
（南から）

第５遺構面B東側
鋤跡（南から）

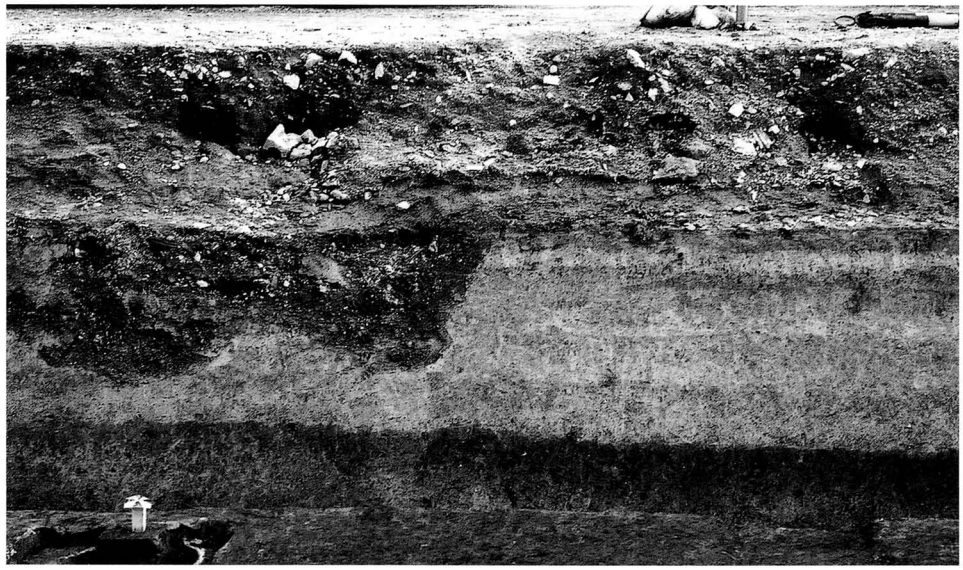
図版９　１区

第５遺構面C中央（北から）

第５遺構面C（西から）

第５遺構面D西側
（南東から）

1区第5遺構面D
流水層（東から）



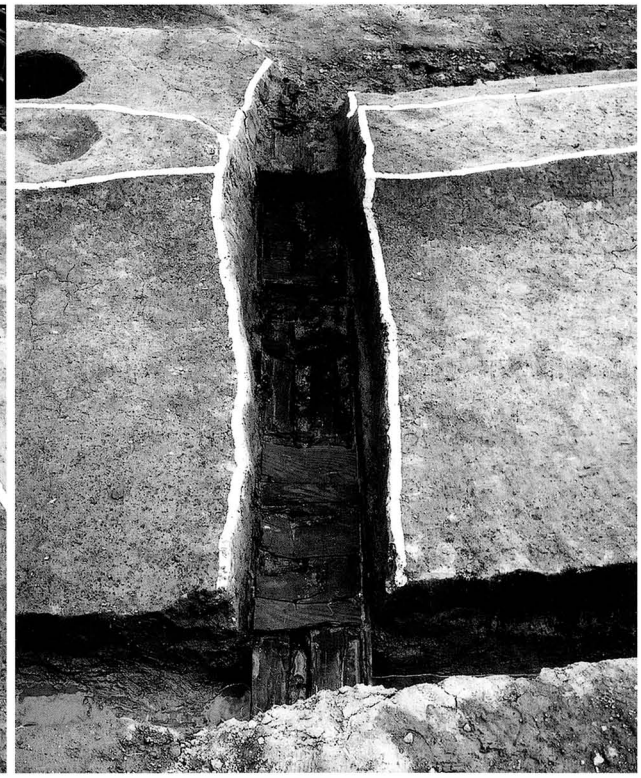
2区南壁中央
（北から）

2区第1遺構面
（東から）

第２遺構面A（西から）

第３遺構面A（西から）

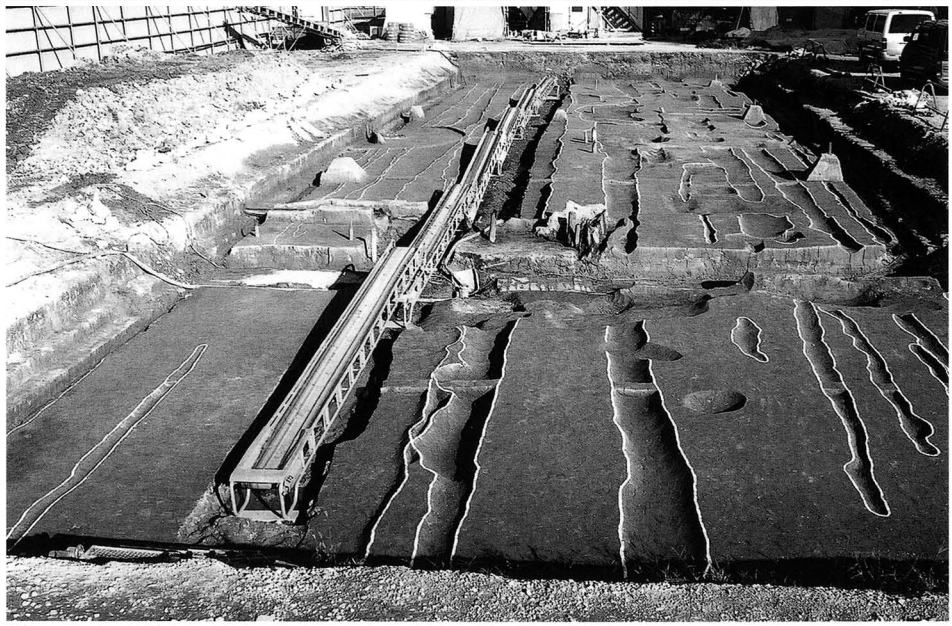
第３遺構面A　SE120（北西から）



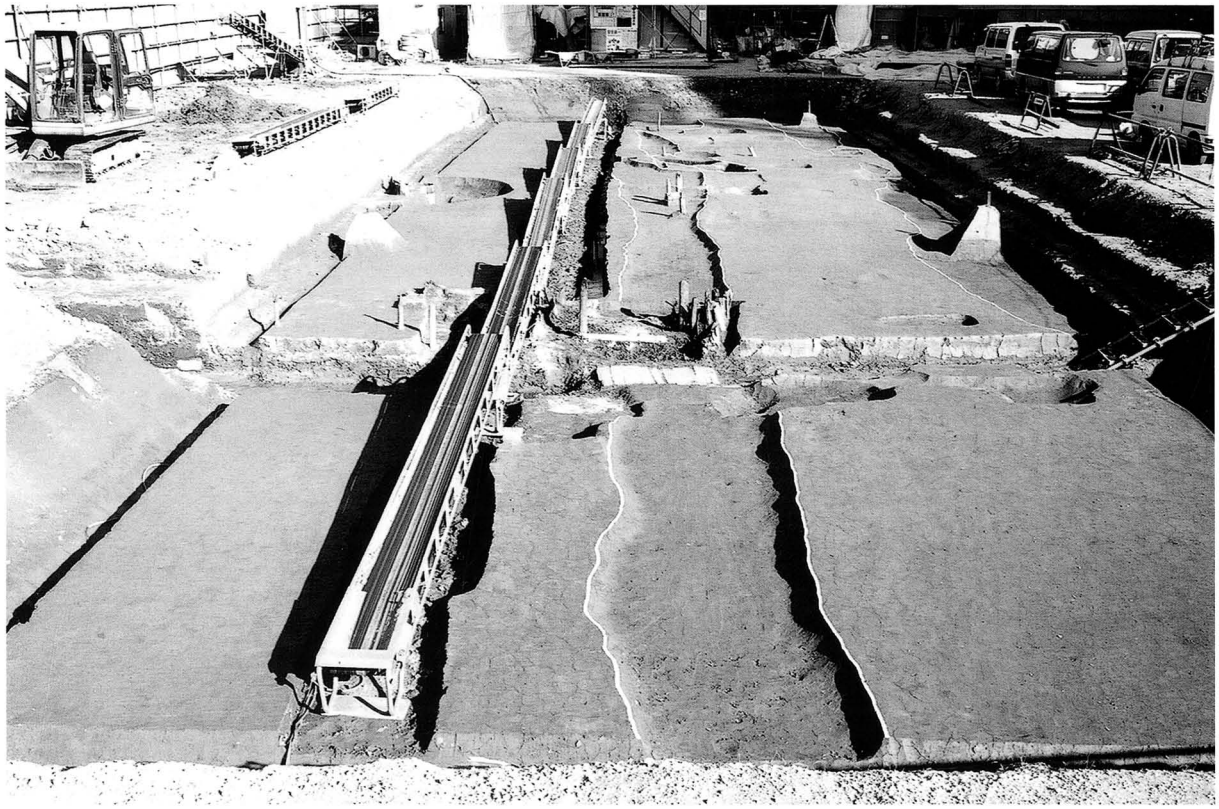
第３遺構面A　木樋暗渠（北から）

第３遺構面B（西から）

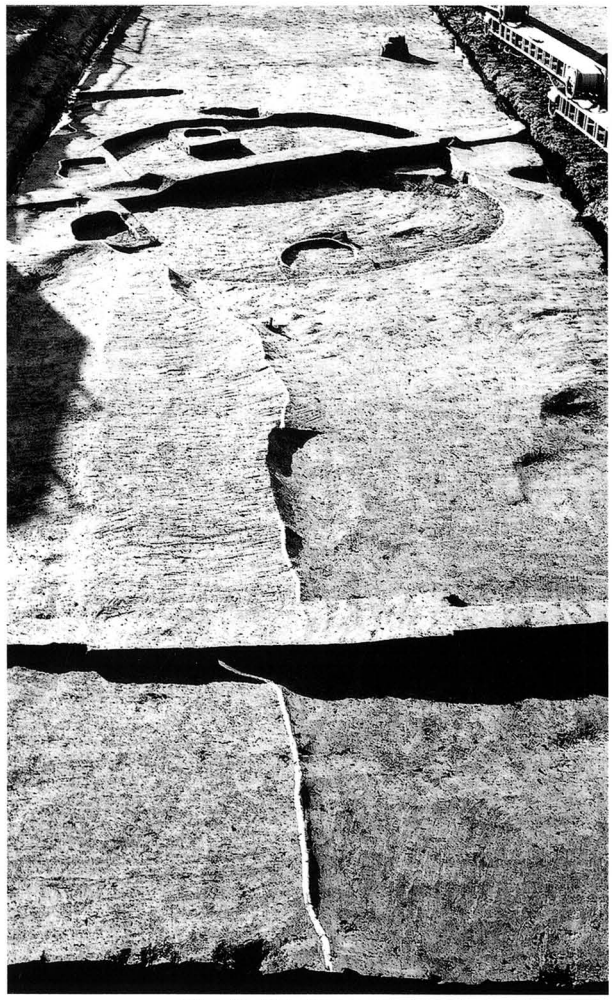
第３遺構面C（東から）



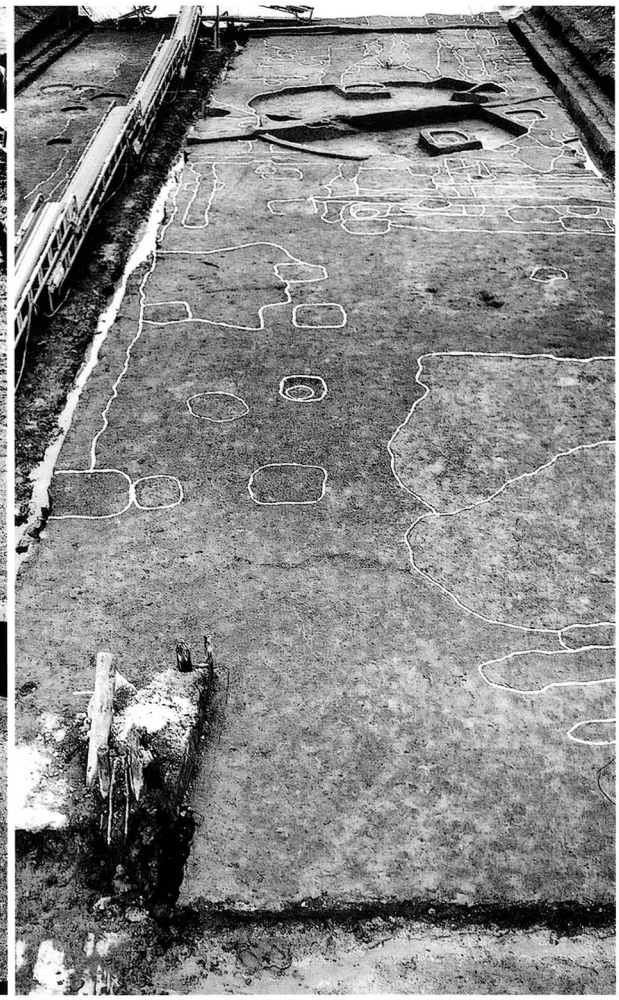
第３遺構面C下面
（東から）



第３遺構面C下面下層（西から）



第３遺構面C下面東側下層（東から）

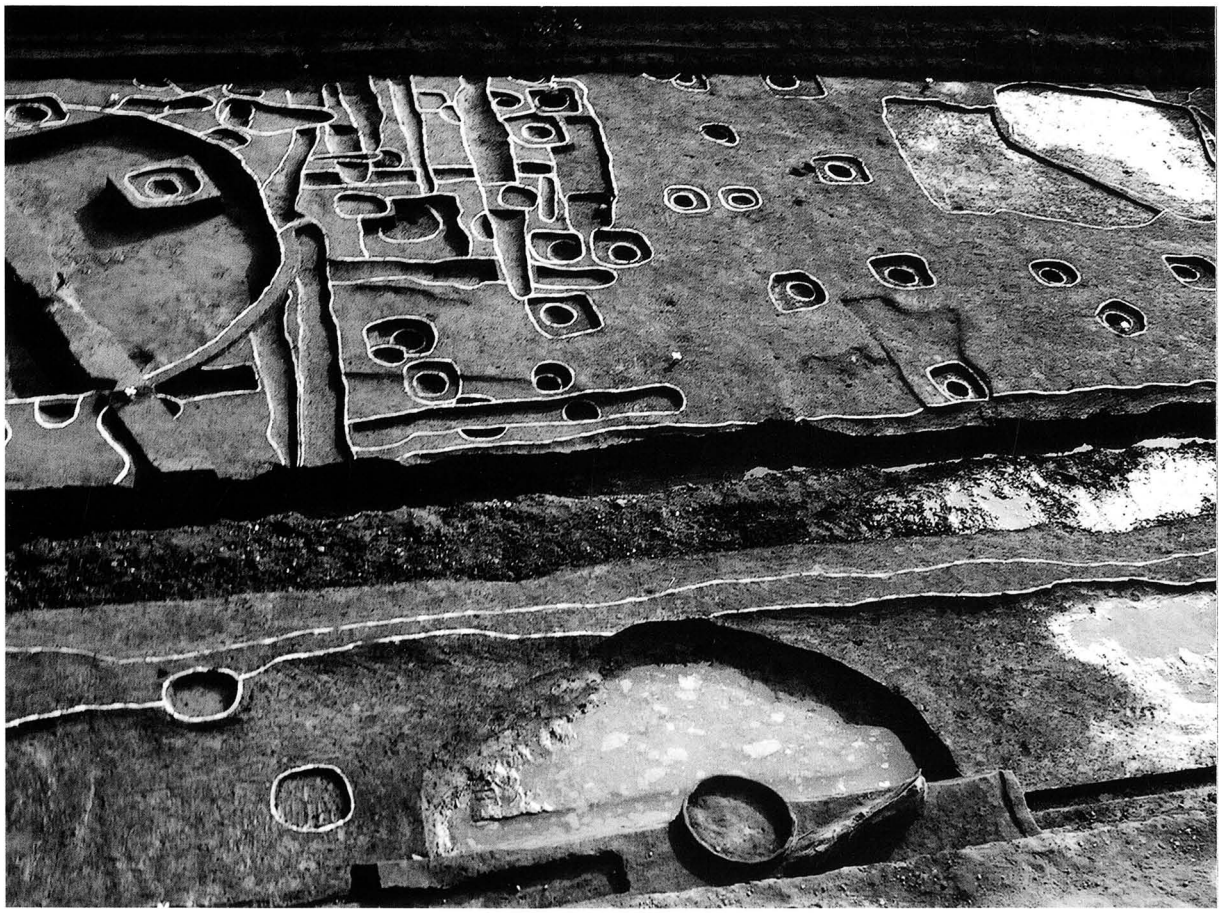


第４遺構面A東半検出状況（西から）

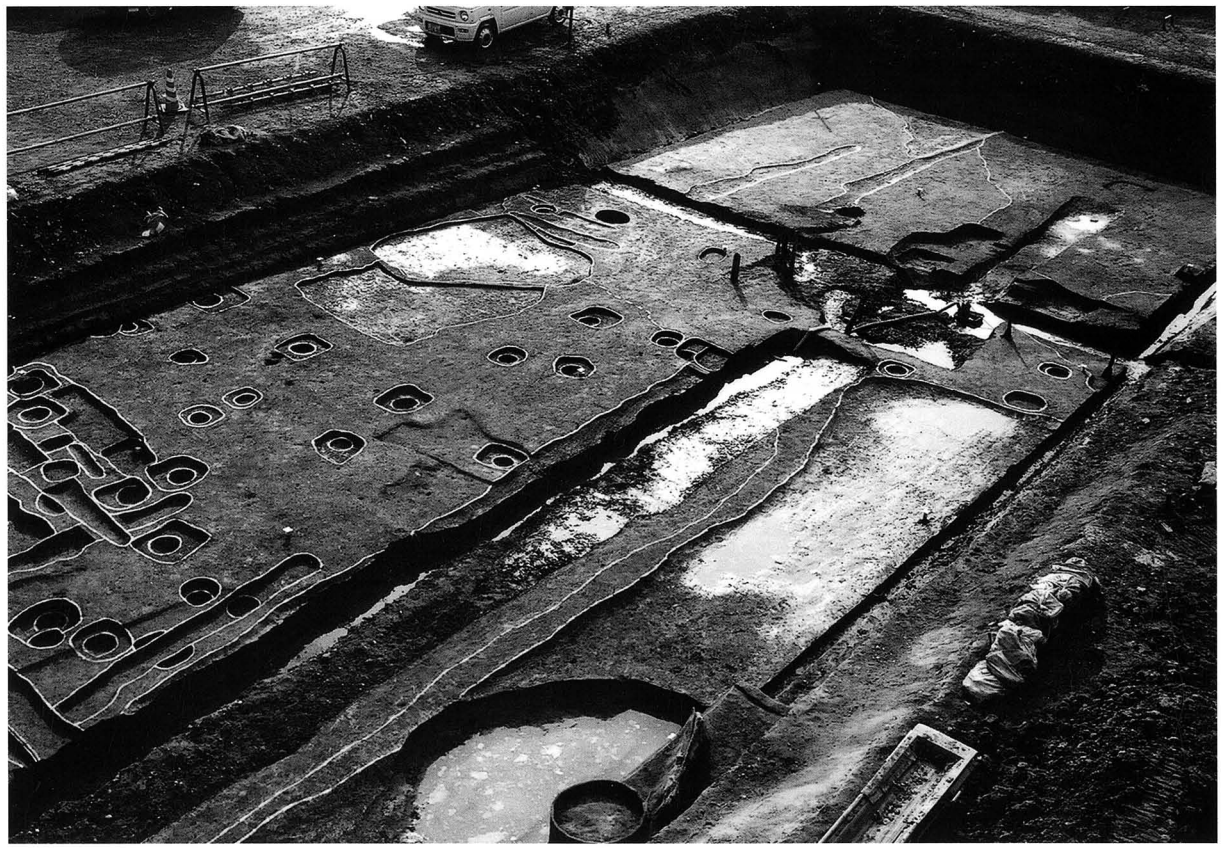
第４遺構面A（垂直写真）

第４遺構面A（上：西南西から、下：南から）

第４遺構面A東側（北北西から）

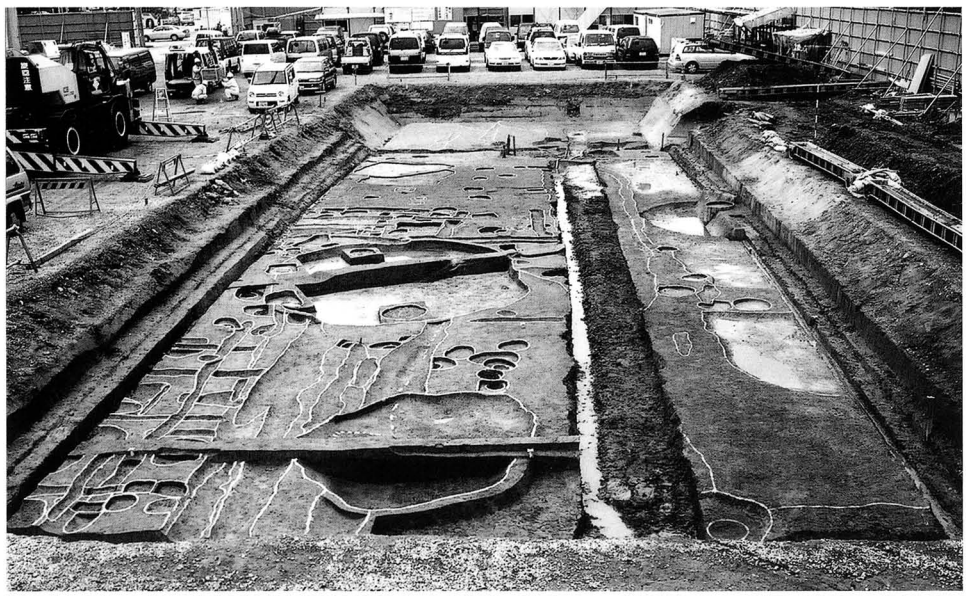


第４遺構面A中央（北から）



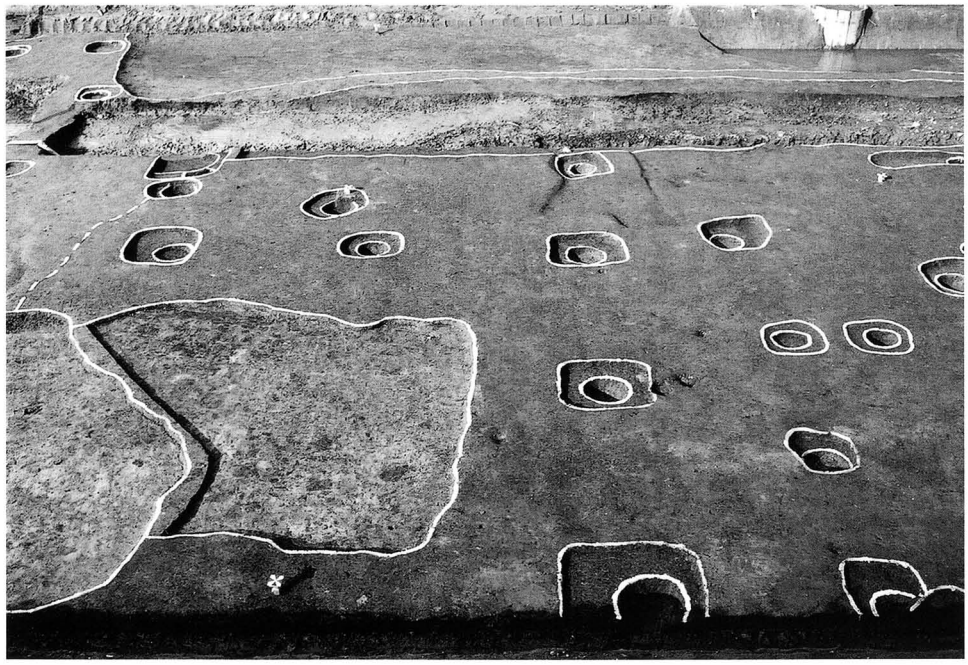
第４遺構面A西側（北東から）

第４遺構面A（東北東から）

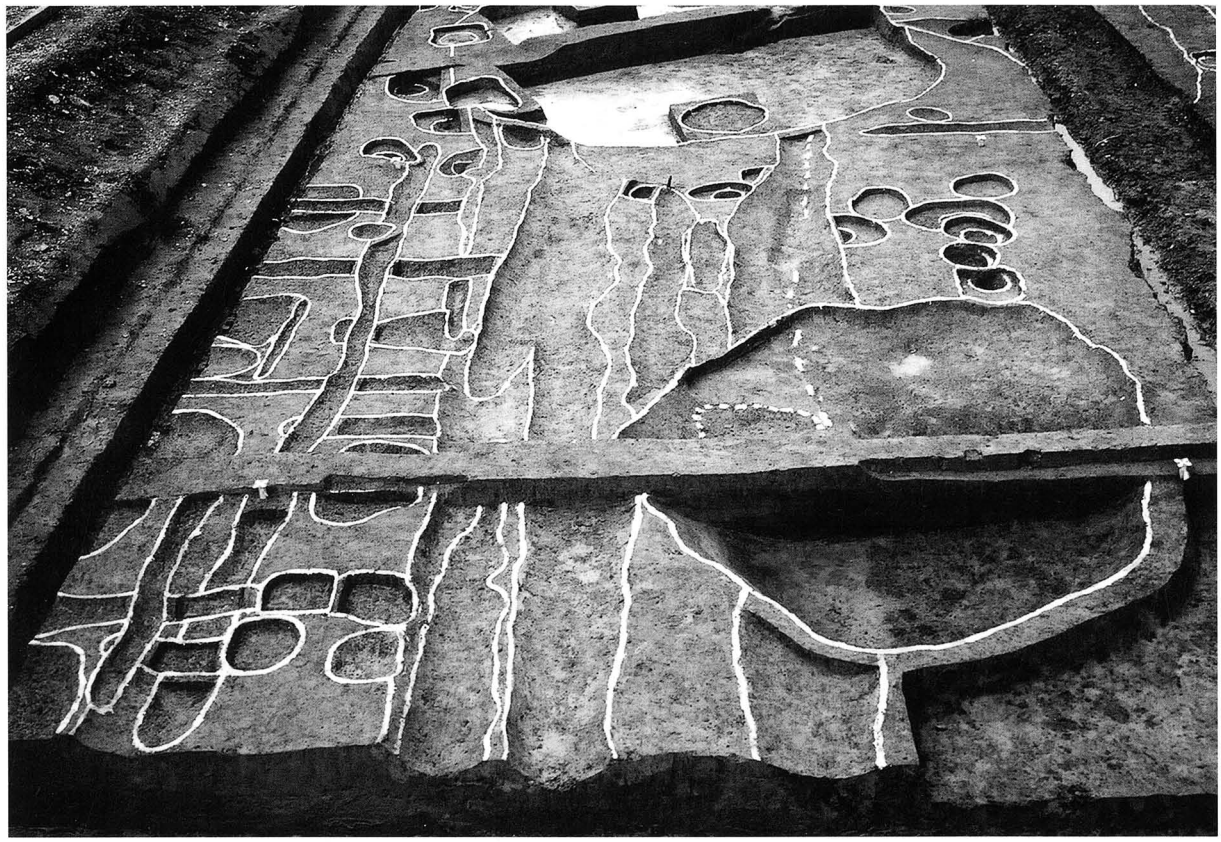


第４遺構面A（東から）

第４遺構面A中央
掘立柱建物上面
（南から）

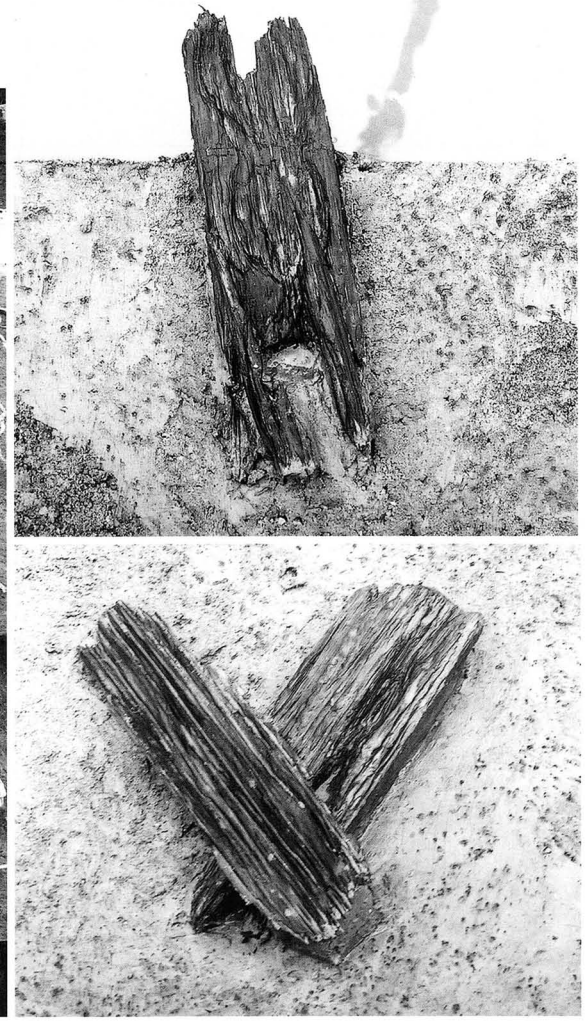


第４遺構面A中央
掘立柱建物掘下げ
（南から）

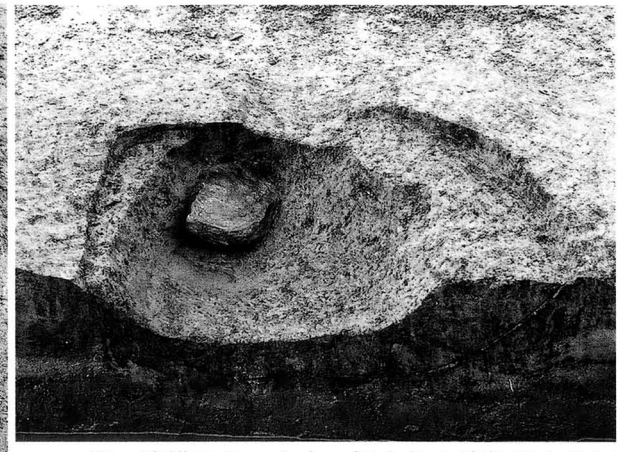


第４遺構面A東側　東西溝（東から）

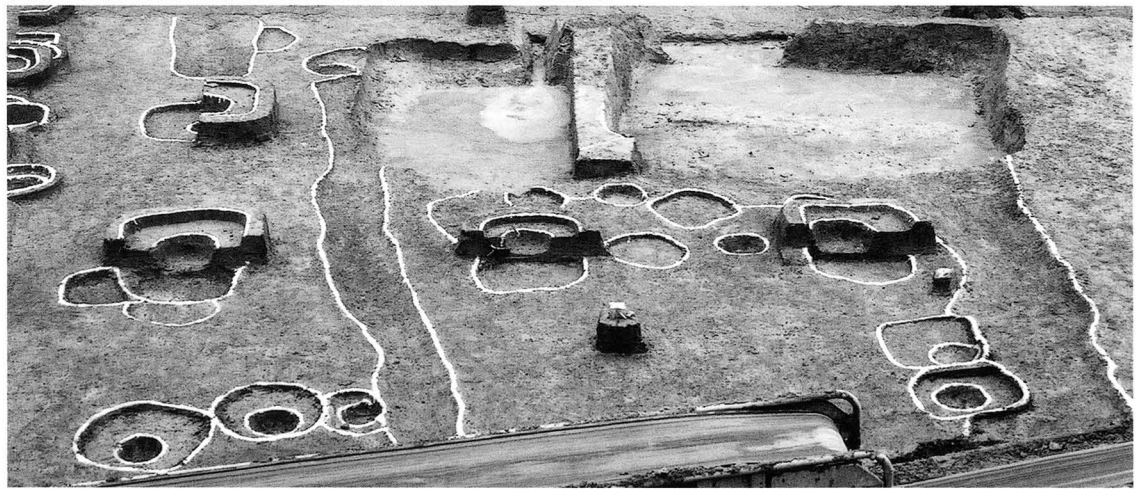
第４遺構面B東側　掘立柱建物（東から）



第４遺構面A東側　掘立柱礎板（南から）
上：P204、下：P240



第４遺構面Ｂ　中央　掘立柱内遺物出土状況
（東から）



第４遺構面A中央　掘立柱断割り状況と第４遺構面B（北から）

第４遺構面B（西から）

第４遺構面B（西から）

第４遺構面C（東から）

第５遺構面（東から）

報告書抄録

ふりがな	しんかみこさかいせき
書名	新上小阪遺跡
副書名	府営東大阪新上小阪住宅建替（第１期）地下雨水貯留槽工事に伴う調査
巻次	
シリーズ名	大阪府埋蔵文化財調査報告
シリーズ番号	2005－７
編著者名	一瀬和夫・大矢祐司
編集機関	大阪府教育委員会　文化財保護課
所在地	〒540-8571　大阪府大阪市中央区大手前２丁目　TEL. 06-6941-0351
発行年月日	2006年３月31日

ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード		北緯	東経	調査期間	調査面積	調査原因
		市町村	遺跡番号					
しんかみこさか 新上小阪	ひがしおおさかし しんかみこさか 東大阪市新上小阪	27227	163	34°36′49″	135°35′35″	2003年６月26日 ～ 2003年11月16日	1212㎡	府営住宅 （建替）

所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
新上小阪	集落	古代 中世 近世	古代：溝、ピット、落ち込み、井戸、土坑、掘柱建物 中世：溝、ピット、島畠 近世：溝、島畠	古代：黒色土器、土師器、須恵器、磚、瓦 中世：土師器、瓦器、瓦、陶磁器 近世：土師器、陶磁器、瓦	南東部の微高地を中心とした古代の屋敷地の形成。掘立柱建物、それ囲う溝。土器片などを利用した整地層も見られた。

新上小阪遺跡

府営東大阪新上小阪住宅建替（第１期）地下雨水留槽工事に伴う調査

発行　大阪府教育委員会

〒540-8571　大阪市中央区大手前２丁目 TEL06－6941－0351

発行日　2006年３月31日

印刷　株式会社　中島弘文堂印刷所

大阪市東成区深江南２丁目６番８号 TEL06－6976－8761